

午庵道鏞の天桂批判（III）

——陽松庵所蔵道鏞の訴状と天桂側陳状資料翻刻——

憲 部 志

既に「午庵道鏞の天桂批判」——午庵の訴状をめぐつて——
（『駒澤短期大學佛教論集』第三号、平成九年十月三十日）と「午

庵道鏞の天桂批判（II）」——午庵の訴状に対する天桂側陳状

資料——（『駒澤短期大學佛教論集』第四号、平成十年十月三十
日）と題する小論を発表した。今回は上記小論の基礎資料とし
た「訴状」と「陳状」の全文を翻刻した。「訴状」とは兀山（一
六三六）—七一五の法孫午庵道鏞（一七〇一—？）が天桂（一
六四八）—七三五刊行の『報恩編』、『海水一滴』及び万回一
線（？）—七五六刊行の『証道歌直截』等の版木廢棄を閔三
刹や寺社奉行所へ訴えた願書を指す。また「陳状」とは道鏞
の「訴状」に対する天桂側の反論、陳状資料を指す。両資料
とも天桂開創の陽松庵（現大阪府池田市）に所蔵される。今回
曹洞宗文化財調査委員会が蒐集し、同委員会が複写所蔵する
上記資料の複写及び掲載許可を得る事が出来た。

「訴状」の構成を簡単に紹介してみよう。「訴状」は『道鏞

魔子菅訟願の表題で一冊にまとめられ、次の五つの文書に
分かれている。タイトルと末尾の記録は次のようである。尚、
以下【】内は筆者註。

『道鏞訴状資料』（I）

「1御奉行所江差上候道鏞願書写」（尾||元文四年未年|一七

三九】正月 紀州名草郡岡田村薬師堂花藥庵 道鏞 寺

社奉行所【宛】

「2願書再要文 天桂不知正法眼藏由來之事」（尾||御三寺
御役局足下 道鏞）

「3タイトル不明」（尾||余條々別録一卷并呈之 元文三年戊

午四月 紀州名草郡岡田村花藥庵 道鏞

「4別訂」（尾||元文三年戊午四月）

「5願書別呈要領」（尾||元文三年戊午七月 紀州名草郡——

重奉呈 関東御三寺 御役局足下）

次に天桂側の「陳状」資料を紹介してみよう。陳状資料は一冊（表題ナシ）で、表題裏に

魔子道鏞絶板之官訟二付陳状并別訂等之對辨之草稿也。後來為心得認置者也。是内分之沙汰也。

退藏峰什物

と記される。これらの記述から推測すれば、道鏞の「訴状」

に対する陳状・反論等の草稿資料であることがわかる。内容は以下の如く七構成（タイトルは原文書のまま記述した。又、番号は筆者が仮に付したもの）となっている。

『天桂側陳状資料』（II）

「1滅板願之大意」

「2宗門一師印証大意」

「3別訂答釈」

「4乍恐陳狀」

「5陳狀之内申残候事」

「6タイトル不明」

「7兀山遠孫道鏞僧、天桂注解一滴・報恩編、玄光述作之俗

談、一線注解直截等願訟之大意」

※以下上記構成通り『道鏞訴状資料』（I）と『天桂側陳状資料』（II）に大別し、各文書は上記の仮の番号で記述し、

タイトルは不明のもの以外、原文書のママとした。尚『道鏞訴状資料』（I）の「1 御奉行所江差上候道鏞願書写」は既に河村孝道氏が『正法眼藏蒐書大成』の「月報」20、昭和五五年四月に全文翻刻紹介されている。又、【】は筆者注記。□は判読不可。

『道鏞訴状資料』（I）

「1 御奉行所江差上候道鏞願書写」

【表題】『退峰肉暖堂書 道鏞魔子管訟願全』

【内題】『御奉行所江差上候道鏞願書写』

乍恐以書付御訴申上邪書滅板邪説禁制被仰付被下候様ニ奉願御裁断候事

一、近年、天桂、一線と申曹洞宗之両僧、過分ニ名利、世譽を求メ、邪見、驕慢、毒惡之情識を以て正を仮里邪を助け、和漢古今書物に就て前後に邪書を作り、開板いたし、世間に流布仕候。其書中之趣、御公儀御代々御条目之公明を掩ヒ、万代不易之制禁を破里、一宗開山道元和尚所伝之根本、一師印証、面授嗣法之宗旨、永平、總持両本寺、関東三寺の掟を違犯仕、殊更開山之秘書正法眼藏を滅却仕、古來之御真筆九十五卷、永平寺其外古跡之寺院ニ有之候を、

天桂我儻に抜キ指シいたし、道元四代之法孫義雲和尚六十
篇之頌古、着語に泥ミ深意を錯る。己が邪義之証拠に申成
シ、弁註と申仮名がき之鈔を作り、祖意を失て様々新義に
奇怪之法を説キ、類を聚メ党を引、是を書キ伝へ、講釈し
て一同に宗義を惑乱仕、御停止の御触をも用不申。誠に一
宗比類なき法賊にて御座候。若諸人、天桂が法を聴聞信仰
仕候時は、各々臆度推量を以禪宗之妙旨頓理と心得、事相
之如法に六か敷、弁道、修行、坐禪、戒律之仏制に背キ、
却て放逸懈怠を以て頓理活達之作略と紛らかし、人欲之得
手に引入、愚人を惑ハし、利養之勝手に能ク諸事心易キ方
方に被成候故、老若ともに聞習ひ見習ひ骨隨に面白がり申
事、恐者前代未聞ニ御座候。且又、和漢御一同之官板大藏
經之中ニおひて、六祖壇經と申書をも所々我儘に文義を削
リ、私説を申立開板仕候。最初板行之節、書物屋仲ケ間異
論ニ及、京二条之御吟味ニ而御取上ヶ被成候を、天桂亦題
号斗を書き替板行仕、即海水一滴と申候而五卷流布仕候。
又、報恩編と申書三卷を作り、和漢之古人を誹謗し、剩ヘ
宗門室中仏祖伝來之嗣書血脉合血等の事をも、たとへ開山
之真筆ニ而も天桂は全ク肯がハズ、怪説なりと申立、道元
和尚之家訓に違背仕候。天桂死後、無程、予州より一線と
申僧、永嘉証道歌之直截とて註釈之様成書物二卷を作り、
三年以前己春、御府内ニ而板行いたし、駒込吉祥寺ニ而講

釈仕、彼寺之藏板にいたし大勢之徒党を結び、天桂と同道
に御條目を破里、開山之宗義を欺き、両本寺之徒を犯し、
一宗之諸人を惑乱仕、憍慢無実之妄義を以て正法を破壊仕
候。依之拙僧一旨不肖ながら骨隨に徹し歎ケ數奉存、不得
止、去年四月中旬より関東三寺江御訴申上、彼書物御吟
味之上、御公儀御旧例を以て不残、滅板被仰付、一宗ニ重
而御國法違犯之者無之、開山之正法永仰キ、両本寺之徒相
立、諸人之恵命御助被下候様ニと只管奉希候而、両僧板行
邪書之内、邪説邪解大概弁拆を書立、願書別訂要文と申四
卷迄段々拙僧方より三箇寺江差上申候得共、添簡迄も被差
戻、表立御取上も無之、彼是及延引候。尤去九月下旬より
極月十六日迄始終三四度も内分ニ而其方願ニ而彼書有潰ニ
も可致哉と被仰聞候。又其以後之仰ニは、天桂已に死後之
事也。一線とは対決無之、片吟味ニは難成旨被仰聞候。拙
僧申上候は、彼が書意は御政道ニ背キ宗義に差ひ候事は、
乍恐拙僧書付之表ニ大概申上候。若御法式に拘ハらず宗旨
之家訓ニも構無之。私分上互格之出入ニ候ハゞ、対論を願
可申上候得共、忝も御国制と申、祖訓と申、不易之定法ニ
付対論を望候而是、上を侮リ祖師を輕じ申事故、対論は得
仕間敷と申切、其後は出席も不仕候。尤拙僧委細ニ書上候
趣と彼書と熟読対照被成下候ハゞ、御政道ニ違犯之旨、公
私之道理黑白分明と乍惶奉存候得共、片御吟味之筋ニも有

可間敷様ニ奉存候。ケ様之事共ニ而拙僧本望、今ニ相違シ不申。最早貧僧永々在府托鉢之生涯も此節ニ至、甚因窮難儀之仕合ニ御座候。然共一時之権勢ニ伏し、万世護法之志願を捨可申道理無御座候へば、此度不奉顧惶、御訴申上候。右禪宗ニ而一師印証、面授嗣法之儀者、諸仏諸祖、三国伝來正法弘通之根本、永平開山第一之家訓ニ而、近者從御公儀、元祿十六末年八月、両本寺、関東三寺、可睡斎江被下置侯所之御条目、御八判有之候得ば、誠に天下之公事にして、天桂、一線、是を違犯仕候事、仏制之内ニおるては殺生、食肉、犯姪よりも重キ事に候。宗旨の家法を守さるものハ、國賊同様之事ニ御座候。依之偏ニ御願申上候。哀レ以御慈悲、明白ニ御吟味被成下、仏法、國法、分明ニ相立、一宗におるて永く再犯之輩無之様ニ、幾重ニも奉願候。乍恐彼書物御許被得置候而者、両僧同前之邪書邪説次第繁昌致し、正法を破滅仕上ハ、御国法違乱仕、御政道ニも乍恐相障リ可申様ニ奉存候。若又、此度申上候儀ニ付、外より多勢を以て彼両書之趣も正法なりと強而申立、鹿を馬と申、玉を石と欺、權利口之輩有之候とも、邪意之臆度、公家之撻に背キ、開山之繩墨を迦^{ハスレ}候而、援外之長處者無之儀ニ奉存候。依而委細之儀者、逐一願書別訂要文等之内に呈上仕候条、乍恐御高覽被成下、速に御裁断被成下候は、拙僧蠻蟻之実儀を成就仕、難有奉存候。且は、今日一宗之

弁道修行仕ル諸人之恵命を御救被下候、歡喜大幸ハ難尽筆紙。仰上之仏祖及護法之天神地祇までも、誠以御公儀之政教、正明之活化によつて、向後末代に至迄、正法御回復し、【盛德泰山大海之御洪恩を感動給ふ儀國に乍惶奉存。誠恐誠惶頓首敬白。

元文四末年正月

紀州名草郡岡田村薬師堂

花藥庵

道鑄

寺社御奉行所

「2 願書再要文 天桂不知正法眼藏由來之事」

此外ニ群案といふあり、願書別訂の註釈、天桂物語壹卷天桂叟曾テ毫髮モ道念正修行ノ事、師支ニ就テ參學決釈スル事無ク、不學貢慢ノ者故、晩年ニ正法眼藏ヲ拈弄スト雖モ、元祖ノ玄旨ハ且置、其ノ述作編輯ノ根本由來ヲモ知ラズ。妄リニ取捨シ、自他ヲ惑乱スルコト不^レ些。茲ニ専ラ考証ヲ記シテ其ノ誕ヲ責ムルコト如^レ左

△元祖御年三十六、嘉禎改元乙未冬至ノ日、編集^ニ古德^ノ機縁三百則^ヲ、分^テ為六卷、自号^ス之正法眼藏^ト、自序有之、右本ハ相州岡崎紫雲寺之室中有^レ之、乃文明辛丑二月五日、写^ニスト之^ヲ濃州脛長法幢寺^ニ、奥書有^レ之^レ。

△紀年錄ニ仮名ノ正法眼藏者、元祖ノ親筆、懷葬ノ門人隨^テ出ルニ編錄スト云々。

△永平ノ室内ニ乃有^リ諸惡莫作ノ卷一、肥後ノ広福寺有^リ重雲

堂ノ式、坐禅儀、行持卷等一。皆元祖ノ親筆^{ナリ}也。

△隨聞記六冊、懷辨和尚興聖寺ニ隨侍之日集之。辨師ノ門人跋有之「大乘寺益堂和尚所持本也」。其跋ニ云ク、今集錄六冊ヲ調レ卷ヲ、入ル仮字正法眼藏拾遺ノ分内^ニ。共ニ嘉禎年中ノ記録ト云々。

△今ノ版本ニハ跋無有焉。然則真□仮字同是レ元祖ノ所^ニ自題^一也。実ニ無レ疑矣。真字ハ卷數三百則六卷、元祖ノ御在世之日既ニ定ル。仮字ハ卷數未^レ定。而至^ニ御滅後建長七年乙卯^一、辨師校正シテ得^テ七十五卷ヲ、以^ニ現成公案^ヲ為^ス卷首^一。以^テ出家ノ卷ヲ為^ス尾。是為^ス全部ト。此ノ時猶有^ル拾遺分^一、如^シ前ノ六冊ノ跋ニ謂^フカ之「天桂^ガ言^フハ編集始^ルト于義雲^一、甚誤レリ矣」。

△元祖示寂ヨリ至^ニ五十一年乾元癸卯^一、經豪ト云者就^ニ十五卷^ニ作^レ鈔ヲ。豊後泉福寺ノ影室^ニ于^レ今^ニ秘在^{セリ}焉。影室^ハ非^下標^{スル}題号^ヲ者上。

△永平室内ニ現^ニ在^リ秘密正法眼藏二十八卷合三冊^一。元祖御滅後三十五年、弘安戊子年季秋晦日所^レ写^レ之本也。此中數二十卷^ハ雜^ハ載^{タリ}于七十五卷之間^ニ。而八卷^ハ無^レ有^ル焉。称^{スルハ}秘密^ト、說^ト洞上室内事^ヲ、或呵^{スル}他派龜髓之事^ヲ者也。是乃元祖辨翁深密之遺意^ニ、而後世不可^ニ疑怪^一者也。

自^レ古俗典^{ニモ}亦有^ニ内篇外篇^一。禪書^ニ或有^リ内集外集語要秘

鈔之旧例^一也。天桂未嘗知之也。

△義雲和尚本六十卷、元祖滅後七十六年、嘉曆四年己巳、乃於^ニ懷辨七十五卷中^ニ拔^ニ集五十卷^一、而分^ニ行持卷^ヲ為^ス上^下二卷^ト。且別所^ニ散在^{スル}九卷集^ニ添^メ之^ヲ為^ニ全部ト。為^ニ六十篇^ト。除^ニ秘密二十卷^ヲ、作^ニ頌古下語^ヲ「在本錄者是也」。

△懷辨和尚本^ハ七十五卷、雲^ノ本^ニ所^レ収之九卷無^レ有^レ焉。

△義雲和上七十歲、集^ニ六十六卷^一。此集有^ニ授記卷^一、無^ニ面授嗣書卷^一。別^ニ有^ニ深密之意^一。城州永正寺、芸州洞雲寺同六十卷、是由^レ写^ニ雲本^ヲ也「天桂着眼」。泉福ノ本七十五卷、雲和上^{ヨリ}三十年已前、經豪抄^ニ錄之^ヲ、乃乾元二年癸卯四月十五日、首尾六年間終^レ功、或点^ニ夏九旬^ヲ、或占^ニ毎月七日^ヲ、一部七十帖談了云々。此抄自^レ一至^ニ七十五^ニ實智房^一說^シ了^ル。泉福鈔ノ奧書^キ也。然則天桂^カ弁注謂^ニ六十卷^ノ外、或師之偽撰妄添^ト、削^レ之者彼^カ蒙昧^ニ、而謗^ニ先德^ヲ之重罪也。

△竜泉寺通幻和上喪記「重板一卷行^テ也」、有^レ付^ニ自性都寺

天真嗣書卷^ヲ。有レ付^ニ正果監寺了峰^ニ転法輪^ノ卷^ヲ。又曰正法眼藏全部寄^ニ写^ス丹州^ノ永沢寺^ニ。此三百年前既付^ニ弟子^一寄^ニ写^{ルトキハ}永沢^ニ、則義雲本雖^レ不^レ収焉、妄リニ可^レ疑乎。

如^{キモ}坐禪箴^ノ、亦雖^ニ雲本^ニ不^レ収、三百五十年前、祇陀大智和上亦覽^レ之作偈云、坐【仏何如殺仏機、乃翁毒手許誰】

知、又且生死卷有^リ永平寺^ニ。弁道話卷禁門某氏為^ニ秘宝[。]

皆是元祖^ノ親筆也。【元禄年中永平晃全禪師、統前之九十二

卷乃為九十五卷、大乘^ニ山和尚亦集為^ニ校正^一焉。卷有^ニ前

後^一、文有^ニ短長[、]語有^ニ重出^者、蓋惟元祖先在^ニ興聖寺^ニ後在^ニ永平^一、示^レ衆則其語亦自改革增減、而再^ヒ示^レ之[。]

者、其例不^ニ二二^一。故年月日時之記錄亦雖^レ有^ニ不同重出[。]共^ニ是元祖親慈親言之所^ニ露出^{スル}也。乾坤三代芝岡和上、岡崎^ノ大用和上、禪定^ノ月舟和上、大陽^ノ丹嶺和上、所^ニ親筆[。]乃諸州古禪林所^ニ秘在^一、全部各或^ハ七十三卷。或八十四卷皆真本、不可疑焉。天桂老賊不知^レ之、妄弁注議論者、可^レ惡ム之甚也矣。

面授文字出所事 天桂所集義雲和上六十卷之

内、以^レ有^ニ此字^ニ為^ニ考証[。]

四十一袈裟功德卷、四十六無情說法卷【五十七安居卷、及義雲錄上堂、其外諸卷諸所有之】

正法眼藏之何卷ト云——ヲ天桂皆ナ改テ作^ノ何篇何章[、]

元祖ノ真筆親言を滅シ去ルコト其罪大ナリ。抑、元祖ハ村

上天皇ノ苗胤、久我ノ源氏ナル故ニ自然ト禁苑秘閣ノ書法ヲ得玉ヘリ。故ニ正法眼藏ヲモ向來ノ源氏也。宇治十帖等ノ卷題ヲ比シ玉ヘテ何卷ト記シ玉フ。諸卷御法ノ文モ正雅シテ、古今京家ノ和歌者流モ皆ナ御仰羨申ス所ナリ。シカアルニ天桂蠻僧不学ユヘ、太平記ノ劍キノ巻ト云モ不知シテ我意ニ章篇ト改メ来レリ。嗚呼夫レ俗家ノ我父祖ノ遺書於ケル孝義ヲ憶テ妄リニ改ズ。然則天桂ハ為^ニ元祖^一不孝不義ノ賊孫乎。

嗣法授記之事

天桂弁注ノ中嗣法授記事ヲ惑乱ス。今略弁之。

△伝灯錄正宗記等ニ有ル馬鳴龍樹西天ノ諸祖ハ、多分仏ノ

懸ニ記シ玉フ所、其伝ニ載スルガ如シ。又經論ノ中ニ有ル授記^一、コレ嗣法ト同アリ異アリ。祖釈分明ナリト雖ドモ、天

桂ガ如キ毫モ弁了セザルヲ如何セン。又皆当作仏ノ授記ニシテ面授ニ異ナルコト不知。渾淪ニ解スルハ濫ノ甚キナリ。夫レ嗣法ハ付法藏、唯面現授ニ非レバ其義ヲ不成。西天四

七二三、永平元祖マデ五十一代ハ是レ面授ナルコト、祖説太分明ナリ。天桂妄添ト云フハ誠ニ弥天ノ罪ト云ツベシ。

若天桂が説ニ順ゼバ今日ノ二郎三郎モ直ニ釈迦ニ嗣法シ、迦葉ニ位を立ブベキカ。是妄談ナリ。況シヤ玄光ノ万里千歳ヲ去リ隔ツルノ俗談ヲヤ。仏祖ノ意旨ニハアラズ。

△天桂弁注ニ曰、授記卷過量ノ言句アリ。面授ノ巻ニハ拾

ガ之七八ハ三藏小乘ノ説相ノミ。恐クハ是レ後人ノ偽撰ト

云々。桂叟甚不知ナリ。供養諸仏、帰依三宝、三時業ノ諸

卷二三藏小乘ノ説相ヲ引キ示シ玉フ。皆ナ真説ニシテ決シ

テ后人ノ偽撰ニハアラズ。天桂ハ元祖ノ經論ヲ引用シ玉フ
深旨ヲ不知。夫レ元祖ノ言フ上乘一心トハ三乘十二分教ナ
リ。大藏小藏コレナリ。又言ク四諦トモニ唯仏与仏ナリ。

実相ナリ。仮性ナリ。如レ是ノ文意桂叟ガ如キ局見ヲ以テ、
可否ヲ論ズル愚賊ノ又愚也。

△報恩編ノ中ニ永平ノ嗣書合血等ヲ怪説ト云イ、縱永平高
祖ノ親筆ナルモ老僧全ク不肯云々。此レ天桂が魔説ニシテ
徒類ノ尤所ニ称歎也。夫レ面授ハ仏祖ノ洪範典模ニシテ、
三国祖々嫡承シ来ル底ノ真儀。嗣書ハ是レ面授ノ信譜ナリ。
天桂専嫌之者屈レ理ニ執ソ相ニ、決シテ己ガ非ヲ蔽フノ賊ナ
リ。迂ナル哉、世間往々ニ汝ガ事ヲ知レリ。藏セドモ露ル、
ヲ如何ガセン。且ツ永平寺ノ室中ニ現在スル開山正伝ノ嗣
書一軸ト、及ビ日本國中洞宗ノ寺院、古今諸和上師ノ所レ帶
ノ嗣書血脉等ハ、天桂及ビ徒類ハ見テ怪説トスルカ。伝テ
信譜トスルカ。

如上之件々此度御訴申上ル所ノ骨目タル故、謹録呈ス

御三寺

御役局足下

道鏞

「3 タイトル不明」

直截曰、初祖至五祖云々○彼俗僧云々○仏祖之法云々○
若心伝云々○如永嘉大師云々○龍樹云々

右「專但宗儀ニカ、リタル事ユヘ以別書訂レ之呈レ之。

帶「世法」而明「宗旨」者次下ニ連書ス。且此下文義欲レ易レ
通雜「片假名」而書レ之。

一、況ヤ論「面稟代付於化門表」者ナランヤ哉。近世高名ノ老骨
尽ニ力於護法而不レ知ニ已自撥ニスル「無三寶」〔已上直截本
文〕。此一段ノ文甚以世法仏法ヲ濁乱シ、高祖ノ宗綱ヲ破
り、先達ヲ謗讟シ、師心ヲ抗慢シ、官令ヲ拒ム。其罪愆一
ニナルヘカラス。蓋夫レ元祖面授一章ノ大義ハ、玄玄妙蜜
之通理ニシテ、震旦鼻祖ノ降儀モ此ノ現成ノ外他ナシトオ
ホユ。所以ニ面授卷云、爾時云々。コレスナハチ仏、祖、
迦葉尊者ヨリ二十八授シテ菩提達磨尊者ニイタル。菩提達
磨尊者ミツカラ震旦国ニ降儀シ、正宗普覺大師慧可尊者ニ
面授ス。五伝シ曹溪山ノ大鑑惠能大師ニイタル。一十七授
シテ先師大宋國慶元府太白名山天童古仏ニイタル。大宋寶
慶元年乙酉五月一日、道元ハシメテ先師天童古仏ヲ妙高台
ニ焼香礼拝ス。先師ハシメテ道元ヲミル。ソノトキ道元ニ
指授面授スルニイハク、仏、祖、面授ノ法門現成セリ。コ
レスナハチ靈山ノ拈花ナリ。嵩山ノ得髓ナリ。黃梅ノ伝衣

ナリ。洞山ノ面授ナリ。コレ仏祖ノ眼蔵面授ナリ云々〔已上本文〕。如レ是文章未参究ノ学者及ヒ外人ノシルヘキ道理ニアラス。見サルモノ不レ知モノハ、多ク事縁の見ヲナス。シカニアラシ〔其旨別述〕。某甲草芥顛蒙ナリトイヘトモ、知識ノ示論ヲ聴テ粗其深玄ナル道理ヲ窺フ。然直截ナル者事理妙融ノ文理ニ背テ、面授ノ正法ヲ中興スル近世ノ人師ヲ以テ撥無三宝ノ人トソシル。此一言ハ近師〔彼決指梅峰円山二師〕ヲソシルニアラス。高祖伝來ノ正法ヲ破り、祖室を墮ントスルモノナリ。公命ヲ犯シ、録制ヲ拒ムモノナリ。己ガ意見ノ暗キヲ不レ顧、面授ノ正理ヲ誤リ、己ガ断続ノ曲見ニアテ、龍樹ノ若有定性ノ文ヲ引テ証破スルモノハ、本ヨリ近師ノ意ニ契ハス。況高祖ノ意ヲヤ。直截力邪見正法ヲ訕黷スルモノ。夫レ過逆ノ罪ト云ツヘシ。仏天ノ誓李世間ノ妖嬖、今若不レ攘則他日噬レ脣悔ヒアルニ至ン歟。爰以某甲頻奉レ訴焉〔其面授ノ義意ヲ錯ルコトハ、下ノ大乘曰之処、合三弁ニ白之〕。及別訂ノ中節々訴之也。

一、遂ニ為ニ之辭「大陽親ク付ニ青華嚴」。痛哉自甘テ為ニ闡提人ト〔直截本文〕。此段亦誣ヒ人ヲ任ニ于口ニ誇ニ大言」。欲レ令レ陷ニ邪径ニ之讃詞也、縱ヒ夫為ニ代付而ニ親付之辭而授受有ニ道理、而不虛則面代俱ニ通。豈レ貶ニ闡提人哉。況親付有証、非近師ノ私造。然ニ誣テ咎ヲ近師ニ課セ、剩ヘ撥無闡提ト謗ス。若シソレ近師闡提人ナルトキハ、從上の祖位、

元祖長淨翁乃至達磨大師迦葉阿難釈迦佛モ俱ニ闡提人ナラシ邪〔□例ニ釈迦弥勒是他奴等之言〕。世諺云、惡レ僧者惡ト率爾ニ以謂ク、投子代付ノ事ハ永平実錄等ノ中ニ有テ、後モノ偽撰トルニ足スト。此意ハ本天桂老叟ノ暗解ヲ襲来ルモノナリ。彼妄弁云〔弁注彼不レ版而物故、彼徒類往、伝写シテ称ニ奇貨〕、広錄中偽ニ撰大陽投子機縁、欲ニ瓦合ニ面授、浮山代ニ付投子之事。已洞済不レ怪。支那扶桑天下叢林誰不レ知レ之。不レ見、授記篇ニ云〔今議桂叟引文、皆乖ニ文意、誤ニ祖意〕。或人作ニ統絃ニ彈ニ駁其説。痛快矣」、紀年広錄実錄衣襪等ノ四書、偽ニ撰大陽投子ノ機縁、請以正レ之〔已上〕。是桂叟恣ニメ口飾ニ己乱嗣之非、引ニ率ノ叢林之多人、以欲レ為ニ与力」。愚哉。不レ想、十斛駒乳不レ敵ニ一滴獅乳」。抑面承親授曾テ異途ナキ所ニ、浮山代付ノ浮言ニヒ出テ、其響ヲ接スル□多シ。独リ天童淨翁苦、訂レ之。永平元祖伝之。其說的確ニ広錄寶慶記紀年錄ニ載ス。其面授ノ現成ノ法必然ノ理ナルカ故也。於ニ大陽投子之間ニ、一ヒ為ニ代付之説、弃ニ恩義ニ趣ニ利譽、淨翁叱レ之。元祖挽トモ夜光ノ珠ヲ投スレトモ多クハ、劍ヲ按シ、驚疑スル者アリ。冤哉。^{フタナカナ}天童永平ノ為メニ賊人タルコト、某甲苟不レ顧ニ短

才今更弁之。

紀年録〔永平寺愚門禪師撰述〕、淨翁云、世言大陽絕嗣太惑り矣。五灯浮山章言三、大陽明安無嗣者所以付直裰皮履者、作者謬妄也。大陽之法嗣七人、興陽剖云云。投子青若其非法器、則大陽因甚付洞上正宗。豈如興陽先大陽一下世上スルナラ哉。而猶言下由無嗣者託法遠、以待來者。可哂矣。乃至就中貽厥之有余裕者、真唯義青乎。然シテ年最少シ。速嗣ハ恐ハ有難。是以預付法遠、以記義青「直截著眼、此事你党多為代付之証者非也。若只言授記、且可聞耳」取於他家。其旨深矣。畢是大陽知通明白之所致也。後之撰伝灯者、剽掠典故誣謾ス先德。可悲矣。云尔〔永平録中有大陽投子問答其証也。已上〕。

此本宝慶記二載。実淨翁老親言、其事跡正嚴議論周ノ鼎ナリ。若非淨翁如何弁之。非元祖争達之。達者有面授真者矣。又義青ノ年少キヲ以テ十年ノ潛養ヲ待ツモノハ、大陽毎ニ平侍者ノ惡性ヲ忌ミ避クレハナリ。故大陽臨滅衆ニ告テ云、吾滅後十年無難ナラハ、大陽山ニ供ヲ打スヘシト。滅後十年遺骸ノ無事ナラン事ヲ記セシム。果シテ平侍者後ニ大陽ノ遺骸ヲ掘り出シ、怨言ヲ以火葬ニスト。コレ等ノコトヲ以知ルヘシ。義青年少ノ人ニ密付ノ後保護用心アルコト〔已上詳于大慧武庫〕。然ニ天桂、一線其龜鑑

鏡トスヘキヲ不知不考。永平ノ流ヲ汲ナカラ、却テ宗源ヲ溷濁シ旧弊を執スルハナンソヤ。設ヒ天童永平ノ提誨ナシトイフトモ、面処現成ノ参究アラハ代付ノ付法不是ナルコト知ヌヘシ。矧ヤ淨翁元祖伝承分明ナルヲヤ。請フ莫レ軽自家之訓訳焉。

○直截所引拠投子録ハ其一巻ノ本、承応年中ニ同版ス。檢スルニ倭僧ノ会元等ニ依テ文ヲ出入シ録スルナラン。録中初二但出道階〔法子住芙蓉山〕、跋ニ出子淳撰〔法孫住丹霞〕。録中ニ云燬焯劍等足可怪矣。亦享保年中、道明新版スル二巻ノ投子録モ同ク会元ニ本ツヒテ、後人刪補スルナラン。上巻ノ法語等ハ玉石相雜〔蓋文字巧拙〕、頌古ハ旧本ニヨル故ニ瑕〔二評唱中空谷集等〕ナシ。其行状ト序文ノ如キ真贋有可怪也。其録ノ所出ハ京北野興聖寺〔臨下〕ニ写本アリ。寺主伯瑛、野州那須大雄寺隠居廓門和尚ニ呈ス。和尚書写スル所ノ本ヲ以テ道明新版ス。按ニ録中ノ頌古等ハ蓋是相國寺ノ秘本。唐版ノ続古尊宿録ノ語也ト真贋相雜ヘテ投子一部録トスル〔新版二巻〕ナラン。所以ニ見ル者容易ニ難弁。廓門ノ博考多識ナル、道明カ較閱ノ精細ナル、猶誤惑セラル。況ヤ直截カコトキヲヤ。又縱ヒ後人ノ雜揉ニアラスト云フトモ、会元ノ説ニ本ツクカユヘニ、天童ノ弁斥を蒙ル者ニシテ、永平派下ノ祖脈ヲ嗣者ノトルヘキ事ニアラス。震旦モ昔シ乱嗣ナル者、天下

叢林ノ所レ賤、洞門劇譚ニ弁スル所ノコトシ。又日本中古ノ
錄ヲ偽撰スルコト略シテ「二ヲ挙ン。天童遺落錄」「一卷」
自得暉錄「二卷」曹山錄「一卷」真歇劫外錄等、コレ皆語
句機縁人ノ名字等モ、金沙相雜シエテ容易ニ弁シ難シ。投
子ノ錄混雜真贗モコレニ例シテ可レ考。

一、大乗曰、五十一代一代モ不レ似。三世諸仏一仏モレ不
同。是故一毫モ之不レ受ニ仏恩。片時モ不レ拝ニ師顏「已
上」。大乗曰ト云モノハ、此レ三祖大師信心銘拈提ノ語也。
然ルニ彼拈提ハ近年開版作者不レ知ニ誰人。大乗ト云フ、大
乗ノ宝庫ヲ檢スルニ亦無レ有。然レトモ其語義円明ナル所、
予且弁之。又今人ノ情量不可及ナルモノ。然ニ一線已ニ文
意ヲ得ス。妄ニ己カ推度ノ本無法無斷統ノ意ニ暗合スルモ
ノハ、面授ノ義ヲシラス。彼ノ義意ヲモ錯解スルモノ也。

彼義者、三祖大師毫釐有差天地懸隔ノ文ヲ釈ス。其釈今明
ス。謂ク差モ箇什麼、同モ箇什麼。背触スヘキナシ。五十
余代ノ代々ハ咸ク尽一代ナリ。所以ニ不似也。三世ノ諸仏
ハ諸々皆尽十方、非縱非横、他ナリ、何以說レ同。所以云
「不同」也。然則誰受誰ノ仏恩、一毫ノ誰カアル。縱ヒ有ルモ
亦誰ソ。更ニ片時ノ間隙ナシ。可レ拝師顔ナク、拝スル資弟
ナシ。此ハ是面授現成のノ道理ナリ。体用ナリ。然ニ如独
庵天桂及直截、錯撥ニ面授絶相見。別ニ執ニ無法心伝」。
或以面授為化門一途ノ表儀「卍師与桂叟語同意殊也」。或

貶メ為ニ戲論。從暗ニ推於平等ノ理味。曲テ為ニ祖承之旨。
因僅ニ見下不レ拝ニ師顏「之文」、謂ニ無師自悟無伝之義」。乃
撥ニ生滅断続、別執ニ無法。不レ知ニ其無法還成ニ法之定
性。執ニ無於無、還成ニ定性者決是邪見外道ノ説。以此
猥ニ執ニ宗義者、當ニ言ニ祖門之逆賊乎。若如ニ直截ニ撥ニ授
伝、則得體ト云ヒ、伝衣ト云ヒ、吾亦如是、汝亦如是等皆
為ニ虚誕。從ニ古我宗有二十勝之談者、西天東地及日本三国
伝灯、々灯直拈來而為メナリ無ニ乱統也。然ニ直截カ流ノ邪見
一ヒ起テ、授受ヲ廢スルヨリ、此惡習ヲ接ク族ラ、各々己
見ヲ恣ニシ、獨達ト称シテ仏ノ安居ヲ破リ、授戒ヲ小儀ト
毀テ、千仏万祖ニ背キ、坐禪弁道ヲ間伎ト侮テ、日用只寬
濶ノ樂ヲ習フ、近年太多矣。彼法ヲ信行スルトキハ、恐ク
ハ以後鬚髮ヲ長シ、袈裟を裂キ、魚肆姪行ヲ以、仏法ト談
シ、大乗ト称シ、魔行ヲ以テ眼横鼻直、見性直指ト誤ン「莫
例ニ勝意喜根之事」。嗟コレ人ヲ善道ニ化スルニアラス。却
テ阿鼻ノ門ヲ開カシムル者ナリ。復他ノ小乘ニ乘一乗の教
道、弥陀ノ接取、善財諸參、及真言ノ越ニ摩耶等モ皆可レ為ニ
虛談。三皈入仏法之儀為ニ徒然ニ邪。若以レ此推ニ移世儀、
則將レ破ニ天地人倫之道ニ必然ナリ也。何者大凡世間ノ父母ハ
生育ノ恩アリ。重キコト天地ニ比ス。仏法ノ師祖ハ法身ヲ
生育ス。亦天地ノ恩ニスクヘシ。今若立背恩義、行ニ此於世
間ニ、子不レ管レ繼レ業、資トソ不レ伝レ道「勿例楞伽經於第一

義諦。無_二次第相続之文_一。又莫_レ比_二輪扁言糟粕之事_一」。廢_一孝道_一、破_二師道_一。則猶且無_二忠臣可_レ出之門_一。若夫事_レ君無_二忠心_一、則構_レ逆篡_レ國有_二日之在_一。今若忽之不_レ正、則四農百工_モ終至_二措_レ身無_レ處。直截獨り世間出世間ノ道ニ悖ルノ端ヲ開ク者ハ何ソヤ〔莫_レ例_二棄恩入無為、及殺仏殺祖之談等〕。宗派之図記亦皆生滅之迹耳〔直截原文〕。線也生滅ノ外ニ遁_レテ系譜ヲ廢セント欲スル。其レ生滅を撥テ外ニ仏法ヲ説クモノハ、仏法ヲ説ニアラス。仏法ヲ破ル者ナリ。生滅ニ即シテ円転セサレハ仏法ニハアラス。只是外道也。夫レ曹溪六祖大師以下分_二五派_一、立_二七宗_一、岐派ヲナストイヘトモ、五百ノ身因ヲ説ク。皆仏法ナルカ如ク、青原南岳臨濟洞山子孫漢地ニ遍ク、吾カ日本榮西ハ初テ臨濟宗ヲ伝ヘ、永平次ニ洞山ノ派ヲ伝フ。網ヲ張リ、宗ヲ唱ヘ、開山一代三代ト云也。師資ノ札ヲ行ヒ、本寺末院其ノ規ヲ務ム。我宗法日本ニ伝テヨリ以来、如是條例ミタスヘキニアラス。若此レ宗派図記ヲ不_レ守者ハ、且ク道你何ノ宗旨ソ。而ルニ今一線ナル者大坂ヨリ予州ノ慶寿寺ニ移リ住ス。宗派ナキヤ。図記ナシヤ。此モ亦生滅ノ迹ニシテ用ヒスンハ、汝力渾身何ニ著ント欲スルヤ。抑永平派下ヲ遁ント欲スルヤ。身心ヲ無法ニ寄セテ宗儀ヲ滅セント欲スルヤ。何ソ本無法ヲ生滅ノ上ニ円転セサル。何ソ立一切法中ニ於テ無住ノ本ヲ説カサル。人間ニ在テ世間相常住ト説玉フハ仏

ノ法典ナリ。師資ヲ全フシ、本末ヲ立テ、仏法ヲ行フハ一宗ノ法典ナリ。線ガ若キハ臨濟カ、洞山カ、外カ別ニ你力天地有テ汝ガ法ヲ行ンスルヤ。若然ハ本邦永平派下ヲ離テ、化ヲ他界ニ移シ可ナラン歟〔或云五派法皆如來ノ正法眼藏等者、偏於_二仏上_一説。或云非自法非他法者、偏約_レ理説。二俱偏局於_二宗義_一為_レ害尤深矣。必也勿_二依_レ彼傳教_一。如_二下別訂_一スカ〕。然則線力臆説スル無嗣無法之義、世出世間門ニ於テ、一以テ諸ヲ蔽フノ大惡邪見ナリ。按スルニ達磨大師、得々トシテ降儀セシヨリ以来、面授〔此義他宗ニ不_レ傳コトハ永平高祖ノ弁シ玉フ如シ〕現成転次相繼、即通証契。皆不_レ依_レ情〔無相承立宗、皆可_レ謂_二情立_一〕。広利_二國家_一、普希_二三世_一。誠ニ明々仏敕也。為_二仏之徒_一、怪妄溷_二宗義_一、欺_レ自傷_レ他、特作_レ書〔直截_二一卷_一行_二于世_一〕。講之釈之求名甲〕雖_二隱_一棲于草庵_一、觀_レ無_二人之訴_一之、不_レ堪_二悲嘆_一。誓志_二匡正_一。苟掉_二蟲臂_一。弁_二別是非_一。輯錄奉_レ訴 閔東三大僧錄等役局下_一。戰慄拝首白ス。冀明鑑無_二私囁_一、嚴振_二折伏之威_一、転_二摧邪之輪_一、破_二却彼板梓_一、禁_二邪説之喧_一。國權如山不_レ動、錄命如_レ風靡_二。且_レ宣伝此於一宗之寺院。確_二守_{シテ}祖訓_一、永繩_二來者_一、併是_二于官寺之掌握_一。伏願大慈心、直伸_二吾陽之手_一、速麾_二回_{シ玉_一ハ}仏日_二シ玉_一ハ。恐懼拝呈〔余条々別録一卷并呈之〕

元文三年戊午四月 紀州名草郡岡田村花薬庵 道鑄

「4 別訂」

直截曰原夫初祖ヨリ至于五祖、一人伝一人焉耳。

訂云此線俗論、埋没於宗統、呈愚蒙者也。蓋夫達磨大師有四員門人。曰道副。曰尼總持。曰道育。曰慧可。各言所得而帶皮肉骨髓之印。永平高祖嘗言、イマ參学スヘシ。初祖道ノ汝得吾皮肉骨髓ハ祖道ナリ。門人四員トモニ得處アリ。聞著アリ。ソノ聞著ナラヒニ跳出身心ノ皮肉骨髓ナリ。脱落身心ノ皮肉骨髓ナリ。知見解会ノ一著子ヲモテ、祖師ヲ見聞スヘキニアラサルナリ。乃至正伝ナキトモカラヲモハク、四子オノオノ所解ニ親疎アルニヨリテ、祖道マタ皮肉骨髓ノ浅深不同ナリ。皮肉ハ骨髓ヨリモ疎ナリトオモイ、二祖ノ見解スクレタルニヨリテ得體ノ印ヲ得タリトイフ。カクノコトクイフ人ハイマタカツテ仏祖ノ參學ナク、祖道ノ正伝アラサルナリ。シルヘシ祖道ノ皮肉骨髓ハ浅深ニアラサルナリ。タトヒ見解ニ殊劣アリトモ、祖道ハ得吾ナルノミナリ。乃至四解タトヒ片々ナリトモ、祖道ハタ、祖道ナリ云々。已上祖判如是明白也。但吾ノ祖道毫無輕重而傍以見解殊劣、判旁正嫡庶。古モ今モ世法モ出世法モ其揆一也。且如釈迦牟尼尊、於不二法中現^ハ為主、十方仏為伴、法華作是思惟時、十方仏皆現、及分身ノ

聚依証明ヲ以テシルヘシ。祖モ亦非聯非聚トイヘトモ、灯々続焰シテ專成□賴、世同門モ亦爾。且如輪王、其千子同受血氣、俱具才器トイヘトモ、棟嫡讓位粟散猶爾。豈只一人伝一人ノミナランヤ。阿難下商那和修末田提（正宗記）。又慧可下旁十七人乃至道信下法嗣俱一百八十三人（伝灯錄）。此等人將為何色人。如下上古優婆鞠多下上、得道者最多。特稱無相好仏、而居二十八代之第四。此亦云ニヤ一人耶。不会^四其主伴如三時運有^二旺相。強以愚情曲論仏法。傍若無人而誇大言、却令後學惑。誠其罪不輕者乎。又彼俗僧等者賤他穢言之甚也。黃梅下慧明稟性龐糙、誰人爭衣鉢。言下大悟同師^二黃梅^一。況復古人千七百皆稱高僧。仏有四不輕之誠。豈叨^{リニ}以臭口貶俗僧哉。事雖瑣小其可不慎乎。

仏祖法本来傳無法則、不涉生滅斷常矣。伝トハ也者伝^ア乎心。見^レト師与不^レ見^レ師心伝不^レ與也。是故宗派図記亦皆生滅之迹耳。若執名迹則不^レ知无法也。不^レ伝無法也。

訂云此大蔑減於仏祖之宗法之毒言ナリ。不知原出天桂老叟之飾^レ非、而直截測^レ為己義解。惡愚哉。其^ノ伝^二本来無法^一之言^ハ、本承^ク乎心是無心、伝亦不伝等（海水一滴第一）。又皆拈^二本来無物^一、各自^ニ闡^二揚^一等之愚解^一（參同契毒

鼓十七葉「十二丁ニアリ」。彼レ本拠ニ法本法無法、法々何

會法、及本来無一物之祖語、而錯解ス焉。直截無ニ正知見ニ、陷ニ墜同坑ニ。執ニ無法無物、即自ノ本心本性ニ。是雖語依ニ祖語ニ、義意邈殊。蓋夫法性雖レ不ニ迷悟有無ニ、而迷悟善惡宛然無ニ虧缺ニ。円ニ転スル乎此ニ時仏法即現前ス。所以祖云諸法實相時、有ニ諸仏ニ有ニ衆生ニ等。經云、知ニ法常無性及常自寂滅相ニ等、此是不レ同ニ汝等所執頑無頑滅之義ニ。故他家有ニ三千即空仮中之說ニ。自家有ニ伝法花之談ニ。何不レ思焉哉。若如レ你云ニ法但無法、伝ハ但心伝ト者、無法心伝俱失却、隨ニ于世執ニ墜ニ于想心ニ。不知ニ法性ニ者也。若能円ニ達於法ニ者、不拘ニ碍ニ一隅ニ。故云本来付有法、付了言ニ無法ニ。又云我法ヲ伝ニ於汝ニ、當ニ現ニ大智慧ニ等〔已上〕。祖文灼タリ矣。豈偏執レニ無。亦錯莫ニ屈ニ有也。故大珠海云、真如若無ニ變易ニ、是自然外道也。乃至執ニ真如有變易ニ、亦是外道ナリ也。鑑ニ此等祖意ニ、幸改ニ頑真偏常ニ焉。〔其不レ涉ニ生滅ニ等者、桂叟謂下ルト元祖呵ニ承古ニ、言ニ彼滅度久近ニ、凡情識見故ニ。同坑暗見邪計爾ニ。〕

見レ師与レ不レ見心伝不レ與焉者

訂云、此特達違ニ戾於元高祖面授嚴訓ニ。其原出ニ桂叟飾ニ亂嗣之非ニ焉。便直截流類之骨蒸ナリ也。今搜ニ其病証痛ク下ニ針灸ニ。抑桂叟海水一滴卷一〔四十二番〕云、或觀古仏面授篇ニ云、阿難尊者乃至祖々上、將謂リ臭面築ニ著臭面ニ是面授也。

古仏所謂面授豈レ爾哉。

訂曰、此依ニ附独庵ニ〔号ニ玄光ニ著俗談ニ卷〕伝ニ死病ニ者也。独庵專賴ニ自悟ニ而言〔俗談中語〕、今日所レ争之代付面印、皆摘レ葉遺レ根論ニ皮膚之肥瘦ニ。未知脈病否者也。苟得ニ其旨ニ則、鴉鳴雀噪、本師之法音。森羅万像、本師之面目。雖ニ代付ニ是名ニ面印ニ。真実統ニ仏道之慧命ニ者。苟失ニ其旨ニ則、所謂師資面印ハ、不レ過ニ行屍撞ニ著走肉ニ。乃至師資面印者、非肉团撞著肉团ニ之謂上。得真実義之謂也。苟得ニ真実義ニ則、雖下隔ニ万里ニ去ニ千歳上、是師資面印也云々〔次引証慧文承ニ竜樹ニ、古塔主嗣雲門之事〕。嗟呼独庵老漢博ク有ニ文字名ニ、宗眼未也。其レ以ニ鴉鳴森羅等ニ為ニ本師法音面目ニ者、理ニ会於ニ辺法身ニ為ニ真伝法ニ。此是認ニ法性於法性ニ、無繩自縛而古仏已破ニ斥之ニ了ル。然ニ今拾為ニ已義ニ。亦馮ニ慧文、古塔主ニ取レ証太非矣。他教家者流ハ、依レ書立レ宗。其論也、經也、翻転來、遠推メ称レ祖。且須レシカル。我宗ノ所レ不レ取也。達磨大師渾身現成於無上之法印ニ來、面授受面ハ即面処ニ現成ニメ唯面之外無他矣〔此義意雖祖文明白ニ、体得解者最少矣〕。嗣書章云、第二十八祖西來ヨリコノカタ、仏道ニ嗣法アル宗旨ヲ東土ニ正聞スルナリ。ソレヨリサキハ、カツテイマタキカサリシナリ。西天ノ論師法師等ヲヨハス。シラサル所ナリ。オヨヒ十聖三賢ノ境界オヨハサルトコロ。三藏義學ノ呪術師等ハアルラント疑著スルニモオヨハス。

カナシムヘシ云々。如斯祖文分明ニ面嗣ノ透脱跳出ヲ為道シタマフ。此ノ深旨ヲ參学究スルモノハ、森羅万像即真ノ面目等ト見ルハ、膠スル柱理墮ノ所執、祖師ノ所呵タルコトヲシルヘシ。彼承古ガ雲門ニ不面、而モ真見トヲモヘル、元祖ノ痛破シタモコト可レ知。然ニ今独庵拾其破片、為ニ己義者愚陋甚矣〔此邪解原起独庵。老螺蛤不合ニ呑レ津。直截斧飲。三人呼鐘為甕者也〕。若但以ニ自悟ニ悟義大有所涉勿錯〕為レ爾則、後世侈ニ自見ニ立宗者、有幾多無量〔人人為ニ自得、誰沢ニ邪正〕。元祖呵ニ大惠果ニ意在ニ于斯〔此意亦勿□誤語說嗣法之全意〕。爰ニ知独庵ノ見解於ニ真俗ニ門ニ失レ義、為レ害至多矣。然濫禪之徒、多認ニ如レ此見知ニ、誇リ大乘ト思ヘリ活句。雖レ逢正師之炉冶、奈レ難レ転何乎哉。桂叟奸黠果然承襲來、大ニ誣ニ調於人ヲ。更錯下解元祖所謂一祖一師一弟子、不ニ相面授ニ、非仏、祖、一之文上。分ニ臭面真面、亦作ニ于面授卷弁註ニ云、今時師學聽ニ面授嗣法語、徒為ニ面スル不ニ面之妄談ニ云々。直截見レ師与レ不ニ見レ師、心伝ハ不レ與焉。此ニ三人當ニ同坑埋葬者也。我元祖言、一世モ不レ見レ師非ニ弟子ニ。不レ見ニ弟子ニ非レ師。定相視相見面授來嗣法來則、祖宗ノ面授處道現成ナリ也。此所以ニ直ニ拈乎如來ニ面光來也〔此文弁註邪解如ニ別破〕。此相見ニ即眼処、現成也。面授ハ即面処ノ現成也。嗣法即是仏道也。仏嗣也。如ニ你等ニ貶ニ相見面對於臭面化儀、外貴ニ真面心伝ニ、違ニ

如上祖文ニ。漫ニ呈ニ臆度ニ。謂ニ誘人於邪蹊ニ。具眼的奚ソ入ニヤ你賊社ニ耶。夫ノ撥ニ面授相見ニ、徒ニ称ニ心伝ニ者、才ニ認ニ一毫於大虛ニ、誇ニ渾于滄溟者ナリ也。上古称ニ心伝ニ者、不レ同ニ你暗識所レ測。莫レ如ニ渾淪呑レ棗。今為曉諭ス。經云破ニ微塵ニ出大經卷ニ。又云一塵中ニ有ニ塵數刹ニ。又云一毛端ニ現ニ寶王刹ニ。元祖仏性卷曰、人物身心国土山河無常ナル是仏性也ト〔例知分肉團与真面之非焉〕。又人事即陀羅尼□他家云、拳足下足皆是密印ト。涅槃經云、我身是常身、如レ是文義你等云何看取スルヤ。其称レ心、何不レ解ニ法界之一塵ニ。眼耳鼻舌等亦爾。若以ニ有相無相質碍慮知等ニ、論ニ昇降ニ、還是三乘不了義說、非ニ一乘深談ニ。況得レヤ窺ニ宗旨堂奥ニ耶。蓋心妙ナレハ仏亦爾リ。衆生亦爾。眼亦爾。面亦同。法々塵々咸爾。豈貴ニ鼻直ニ賤耳朶哉。若於ニ臭面肉團ノ外ニ、貴ニ真面常住ニ則、常見外道也。於ニ三無差義、亦大周遍及訖梨陀耶、大円枢極之心等ニ、夢也未レ見在也。噫懸哉。汝等愚障無知。毀ニ誇般若ニ、欲ニ甘為ニ無間之滓ニ。請懺レ焉悔レ焉。

次海水一滴云、嗣書篇ニ云、釈迦仏乃至看ニ之何トカ。亦彼面授篇弁註同引云、嗣書篇、釈迦仏諸仏已前成道也。諸仏末上ノ成道也。更迦葉仏嗣ニ法于釈迦仏。過去諸仏是我釈迦牟尼弟子等。法華唱ニ甚大久遠ニ、無師自悟、無レ有レ可レ説ニ迦葉嗣法師ニ。這處仏法骨髓、參學、眼目、須ニ実拠ニ等

訂云桂叟引文不得其義。強微他家立本迹一門、妄論嗣法云、今日釈迦仏談本門一則、平等唯一乘無住持相続化儀、故嗣書篇云々〔如次上引〕。此久遠實乘無嗣法可說〔已上〕。嗟桂叟對面蹉過。毫不會祖意。以己愚解惑後學。誠其壞〔スル〕仏法之魔黨歟。其祖文云、釈迦仏ハ七仏已前ニ成道ストイフトモ、ヒサシク迦葉仏ニ嗣法セルナリト。此文甚深幽玄、非云下但明ニ久成一撥中今日師弟上。今詳文意。分成道嗣法之二義門、而令下二義融同、更蕩情執參究シム正嗣、真個無碍弁也。既雖三十歲十二月八日成道、而諸仏已前七仏已前成道也。雖已前成道、而久嗣迦葉仏。此嗣近在賢劫而云久。斯知。此嗣是与諸仏前久遠実、未上成道、本自融同一義也。雖本同而久、而嗣迦葉仏、故此嗣是非始有。非本有一。非緣有。非妙有。真秘玄妙仏道仏嗣也。其嗣即久故蕩迦葉仏会下之近謂。成道即以前故融伽耶之近謂。久成不妨今嗣。今成無碍久嗣。証契者証契、大迷人得悟等〔以上意祖文明白、而甚□微妙。遊履華嚴法界法華開顯之場者粗可知歟。初學所不及也〕、無碍同談也。然如桂叟都慮無弁了。只尋久遠於空寂、無円転之道著。強瓦合于己暗解、却吐大言、蔑如於人者幾多。請桂叟流類伏旨謝罪好。

又次云、又跋面授篇乃至審之

訂云於乎老螺蛤怪謠ニ害レ自殘レ人毒邪之最矣。蓋此ノ篇跋、加非面授而四字尤好。会下仮令可嗣法之文勢上、直彰能破之意。是以俾若你愚禿知唯面授受、放私意而称嗣。便対斥之。彼承古者不依唯面授受、放私意而称嗣。便対斥之。云、仮令夫非面授而可嗣法、雖無量劫後可嗣。何五年百年乎哉。尚特千年後、嗣者有下十二倍于汝之力等。此破意炳然。非許有下於千年後、非面授而可嗣法之道上理上、你反戾祖意、為下立有二千年後非面授嗣法之義上。是水火相反。或師於本文無一字改添。為通却本文、於跋語文、如意引文。其例古今多矣〔特山老領永平某禪師之鼎命、考較此書全部〕。故不改添一字。国語饭名法、用高祖之流儀久我家之字。以下於本文梓行時、一字不加知之。若亦無四字意、責下可嗣法不レ可嗣法之所由上、何在耶。請刮膜看。若依你意不加下有嗣法眼則或悟仏知見參聞等數字上〔弁註之語勢〕。則不成義。抑汝錯祖意、私加。与下全篇〔本書〕說面授、取其主意加注上。可否在耶。若確實參詳去、設使面皮厚三寸稍通紅乎。

承古云馬師乃至無時者

訂曰、呆痴漢眼生賢、妄筭空華自困者歟。曲解於元祖能破之意。瓦合于己暗解、飾非昧人。永平門下大罪人也。今詳訂之。承古猥以為馬祖遷化未得五年、其間不

幾許時^一。黃檗縱不^レ見^二其人^一、須親^ク見^二其真^一。而不^レ見^レ之、不^レ見故不^レ嗣。惜哉但具^二隻眼^一。我還雖^レ在^二于^一百年後^一、直識^二雲師^一、見^二雲師^一。斯以承^二嗣于雲師^一「此獨庵語。桂叟門下者認為真伝者、元祖所^レ呵斥^一也。請著^レ眼」此就^レ理恃^二自見^一為得^二嗣法^一。元祖所^レ指斥^一也。言馬大師遷化未^レ得^二五年^一ナルニ馬大師ニ嗣法セストナス。マコトニ笑ニモタラス。タトヒ嗣法スヘクハ無量劫ノ後ナリトモ嗣法スヘシ。嗣法スヘカラサランハ半日ナリトモ須臾ナリトモ嗣法スヘシ。嗣法スヘカラス^ト。文意謂不^二相見^一嗣法スル道理アラハ、無量劫後ナリトモ嗣法スヘシ。況ヤ五年百年ヲヤ。若不相見而嗣法スヘカラス^{ンハ}、半日須臾ナリトモ嗣法スヘカラス。況ヤ五年百年ヲヤ。然ニ不見^ニ嗣法スヘカラサル道理ハ黃檗ノ道取分明ナリ「黃檗喪^二我兒孫^一」。請參究セヨ。承古參学力ナク、五年ノ間ニシテ不^レ嗣。一隻眼トシテ百年後ニシテ親見ノ道理ヲ立テ[、]、自ラ嗣法ノ眼睛ト許ス。今付^レ之也。然桂叟邪解シテ云、承古云^二五年百年^一。言^二滅度^ノ久近^一、是凡情識見。是古仏所^レ呵。又作^二弁注^一云、參^二問於悟仏知見之師眼^一、仮令可^二嗣法^一雖^二無量劫後^一、當^二嗣法^一。筭^二計什麼五年百年年月時日之久近^一耶。故嗣書篇云云ト。

訂曰螺蛤子^カ邪意謂、承古以^二生滅見^一、論^二五年百年日時之久近^一。是凡情識見乃當^二元祖所破^一。而推^二度^ノ不生不滅常住

理^一、以為^二真見^一、為^二嗣法眼^一。斯太暗推也。蓋高祖破意、斥^下推^二度於理性^一、甘唱^二親見^一之非^上焉。五年百年及千年等言、皆相從破^{スルノミ}而已。其黃檗^ノ於^ニ馬祖^一、決無嗣法道理^一。為^レ成^ニ此義對^ニ承古^一。縱奪並難、初且順承古之見^一、設^ニ仮令言^一、縱^メ破^ニ未得五年邪見^一。謂設有^ニ可^レ嗣之理^一、則、雖^ニ無量劫後^ニ可^レ嗣。況五年百年乎^{ヲヤ}哉。若許^レ爾ト^於二千年後^一、嗣者應^レ有^下十二倍于汝^一之力^上耶。是順^レ彼縱破彰^ス決^メ無^ニ此義^一。照^ニ下文^一知^レ之。若不^レ爾十二倍于汝^一之文勢為^ニ虛設^ニ耳。次奪破不^レ可^ニ嗣法^一則、雖^ニ半日須臾^ニ不^レ可^ニ嗣法^一。謂仮令雖半日須臾、或同牀同座來^ト、若面不現成^ニ、授受不^ニ現成^ニ。師資道未現成則、非^ニ真相見^ニ「勿^下返^ニ例之言^上」。設隔^レ世不^レ面、有真見之分^ニ。策起眉毛見仏等之義是也。余處弁之[」]。何以稱^ニ嗣法^ニ耶。況五年百年乎哉。此^レ與奪俱非而示下於^ニ無相見^ニ不^レ許^ニ嗣法^ニ之道理^上。然老螺蛤翻以^ニ縱破^ニ、誤謂^ニ高祖實義^ニ。便為^下參^ニ開知見^ニ則、不^レ要^ニ面對^ニ於無量劫後^ニ、許^ニ嗣法^ニ之義^ト。顛倒之最矣。況稱^ニ面授卷^一、汝謂^ニ如何^ニ耶。以^ニ元祖所破^ニ〔破執真理〕為^ニ你之本義^一。抱^ニ鼠璞^一誇^ニ夜光^一者乎。螺蛤党若聽^ニ此說^一、恐有^ニ妄救者答言^ニ、汝其^レ爾リ、吾亦不爾耶。設使雖^ニ同牀同牀來^ニ、無^ニ真相見^ニ。授受不成、嗣義不^レ立^レ、則、其面對不^レ真必也。然則百年千年後、設不^ニ面對而開^ニ知見^ニ得^ニ真見^ニ則、成嗣法^ニ不可疑。爾^ハ嗣法有得^ニ其旨^ニ。承古嗣雲門^一。独

庵願^二求為霖之法^一。桂叟亂嗣亦皆理之當然。何頻辱之。

訂曰、恁麼說話稍似^レ有^二道理^一、晚學膚識者咸所^二謬執^一也。其自負^レ開^二知見^一者不^レ得^二正師決^一、多認^二魚目^一以為^二明珠^一。設稱久參上士^一者、誤認^二生死迷元^一為^二本来人^一。矧彼輩妄称^メ仏知見^一、都昧^二却仏知^ヲ顛^ニ預仏性^一、衒^ヒ群惑^レ党。然党邪者多、叛^レ正者寡。彼徒鬧浩々地途喧花譁、詭弁揮^レ塵。恬然不^レ用^二官禁僧錄之制^一。酷^ク戾^ニ元祖之宗趣^一、且以^二弁注^一為^二奇貨^一、伝写遂至^ニ數百部^一。党類講演、且誇称曰、螺蛤大師筆削正法眼藏^一、從來叢林所^レ伝之本、為^ニ或師妄添^ニ不^レ取焉。可^レ怪哉。抑夫靈山親付曹溪吾亦如是、汝亦如是、洞山面授妙高台相見、面授現成、故仏面祖面不^レ藏、仏道成非^ニ誇悟見不見臭面真顏之席、若於^レ斯了々則、須^レ称^ニ真兒孫^一。苟理^ニ墮于知見^一者、皆不^レ免^ニ古仏之所呵^一。彼桂叟等此意未^ニ夢見^一在也。不^レ會^ニ黃檗道取之說示^一。其^ノ經書ニヨリテ發明スルモノハ三十釈迦仏三嗣法スルカノ指斥ヲ免カレス。而不^レ合^レ己妄解^ニ則、怪^ニ後人添糅^一。大老耄謗^ニ黜於明々仏勅^一。貽^ニ毒於後毘焉。此是仏法心髓網領、荷法高流希^ハ究^ニ釐^{セヨ}於之^一。〔弁注亦引^ニ見仏章、策起眉毛說取証、亦同不是也。如^ニ余弁^一。厭^レ煩此略也〕。特不知乃至為時者

訂云、是亦不了^レ下不^レ壞緣起円轉於成道為滅^上。但執^ニ平等一斎之理^一。乃以破却面授相見。皆是古仏所破也。

今古乃至而言^レ滅者

訂云、你謂嗣法眼^一者於^ニ面稟相見外^一、咬^ニ著理味骨董^一、以^ニ愚推^ニ虛度。想^ニ正知見^一、橫^ニ分事理本迹^一。以^ニ不相見不面授、無量劫後之妄嗣亂統^ニ計^ノ為^ニ真正嗣法^一。誇^ニ言嗣法眼^一。噫夫只可^レ云^ニ盲瞎^ニ耳。又釈迦成^ニ道^シ于七仏前^ニ、迦葉嗣^ニ法于釈迦^一。更無^ニ前後背面^ニ者、此^レ嗣書卷文、不^レ壞^ニ伽耶明久遠成^ニ、如^ニ法花顯本常在、靈山等^ノ意^一。如^レ你以^ニ此為^ニ本地實乘無嗣統之義^一。謬之甚矣。又迦葉仏嗣法于釈迦^ニ者、亦非^レ撥^ニ前後相嗣^一。於^ニ前後繼嗣之上^ニ、転換^ニ明^ニ本枝如^ニ之義^一。你戾^ニ此義^一、為^ニ不面授不相見無斷統之証者、是你私意不^ニ祖意^一。实夫顛倒衆生哉。又無^ニ嗣法眼^一、雖^ニ半日須臾^ニ等者誠然^リ。如^ニ你無^ニ嗣法眼^一、設^ヒ執侍重^レ年、正師何通^ニ面印^一。若^ニ晒^ニ者撞^ニ著^ニ聾^ニ盲^一。曷許^ニ相見^ニ〔真相見有透脫消息^一。於相見外^ニ勿求真焉〕。雖^レ近已^ニ不^レ見宜哉。面授相見有^ニ跳出之作^一。若反例^レ之、說^ニ千百年無量劫後有^ニ嗣法義^一。依^レ旧是永平門下之叛賊也。或云覺範等

訂曰、此獨庵叟評^ニ洪覺範自就^ニ如來^一、通總立^ニ代付之義^一。桂螺蛤起^ニ等^ニ、就^ニ仏向上^ニ唱^ニ本無法是無伝^一。今推竅則、^ニ老同調俱貴^ニ自知見^一。於^ニ此見理上^ニ少為^レ異耳。蓋立^ニ其代付義^一、不會面授、唯面授而非聚、三世十方仏祖、現^ニ成究竟之道理^一。又其執^ニ本無法等^ニ者、似下他云^中第一義諦中

其意謂、化義是虛妄無實。痴人面前說夢。即今自心上、無二面稟代付可レ論。知之是真正仏向上人。如是則、虛實條然分裂、權實如「水火」。不レ即不融。不レ契「他家之一空一切空、無双照亡泯等之義」。又局「執於己情謂之一自己」。為下謂「リ無レ可「面稟代付」之常心上。豈以「如レ斯見解」、為「洞山所謂仏向上人」乎。徒搜「索仏祖之先、一。臆「度仏向上」□己也。仏向上也。有レ語無実矣。宝鏡三昧云、但能相続名主中主、如是信宜称「仏向上人」者乎。又勿誤認廁屎送尿吃茶喫飯日用光中任運底即是也。「以大珠海對源律師」、他吃飯時不肯吃飯等、及元祖破「語默動靜体安然之執」。而參詳焉」。

又答僧問等者

訂曰於「廁屎送尿等尋常之上談「仏法」。凡跨「禪門」乍入雛僧亂道來底。豈以「之云「先哲未開口之弁」哉。若真個履践底人「ナラハ」、法、須「会取去」。塵、當「不会来」ル。豈廁屎送尿著衣吃飯ノミ云「本得」、從教卷從知識札拝諮詢亦爾リ。六度万行亦爾。乃性□妙修妙行故。所以云「人事即陀羅尼門」。又說「面授義」言、不「剩法」、不「虧缺」。恁麼祖訓如「昼夜」。然如「獨庵及桂叟」、為遂「自之非」、專排「面授之義」。欲下擴「自知自得自爾自証之偏見」、令上「初學ヲ陥「邪蹊」。實可謂永平派下壞法謗法之罪流耳。故訂焉。

訂曰、如桂叟以四獨庵ノ不三一撥絕去於面代戲嘆ノ比三入レ廁謂二寢室ト。今以予見之恃二其自臆見一、為二之真慧命ト。担去担來者、恰如下擬狗著二父祖鑑一謗中于他上者歟。如上件々最違二祖訓一。蠱二害宗義一不淺少。且更作參同契毒鼓一云〔十一丁〕、屬者又錯会スル面授兩字一者也不少。皆是禪眼眸子眊而不レ瞭之所レ致也。因咨嗟。正法眼藏嗣書篇有合血事決後人妄添。古仏豈有二恁麼怪說一哉。縱古仏真筆モ老僧全不レ肯。況乎転写來者乎云々

依レ文拠レ義、破邪顯正。請勿レ担レ麻焉。蓋嗣書篇曰、或指血ヲシテ書写シ、或舌血ヲシテ書写ス。アルヒハ油乳ヲモテカキ、嗣法スル。トモニコレ仏嗣ナリ。マコトニソレ仏ノ得セルモノ、トモニコレ仏嗣ナリ。マコトニソレ仏祖ヲシテ現成スルトキ、嗣法カナラス現成スト云々。又ワカ洞山門下ニ嗣書ヲカケルハ臨濟等ニカケルニハコトナリ。仏祖ノ衣裏ニカヽレリケルヲ、青原高祖シタシク曹溪ノ机前ニシテ手指ヨリ淨血ヲ出シテカキ正伝セラレケルナリ。コノ指血ニ曹溪ノ指血ヲ合シテ書伝セラレケルト相伝セリ。
初祖二祖ノトコロニモ合血ノ儀オコナハレケリト相伝云々_{〔已上本文〕}。此等ノ祖文ハ皆在宋ノ咨參相伝ニシテ寡聞孤

陋ノ私説ニアラス。又後人ノ妄添ニアラス。本朝ノ諸山古道場ニ相伝シ来ル嗣書ノ真文、尋検シテ証セヨ焉。又元祖大宋國ノ五家ノ嗣書ヲ拝覽セラレケルコト「祖説」、豈以^レ虚欺^レ人邪。然天桂叟カコトキハ只理解ヲ貴テ合血等ノ事ハ世間凡俗ノ記証文等ノ如キ浅^レ、ノ事ト想フガ故、高祖ノ宜フヘキ道理ニアラス。此レ後人ノ妄加トス「毎、以^二此見^一破規矩^一貶^二受戒^一等其非可^一見矣」。剩^レ簡篇ニ著ハシテ人ヲ惑ハス。其罪何如ン。シカノミナラス。桂叟マタ正法眼藏ノ諸篇及ヒ六祖壇經ノ中ニオキテ、己カ暗見ニアワサレハ本文ヲ破碎シ、任^レ口妄加妄添ト云モノ五所七所ナラス。今ヤ你カ説ニ駕スルモノ、傲^レ顰我意ヲ長シテ大言ヲ吐キ、膚見ノ後生ヲ誤ル。弥天ノ罪ト云ツヘシ。当來変經ノ中ニ自讀^二文字^一、不^レ諦^二句讀^一、以^レ上著^レ下、以^レ下著^レ上、頭尾顛倒不能明了義之所^レ坂。自以為^レ是者、毀滅正法ノ人ヲ云フ。信哉今詳^二祖文ノ意^一、或指血或舌血或油乳ヲモテ書スル、俱是嗣書ナリ。此仏嗣ナリ。仏現成スルトキ嗣法現成ス。嗣書現成スルハ即仏現成ナリ。此旨最深玄ナリトイヘドモ、情見ノ輩ハ其ノ□ニ隨テ理モ亦局ス。誠^ニ以^二輪廻見^一弁^二圓覺^一。圓覺為^二輪廻ノ法^ト。非幻成幻法。瞪目見^一輪火^一之謂歟。蓋仏祖現成言不^ニ容易^一。其仏法現成スルトキ法、塵々一理一事トシテ無^レ不^ニ仏法^一。嗣^(法脫乎)現成スルトキ指血紙絹綾紗筆[□]墨點皆是仏嗣ノ皮肉骨髓ナリ。若

不爾則、經所謂森羅及方像一法所印トハ虛譚ナランヤ。一毛端[□]王刹。或芥子納^ニ須弥^一。或一人發真十方虛空悉皆消殞等ノ言モ虛詞ナランヤ。指血舌血ハ一毛一塵ニ異ナリトオモフヤ。若此等ノ義ニ達セスンハ華嚴ノ縁起夢ニモ不^レ窺。法華ノ實相毫モ不会。黒如^ニ漆桶^一ナラム。請莫^ニ貴耳賤^レ鼻。更看祖師示^ニ仏性相[□]云、身現相ハ仏性ナリト。乃至余者ハタ、仏性ハ眼見耳聞心識等ニアラストノミ道取スルナリ。身現ハ仏性ナリトシラサルユヘニ道取セサルナリ。祖師ノオシムニアラサレトモ眼耳フサカレテ見聞スルコトアタワサルナリ云々〔已上本文〕。此文ノ如キ身現相即仏性也。眼見耳聞心識等皆仏性ナレハ根塵識殘ルモノナシ。髮毛爪指膿血咳唾モ取捨揃^レスヘカラス。此ヲシルモノハ警咳彈指モ仏性ナルコトヲシルヘシ。剝皮為^レ紙、折^レ骨為^レ筆等ノ事、華嚴梵網ノ經説アリ。是レ何如トカ想ヘル。你亦後人ノ妄添トイハンカ。非^{シカノミニ}爾耳^一、我屋裡ニ傳大士ノ所謂水中塩味色裏膠青ノ言ヲ以テ合血ノ事ヲ明スハ事理不^ニノ合血ヲ參得セシムルモノナリ。然ルニ你カコトキハ、事ノ外ニ理ヲ貴テ不^ニノ現成ヲシラス。却^レ怪説ト謗スルモノハ、誠ニ二眼耳フサカレテ見聞スルコトアタハサルモノナリ。涅槃經十二因縁仏性ノ義、台家ノ唯色唯香等性ハ無作ノ仮色等ノ意。自家牆壁仏性等ノ談夢ニモ通スルコトヲ得

縦ヒ真筆ナルモ老僧全不肯〔已上八字老螺恰骨目主意。參同契毒鼓十一丁〕

訂曰、元高祖入宋伝法。其ノ嗣書現在于永平寺室中。後五百歳ノ後筆墨ノ真迹ニ拵ラスシテ何以為証邪。今夏按牛頭草ヲ吃セシムルコトヲ要セス。識者ノ為ニ弁白ス。你亦云、天童淨翁所付ノ嗣書及明全和尚ノ血脉〔誤為表信解者別所弁焉〕、反遺臭万年者。嗟呼惡口龐語不堪聴。又你三世不改一枚嗣書者、從執任運自爾毫毛道得ナク參究ナシ。波斯喫胡椒之謂歟。其余於海水一滴及報恩編中邪義殆如乱麻。未逐一遑弁レ之。但於下大違祖訓、害宗義、放我意戾條令転輕蔑官制者、專為弁訂斥非責咎。乃茲錄此本根數條奉訴之、謹具高覽伏願慈悲察某愚誠、無明鑑、疾降嚴令、拭邪說明宗旨、整祖室傾頽固佛法金城、芟却門庭荆棘茂蜜禅林蔭涼法灯常輝仏種長統以報四恩、俱樂清世之運、惟ルニ拵水乳在鵝王平章是非皈官權。冀雄命茲宣宣ノ處断之誠恐誠惶頓首

元文三年戊午四月

「5 願書別呈要領」

抑本師釈迦如來万能法身ノ真実体ハ、禪門ノ列祖、嫡々伝授シ來テ、嗣書心印、コ、ニ証契スル者ナリ。百千ノ三昧

無量ノ妙儀ヲ演説スルヨリモ、此レヲ正伝スル人ヲ最尊ノ尊トス。此ノ嗣書面授ノ為体ヲ正伝ト申スハ、釈迦如來、一代正説ノ諸^{モ吉く}ノ經教ヲ以テ、普ク羅漢辟支等ノ諸聖者ニ付属シ玉フトイヘトモ、最上乘ノ心印、微妙ノ正法ハ独り、迦葉尊者ニ付属シ玉フ故ナリ。西天竺國是ヲ第一祖トシテ、達磨マテ二十八代ナリ。皆師弟直伝シテ、一祖一師ノ間モ、代付取続ノコトハナカリキ。其後大唐、日本ニ伝来シテ今ニ至テ単ニ禪宗ニノミ嗣書正伝ノ事行ハル。シカアレハ其嗣法ノ時縁成熟ノ人ハ、皆迷悟凡聖ノ階梯ヲ論セス。透脱跳出ノ參究アリ。乃唯面授仏祖ノ因位ニ連ルコトハ、譬ハ日本ノ皇統、天照大神ヨリ、今上ノ天皇ニイタリ、武門ノ六孫王經基卿ヨリ、当家ノ御代々ニイタルガ如シ。御位相続ノ御筋目ハ、庶姓外家ノ議争ニ涉ルヘキニアラス。家伝ノ密事ハ其御位ヲ継玉フ人ノミ知得シ玉フ。其系因筋目ナキ者ハ、千万ノ材智勢力芸能ヲ兼ヌトイフドモ、伝授ノ位任ニハアツカルヘカラサル者ノカ。

一、曹洞ノ一宗ハ高祖道元和尚、入唐ノ昔シ、最上乘ヲ伝ヘ、無上ノ正法ヲ弘メント志シ、天童山ノ如淨和尚ニ〔達磨ヨリ二十三代洞山ヨリ十三代〕隨侍參學シテ、遂ニ達磨ノ直傳、洞山ノ正脈、如淨ノ親伝ヲ得テ、日本ニ皈り、興聖寺、永平寺ニ法ヲ開玉フ。道元滅後、子孫五代六代ヨリ、宗法ノ伝授、洪大ニヒロマリキ。其後數十年ヲ歷テ、イツ

トナク直授直伝ノ正法紛乱ニ及ヒ、オホヨソ二百余年ノ間、嗣書血脉、取り続キ代付ノ悪風儀ト成レリ。或ハ其師ノ死後ニ弟子ト強為シテ其法ヲ師知ラサルニ嗣キ。或ハ其寺ノ前住死シテ後住トナル。前住ヲ見ス知ラ子トモ、或隠居、本寺代付、取り続ト名ケテ、コレヲツク。各々其本志トスル所ヲ推究スルニ、法ニヨラス。只寺ヲモツ為メハカリニ、取り替ヘ嗣キ替ヘテ、曾テ一人モ此事ヲ怪シミ疑ニモ及ハス。此レミナ一師印証ノ正法ヲ失ヒ、寺院ノ大小貧福ニ隨頭シ、諸位会席ノ上ニテ是非ノ内評儀一決シテ、梅峰、兀テ、國ヲ隔テ、年月ヲ歴テモ、嗣書取続代付シテ、五箇寺モツ人ハ五度取替ヘ。七ヶ寺モテハ、七度取替タリ。時ノ人呼テ伽藍相続ト云。釈迦如来出世以来ノ大惡邪法ノ流行、コレニスキタルコトナシ。俗家ノ家督ヲ続クニ、去年ハ藤原氏、今年ハ橘、来年ハ源平ト替ヘルカ如ク、貞女ノ両夫ニ見ヘサル烈節志氣ニモ及ハサルコト、カナシムヘキナリ。シカル処ニ梅峰、兀山両和尚、此事ヲ骨髓ニ悲嘆シ、面授古來ノ正法ニ復シ^タ度キ志願、胸中ニ積ル事四十年。両和尚六十余歳ノ老苦ヲ顧リミス。元禄十一年庚辰、江戸ニ下向シ、関御三寺工願書ヲサケ。四年ノ間、千万ノ艱苦ヲ歷、両師ノ旨趣、東叡山法親王ノ英覽ヲ歴タリ〔両師後日特ニ御顔ヲ拝シ。席上詩二律ヲ呈上シ。叡恩殊ニアツシ〕。弘文院大学〔某ノ〕卿ノモトヨリ、常憲院様ノ鈞聴ニ達ストイヘトモ、邪正決断ノ期ニ至ラス。御三寺ヨリ願書返戻セラ

ル。両師シハラク稽留シ、時節ヲ待ツ処ニ芝瑠璃

光寺田翁和尚、寺社奉行所工噭訴ス。此レニヨツテ、御奉行所ヨリ、紫雲山、海福、東禪、金地ノ諸寺ヲ召シ、禪家ノ嗣法面授ノ事、才家洞家一カト、要旨クハシク尋問ニ及フ。此時諸師ノ返答、梅峰、兀山ニ一同ス。以後段々御公儀ノ御糺問明細ナリ。ツヒテ永平、總持両本寺、江戸工出行所ヨリ、紫雲山、海福、東禪、金地ノ諸寺ヲ召シ、禪家ノ嗣法面授ノ事、才家洞家一カト、要旨クハシク尋問ニ及フ。此時諸師ノ返答、梅峰、兀山ニ一同ス。以後段々御公儀ノ御糺問明細ナリ。ツヒテ永平、總持両本寺、江戸工出頭シ、諸位会席ノ上ニテ是非ノ内評儀一決シテ、梅峰、兀山ト一同ノ願トナル。以下文長シ。コレヲ略シテ記ス。元禄十五年癸未八月七日、阿部飛驒守殿ノ御屋敷ニテ、永平、總持・両本寺、閔三寺、府内三寺、遠州可睡齋、梅峰、兀山等ヲ召シ、御老中、寺社御奉行所、其外諸役人、御列席ニテ大將軍殿下ノ鈞命御條目両通、永平總持両本寺下タサレ、切紙ノ御書付ハ閔三役寺工下タサレテ、宜ク右ノ鈞旨ヲ照写スヘシト云々。此旨一宗、諸国□僧錄、大小ノ諸寺院ニ触レ伝ヘ、各寺ノ住持名字ノ下ニ印ヲ押ス。以上梅峰ノ林丘客話ニ載ス。

其鈞旨 御條目云 第二條ヲ錄ス外ハ省略ス

一師印証ハ吾道元禪師之家訓、自今已後、何之寺院江雖令移住、最初伝授之三物、一生全可帶之。師資相承之外、以他人附法停止之事

右之條々、永平寺、總持寺、就願被仰出候、向後者一宗之僧侶、堅可相守。以上若違犯之輩有之、可為曲事者也。

年号月日 御老中以下御列名判形有之

兩本寺御添触ノ文言アリコレヲ略ス

シカアレハ、一師印証、直面直授ノ正法、中興嚴禁ノ御條目ハ日本國中ノ洞宗ニ允準シ、誰レカ重テ違犯センヤ。此レ元來仏法ノ心髓ニシテ、高祖道元和尚ニモ、後學ノ人ノ為ニ此事ヲ大切苦口ニ仰セ置カレ、面授卷、嗣書卷□□□ヲ和字漢文ヲマシエテ、一通自作し玉フ。一宗伝來真ノ宝書タリ。又唐ヨリ、坂朝ノ時モ天童山ノ如淨和尚ヨリ直授直書ノ嗣書一軸ヲ伝来セリ。今ニ永平寺ニアリ。其外能州永光寺、瑩山ノ嗣書、肥後大慈寺寒岩ノ嗣書、同國悟真寺大原ノ嗣書〔大原芳孚明峰的孫〕諸國ノ古道場ニ開山二代ノ嗣書、往々ニ秘在セリ。大唐テハ五家ノ児孫、禪家テハ共ニ嗣書アリト道元和尚、大宋國御遍參ノ時ニ、一々拝覧セルト、嗣書ノ卷ノ中ニ親筆セリ。元祖虛ヲ以テ人ヲ欺ンヤ。

一、御條目以前ハ一宗嗣法ノ事、一同ニ乱ルニ付キ、取続代付シテ小寺ヨリ大寺へ移住スルヲ人々能譽手柄トス。御條目以後、今ニ三十余年各々相守テ、御公儀本寺ヲ憚リ以前ノ惡風儀ヲ仮リニモ議論シ違犯セス。況ヤ書物ニアラハサンヤ。若シ違犯シタル者アレハ、法中ノ盜賊大罪破法人トテ、本寺錄所ヨリ制止シ、諸國ニテ一院一寺モ許サレス。シカルニ天桂御條目ト道元ノ家訓ニ背キ、先年ノ御廻状ニ

印形ヲ押シナカラ、弟子中、或ハ手前ノ講釈ヲ聞ク人ニ、面授ノコトヲ毀り教ヘ、殊更ニ自作ノ報恩編ト云フ書物ノ十丁目、元祖ノ嗣書ノ卷、合血之事ハ怪説ナリ。縱ヒ永平高祖真筆ナルモ、老僧全ク肯ハスト毀リ。次テ天童所付ノ嗣書、明全和尚所伝ノ血脉等、永平寺ノ藏中ニ秘在スルヲ毀ル〔別訂之内弁之〕。又嗣書、面授卷ニハ後人ノ妄添アリト云ヒ。又六祖壇經ニ註解ヲツクリ開板ス、海水一滴ト云フ五卷アリ。種々無益ノ語、六祖ノ書旨ニ背テ、私説最モ多〔其書ヲ見レハ此事イツハリナシ。別ニ弁シヲワル〕。天桂死後三年ヲ歴テ、大坂ヨリ一線ト云フ僧、別シテ邪知妄弁ヲ長シ、永嘉ノ証道歌ト云フ書ニ直截トテ二卷注ノ様ナコトヲツクリ。江戸ニ下向シテ版行講釈シ〔彼書ヲ見レハ此旨イツハリナシ〕。御府内、御役寺ノ御見聞ヲモ憚ラス。自讃毀他、詭弁滔々ノ瀾ヲ翻ヘス。諸人ヲ惑シ、宗門中古ノ惡風儀ヲ沿襲シ、狂解ヲ專ニシ、天桂ガ邪説ニ左袒ス。〔某甲〕微財不□ノ一僧タリト雖トモ、一宗ニ比類スクナキ、所為都鄙ニ流布シ、見聞ニ忍ヒス。悲嘆ノ余リ自分ヲ憚ラス。條々二人ノ罪根ヲ挙テ、以テ訴ヘ奉ル。大凡事ハ小ヨリ大ニイタル習ナレハ、先ニ一線ガ罪状ヲ挙ケ、後ニ天桂誑惡ノコトヲ結ス。委細ノコトハ前ノ願書ト別訂ノ両卷ニ記ス。此ニハ略シテ要ヲ挙ケ、恭奉レ乞〔電覽〕。

一線僧事〔願書別訂之中ニ、委ク記ス。今但三條ヲ挙ク〕

一、直截二巻ノ中ニ引用スル諸經論、皆ナ教乘ノ判釈ヲ知ラス。故ニ的当ノ理ナシ。揀別ナク、教ヲ率合スルコト、他宗見テ豈嗤笑セサランヤ。線ガ妄昧、他ノ禪者ノ有識ヲ恥シムル者ナリ（祖意ヲ錯ル事ハ願書別訂ノ中ニ一々弁シ了ル。

今略之。但シ教家者流嗤笑スル一宗ノ僧ノ讚揚シ版行シ聴聞シ信スルハ怪哉」。

一、直截曰、遂ニ為之辭、大陽親^ク付^二青華嚴痛哉。自甘為^二闡提人^一云々。

愚哉線也、古今不易ノ憲章、事理ノ根基、仏門國家ノ大体ニ違セサルコト、夫レ御公儀ヨリ、中興一師印証ノ御條目ヲ下サレ、道元禪師ノ家訓ニ□シ（線也眼ヲ開テ御條目ヲヨメ）、二百余年ノ惡風儀ヲ根本ノ正法、師資面授ニ回復セシ事ハ法門ノ大幸ニシテ、今ニ三十余年ヲ歴タリ。シカルニ一線其ノ宗門ニ於テ、剃髪徧參、出世住持セル者ニシテ、却テ違犯ノ輩トナリ（御條目ノ文ナリ）。惡風儀ヲ好テ書物ヲツクリ。御公儀、御役寺ヲ恐レス。剩ヘ闡提、無仞性、無量ノ罪垢所纏アル人ト痛ミ毀シリ。若シ夫レ線ガ暗ニ指ス処ノ梅峰、兀山、闡提人ナラハ釈迦、達磨、天童、道元、護法ノ聖天子、大將軍、老中、寺社、両本寺、関御三寺、府三寺モ皆闡提人。仏ノ出世ニモ救ヒ難キ、信不具□性ノ人類乎。シカアレハ一線ハイカナル聖人生仏ソヤ。ツヒニ

箇様ノ惡言邪意ヲ以テ、諸人ヲ善道ニ誘フモノヲ見ス。ソレヲモ忍フヘクンハ、何レヲカ忍ヒ許サ、ラン（大陽青華嚴之事ハ古人モ胡乱道ス。願書ノ中、大概ニ弁之。今略ス。又別ニ考ヘ一卷有之）。

一、直截曰、宗派之図記モ、亦皆生滅之迹耳

仏法ハ生滅ニ即シテ不生滅之法ヲ円転セサレハ、外道ノ見ナリ。又宗派ノ図記ナキ人ハ諸宗ニコレアルカ。禪宗テハ伝法ノ嗣書図記、或脈正シカラス。其宗此派ノ筋目分明ナラサレハ、和尚号住院等ノ法義ヲコナハレス。宗派ナキハ一寺一院モナシ。世間ノ事ヲ見スヤ。源平藤橘菅家、伴氏ノ系図記録アリ。其武将ハ清和宇多、其公家ハ清花攝家ト一々伝承分明ナルヲヤ。線ヤ、偏理ニ局シテ通材変識ナシ。蓋線カ久住シタル大坂ノ寺ト、移住シタル予州ノ慶寿寺ハ宗派ノ図記、生滅之迹トナク、本来ノ系連ナキ寺ナリヤ。

天桂僧事（別訂之中大概コレヲ弁別ス。今ハ數條略シテ非義ノ骨目ヲ挙ク）

一、六祖壇經（藏經ノ中一巻、標^二題曹溪原本^二）文字数二萬六千四百三十四字。大明ノ万歴己酉、徑山ノ寂照庵ニ版行ス。此壇經ハ禪宗モトヨリ法寶ト称ス。唐土ノ天子綸言ヲ降シ、諸學士、官人等ニ仰セ、委細吟味ヲ遂ケ、大藏經中仏說五千四十八卷查次ニ目錄シ入藏ス。夫レ一ヒ藏中ニ

入りタル、本經本錄ニオヒテハ、後世ノ天子、諸官諸僧儒士道家者流トモニ、私ニ或ハ削リ、或ハ加ヘ、本文ヲ改換スル事ヲ得ス。若シ改削^{サフ}スレハ、天子官人ヲ輕蔑スル罪科許サレス。故ニ本文ニ筆ヲ入レタル事、古今決シテナシ〔但シ後人ノ注釈疏解ニ於テハ是非ヲ弁シ抜キ指シタルコトモ往々コレアリ〕。大明中古徑山ノ費隱和尚、藏經中景德伝灯錄ニ天皇ヲ天王ニ改、城南ヲ城西ニ換ヘ、青原下ヲ南嶽下ヘ改削シタル罪ヲ蒙ムレリ。シカルニ天桂ガ如キハ、六祖ノ外紀ヲ「外記一代行業ヲ記シ、門人法海集ム。藏中ノ伝灯錄ノ第五卷アリ」妄作トテ点ヲモ付ス。捨却セヨ、除ケト処々ニテ藏本ヲ指瑕スルワ費隱ヨリモ甚タシ「天皇道悟ノ事ハ五家正統一覽ニクハシク見ヘタリ」。

六祖壇經ハ日本ニテ町板久シク流通セリ「素本首書數通アリ」。中古黃檗山鐵眼和尚、方冊ヲ「梵文ハ卷本折本。中古ハ唐土テ四角ノ本トナル」開板ノ節、御公儀ヘ願ヒヲ達シ、御免許アツテ国家安全ノ祈禱、一切衆生利益ノ為メニ方々勸化シ説法シ、二十余年歴テ成就ス。即御公義ヨリ、吉野山ノ桜數十本ヲ賜ハリキ。シカアレハ總シテ藏中ノ經錄ハ和漢一同ノ官版。人天ノ日月ナリ。仏祖肉身常住ス。一字一句無量不可思議ノ大功能、希有難有、生々世々ノ勝因縁ニアラサレハ、見聞シ值遇シ難キ、尊勝、無上ノ宝法ナリ。シカルニ天桂、海水一滴トテ、壇經ノ注ツクリ、我意ニ其

本文ヲ証拠モナキニ、後世ノ人ノ妄添擬作ノ所アリトテ取ラス。本文ヲ処々和読ヲモ付ス、大言ヲ吐キ、抹却セヨト云也。大ニ旧板本、藏本ノ深趣正理ヲ失スルコト、一巻ヨリ五巻マテ、十余箇所、紙ノ数幾十丁「此事ハ今略。他日呈上セン。別記有之」。右細審ニ天桂ガ所^{シハサ}為ヲ考ルニ都テ藏本ニヨラス。口（只カ）町版ノ異本ヲ考ルナリ。石ヲ宝トシ、珠ヲ遺ス者不少。其浅理鄙辭、学人ヲ邪径ニ誘引スル事、乱レタル麻ノ如シ。今日無知ノ輩ハ、皆珍書トシテ買ヒ求メ講習シ流布シヌ。若人此非ヲ弁スレハ憤怒シテ相毆ニ至ト。哀哉。

一、永平高祖道元和尚、御自作ノ正法眼藏、八十余篇アリ。古來ハ平仮名ナリ。梵清和尚、片仮名真筆アリ「梵清ハ大源孫了堂的嗣。丹州德雲寺開山」。芝岡大用同前ニ真筆アリ「芝岡ハ乾坤院川僧ノ孫ナリ。大用ハ居テ參州岡崎城下」。其外「某甲」諸州ノ叢林ノ経歷シ、処々ニテ此ノ書ヲ抨閱ス。或ハ片仮名、或平仮名、一樣ナラス。円山和尚モ大乘寺ニテ、永平某禪師ノ命ヲ承テ、諸本ヲ集テ校正ス。一字ノ私曲ヲ加ヘス。且ク其ノ仮名ツカヒ考ルニ、永平氏族ノ源家久我流ト見ヘタリ。コノ事ハコレ、最前ヨリ四百年諸国ノ古刹ニアル旧本ヲ見テ知ルヘキカ。天桂不学總シテ文字ノ聯綿章ノ排分布注ヲ知ラス。和学最昧ラシ。元祖ノ仮名ツカヒニ義理ヲ取ルコト得ス。自惑ヒ人ヲ惑ハス。我

見ニ符合セントシテ、原本ノ字儀ヲ改削ス。篇ノ目録モ決シテ六十二ハカキルナシ。又卷ト云フヲ今篇ト改メ章ト云。甚々誤レリ。

一、永平寺中興義雲和尚錄〔出山竜堂序。愚中面山跋〕、正法眼藏、八十篇ノ内、六十篇ノ題目ニ、著語話頭ヲツクリ、義雲和尚ノ意ハノコリテ、二十篇ヲ篇目トモニ捨ルト云コトニアラス。其訳ハ、禪宗ノ本則ハ、一千七百則トイヘドモ、碧岩錄ニハ百則ヲ出シ。無門関ニハ四十八則。自余ノ禪錄三評唱等モ其作者ノ意ニ隨テ出スカ如シ「有人此誤ヲ弁スルコト分明ナリ。若御吟味アラハ呈上ゼン」。経中テ大悲、消災、尊勝ノ諸神咒モマタシカナリ。天桂ハ専ラ、京西岡物集女村、永正寺ノ本ヲハ正本トシ、外ノ本ハ妄添ト云ヒ、サマゝ書込ヲシ、剩ヘ其永正寺本ヲモ、又私ニ加ヘ削リ、反故双紙ノ如クニスルコトハ、如何ナル所行ナランヤ「永正寺本ノコトヲ見聞スルニ、コレノミ正本トスヘキ証ナシ。天桂永正寺本ニヨルト云ヒフラシテ、私ノ改削ヲ加ヘ伝写拝覧ノ者ヲシテ、真本ト思ハシメ、一宗末代ヲ惑乱セントス。今時書写スル人ハ、多ハ天桂ガ贋本ニヨリ、本文ヲ点ヲ付テ書込ス」

一、正法眼藏ハ天桂弁注ヲツクリ。徒類宝書珍物トテ、写シ伝テ数百巻及フ。其弁注ヲ見レハ、或師ノ妄添トテ、古來ノ本ノ字ヲハ、我意ニ改メタリ添ヘタリ。己が知解了見

ノ及ハス、合サル所ヲハ皆筆ヲ入レタリ。天桂実ニ妄添ノ或師ヲ呵責スルナラハ、自身ノ又妄改妄添スルハイカナル所為ト云ハシ。殊弁注ト云フ者モ一定ナラス。両回三度ツクリ改メタリ。所持ノ人ノ写本コトニ差別添削アリ。嗚呼カナシヒカナ。永平開祖ノ滅後、四百年余伝来スル、一宗ノ宝書箇羊ニナリ行クコトハ感涙嘆惜ニモタヘス。此類ナキ所為ニアラスヤ。此レ誠ニ独庵叟ノ名付ケ悼タル、滅宗禪師ナリ。シカアレドモ、初心ノ学者、或ハ天桂徒弟ノ類ハ骨髓ニ信向シ、狂スルカ如ク、醉ヘルカ如シ。彼ノ趣ニ順ス。誠ニ永平ノ宗趣、真言滅亡スルニ近シ。紛乱キハマレリ。コレヨリ以後、天桂ニナラツテ、人々急次第二添削シ書込スルノ例トナランカ「此事ハゴ吟味ノ上テ言上ゼン。今略ス」

一、正法眼藏講談ノ事、并ニ古來ノ本ノ中チ、字ノソハニ、新ニ文字ヲ書込シ、弁注ヲ付ルコトハ、関東ノ御役寺ヨリ、先年一宗ノ寺院工、御停止ノ廻状アリシトヲホユ。シカルニ天桂ハ死ヌ年ノ夏マテ講釈シ、其弟子ノ紀州高松寺抜山モ度々弁注ト本文ヲ講釈シ、同ク隨徒ノ阿州丈六寺正元モ講談ス。其外往々コレアル者ハ御廻状ヲ知サルカ「已上吟味ノ節言上ゼン」。

法然ノ一枚起請書、日蓮ノ御書、親鸞ノ話讚ハ皆其下ノ僧徒曾テ長キ文ヲツヽメ、短キヲ後ニ添タルコト、改メタル

コトナシ。然ル意ハ各ノ其法ヲ重シ、開山ノコトヲ信重シ、本寺ノトカメヲ恐テナリ。天桂ヒトリ六祖壇経ヲ毀削シ、正法眼藏ヲ我ガ儘ニ抜キ指シスルコトハ其例コレヲ聞ス。一、天桂、一線御公儀、御三寺ノ御触ヲ輕蔑シ、面授ノ祖訓ヲ昧却シ、我非ヲ飾ル宿意ハ、一朝一旦ノ事情ニアラス。殊更ニ書ニアラハシ、党類与力ヲ求ルコトハ數年ノ巧謀ト見ヘタリ。

一、玄光自作ノ俗談ハ御條目以前ノコトト雖、永平所立ノ宗旨ニハ違背セリ。シカシ彼師ハ博学能文ノ高名、扶桑國中、古今独歩セリ。世間偏ヘニ此レヲ畏許シ、枉ヲ歛テ正視セス。別シテ天桂、一線ガ邪解曲見ノ根本骨目トス。願クハ永平元祖ノ真語家訓ヲ以、玄光ノ邪解ヲ矯ル繩墨トシ、攝州大道寺ニ告テ、俗談二卷ノ中、嗣法ノ論一段ヲ削り去テ永々後人禍心ノ根本ヲ除カンコト。玄光ノ此論ヲ根本トシ、享保己亥年、玄光門下、瑞門、融仙二人書ヲ著シ、永平ノ戒法ト、廣錄ト、正法眼藏ヲ破シ、面授面稟ヲ妄談トス。故ニ京都二條ノ奉行所ニテ、其版ヲ焚毀セラル〔瑞門、融仙筑前之人ナリ〕

右天桂、一線書物ヲツクリ宗旨ヲ害シ、学者ヲ虛頭ニ導キ、新義ニ奇怪ノ法ヲ説キ、本寺ノ家訓ヲ守ス、一宗ノ法式ヲ存セス、寛文三年五年ノ御條目ヲ違犯シ、禪宗根本ノ一師印証ヲ昧シ、御公儀錄所ヲ輕シ、別シテハ三国伝來ノ藏本

ヲ破シ、受戒ヲソシリ、坐禪安居ノ規矩ヲソシリ、正法眼藏ヲ添削ス。二人ガ所行ハ内艱迦、達磨、道元所立ノ宗旨ニ背キ、外カ聖天子、大將軍、諸官人、檀那護法ノ功恩ニ違シ、両本寺、御三寺及ヒ梅峰、卍山四十年來ノ願望、四年在府ノ苦心、熱腸、田翁忘身、豪訴ノ功勞ヲ破シ、自分モ嗣承ノ本師ヲ賤棄スル義ナリ。シカルニ一宗無智ノ僧徒ハ彼邪法ヲ信向シ、正法ノ事相、謹密修証ナルコトハ蔑棄シ、行解身口不相応ノ頓理龐行ヲ好ム。人イタツラニ理屈ニ身心ヲ陥シ入レ、数百人講席ノ中ニ集リ、只一辺ニ理解ヲノミ信向シ、邪正ヲ弁スルハ半箇モナシ。邪ヲ弁スル人ハ始ヨリ彼席下ニ集ラス。彼ノ邪解ヲ聴聞シ、記持シ来ル人ハ直ニ徒弟ニ説キ、朋友ニ教授シテ、段々ト書き写シ。或ハ在家ノ士女ニ及フコトアリヤ○天桂事老年八十余ニ及故ニ世間ノ習ニテ十人ニ五七八人ハ老年ヲ以、虛ヲ実説ニ肯者アリ○又其妄談邪書ヲ弁得スル人アリトイヘトモ、方々彼ノ類ノ多キニ依テ人情ニ涉リ、時議ニ引キツレラレ、官家彼寺へ出頻注進シ、正理ヲ求メ、御制禁ヲ願ハス。自然ト年月ヲ歴テ、邪説ノ裏滅ヲ待者アリ。○又少々道学具足シテ法荷担ノ志シ有ル人ハ、天桂老叟ハ不学妄談ナリ。蟬噪蠅聚ノ徒侶ナリ。都テ管スルニ足ラスト、我レ一分ヲノミ防禦シ、一默ヲ以テ仏恩ヲ報セントスル人アリ。○又惡風次第二狼藉タラハ、自然ニ御役寺へ聞ニ達シ、御点檢

禁制ニ及時ヲ待者アリ。○又少シモ護法救弊ノ志シナク、邪正ヲ分別セス。只一偏ニ信向シ、永平ノ家訓、本寺錄所ノ條令ニ背テ与党シ、臂ヲ張ル人アリ。已上五段ハ略シテ一宗ノ時勢ヲ論ス。夫レ上古末代、邪党ハ多ク、正人ハ少シ。時勢ノシカサル例アリ。吁冤哉。獅子身中ノ虫タルコト。自ラ其肉ヲ食テ紛々トシテ辟起ス。

總 管 轄 〔今ノ大樹国公版書ノ御触有リトイヘドモ今略之〕

一、玄光〔俗談トハアレドモ、宗門ノ根本ヲ害スル邪見〕

一、天桂〔死後ニ出訴遲シトイヘドモ、世ノ次第見聞者ノ弊ヲ救シコト〕

一、一線〔自身ノ分上ヲ知ラス。少々ノ文才邪智ヲ以テ、先輩ヲソシリ諸法度ヲ違犯ス〕已上三人ノ書物ノ趣ニ立ツ時ハ、決シテ面授嗣法、開山道元ノ宗旨ハ立ス。御公儀ノ御條目、両本寺、三錄所ノ御法度ヲ昧却シ、学者ヲ邪路ニ迷シ、一辺ニ浅見ノ理解ヲノミコトトセハ、人々生釈迦、活達磨、眼横鼻直其ノママト、師家学人ノワケモ無ク、我意法外ニ成リ行クコト洞宗ノ衰乱、今日ニ有ルコトハ、天桂其端ヲ発セリ。又夫レ嗣法ハ宗門第一ノ根本、法寶壇経ハ六祖ノ正説、正法眼藏ハ永平ノ真書ナレハ、誠ニ宗旨ノ根基ニ関係シ、私ノ小事ニハアラス。官府ノ御威□、役寺ノ御嚴禁以テ火急ニ紛乱ノ萌ヲ防キ玉フニアラスンハ、争

テカ又正法ヲ流通セン。〔某甲〕病身貪窮微賤ノ一僧ナリ。紀州ノ山中ニ隠遁ストイヘドモ、此様子ヲ見聞スルニ忍ス。此地ニ下向シテ、二人ノ所為ヲ弁シ、万々憚リ多ク、恐ナカラ御願トシテ、御役局下ニ注進檄訴シ奉ル者ハ、人情時儀ニ拘ハラス、私言ヲ構フルニアラス。一々二人力書物ノ中ヲ証ニ取り、罪悪ヲ顯スコトハ偏ヘニ仏祖ノ法義ヲ正道ニ皈ント御吟味ヲ願ヒ奉ル螻蟻ノ微誠ヨリ發スレハナリ。

伏希明鑑無私照、以「御慈念」弁別シ是非^ヲ、梅峰、丑山、田翁革弊願望ノ發端ノコトヲ思召シ、御公儀ノ御條目ヲ繩墨トシ、両本寺、御三寺、先年ノ御功勞ニ報酬シ玉ヒ、二人カ無益ノ邪書ヲ滅版シ、妄説ヲ禁制シ玉ハゞ、此レ誠ニ中興ノ又中興ニシテ、一宗ノ幸甚、後世一切見聞衆生ノ幸甚、幸孔ナリ。正法ヲ永々ノ永々ニ流伝シテ、禪林有志ノ輩ヲ、誰カ歡喜感載セサル者アランヤ。冀クハ卑心ヲ懲察シ、微言ヲ納采シ玉ヘ。恐惶頓首拝白

元文三年戊午七月

紀州名草郡——

重奉呈 関東御三寺 御役局足下

※尚、この後『開山古仏正法眼藏闡邪訣 全』と題する十六枚の面山著『正法眼藏闡邪訣』が付隨するが、『正法眼藏闡邪訣』は既に活字化されており、ここでは省略した。

『天桂側陳状資料』（II）

「1 滅板願之大意」

魔子道鏞絶板之官訟二付

陳状并別訂等之萬辨

之艸稿也、後來為心得

認置者也、是內分之沙汰也

退藏峰什物

滅板願之大意

退藏峰什物

一、道鏞申立太意ハ、桂師述作之海水一滴、報恩編式書之

趣、御公儀御代々之御條目を破り、開山之家訓面授嗣法之
掟を違犯し、正法眼藏を我儘に抜き指し致し、壇經も文義

を削り、報恩編ニ茂嗣書血脉等開山之真筆ニ而も不肯と元

和尚之家訓違背仕坏と過分に悪口雜言し、為大法身命を不

顧奉願と真実義之様ニ申立候意巧者、卍山自作之衣襷、閑

話兩書に元古仏面授之大本を錯会し、加之、彼師ハ一師印

証之願主として却而御條目之表に違却し、室内的三物等を

胡乱に指注仕候事共、桂師常々嘆惜し開山正法眼藏を証拠

に引、嚴敷被致破斥、且ツ書中ニも其旨弁置候。仍而一宗

の師学、卍山の謬説を弁棄し、開山之正法眼藏を龜鑑と仕

候様に相成り候。依之卍山流類、甚意恨を含居、桂師没後

射時衣裡結党為報冤、道鏞ニ書滅板と願出候得共、夫と者
難申。卍山被願候一師印証に事寄セ、種々の偽りを申立、
表ハ開山之報恩と申、畢竟は桂師派流を没倒し、正法眼藏
之世に行ハれ候を忌嫌し、衣襷、閑話之非義を飾り度、拙
き心底を以て、ケ様之如次第、全無他候。

右之通り悪口雜言種々申立の内、其主意ハ御條目違背
と開山の家訓違犯と之兩條と相聞へ候得共、ニ書之内
右違背違犯之意味、毛頭無之候。道鏞申立候ハ一滴ニ
者、道明得悟之下、面代之評注。報恩編ニハ東西密付
之下、嗣書篇合血の拈弄等右之兩條に押而理屈を取付
ケ申立と相聞へ候。次下会無之

一、海水一滴卷一〔四十三丁〕道明得悟之下之注ニ面授篇、
嗣書篇等之文義、及或師〔卍山所謂〕非面授而之四字等を
議し、面代と本義を致注釈候。依之彼僧御條目之公明を掩
ひ、面授を毀り代付を取立坏と悪口雜言仕歟。此段は六祖
大師、黃梅に代り道明へ付属之下之注故、本書之通り代付
の義、致弁釈候。依之御當代御停止之代付を致評論候ハ御
條目違背と申義歟。然共千餘年以前之書中、代付之事有之
候を致注評候ハ不届と可申ハ經中并ニ諸伝灯共ニ往々代付
之文字有之分は皆々削之可申哉。不届之論ニ而御座候。其
上桂師之本旨ハ學人弁道之用心專要ニ致注解候間、畢竟汝

自心上、有可面稟者乎、有可代付者乎と申掛け、好々可究

明白心源と之文意ニ候。一滴照覧あれは顕明之事に候。尚又桂師一師印証之御條目并開山之家訓大切ニ被致護持候の実之証拠者、於自身延宝年中嗣法之後、何方ニ而も転嗣或ハ致代付候事無之。最初之法一生改不申。鉄心養存惟惠等之諸師と同一用心ニ候。依之法子法孫之内、右之一件相違の方一人も無之事、十目所視ニ候。彼僧御八判之御條目を破り候とハ、何等の事哉。難心得巧弁ニ候。却而彼一派之者、近年法脈を取得し或ハ密付と名付、已前の代付よりも聲風成ル事共行ハれ候。上件之捷法違犯仕候者ハ、彼僧流類ニ數両有之事、又是十指之所指ニ候。

一、報恩編之事道鏞申立ハ宗門室中仏祖伝來之嗣書、血脉をもたとへ開山之真筆ニ而も天桂全不肯怪説なりと申立、道元の家訓違背仕候ト。

右者御公儀御聞済有之所と相心得、前後之文段殺活之弄処等を押藏し本書之理を昧し。姦斗ニ引合広大ニ申立候。其上仏祖伝來之嗣書血脉を不肯とハ無之。報恩編之文ハ〔已下漢文ニ〕正法眼藏嗣書ノ篇に合血之事あり。古仏豈恁麼之怪説あらんや。たとへ古仏之真筆なるも老僧全不肯と〔已上〕。此義ハ桂師為人之用処、甚以道理有之事なり。惣而宗門之知識抑揚褒貶ハ臨時之施設。機に臨て拈弄する時者、一褒一貶、只此等之注勢而已ニあらず、諸伝灯に有之、禪經之体裁、古今著明之義ニ候、此段ハ桂師專本文ニ而之本

意を向上に拈弄し、上ニハ仏祖転展付属底ノ事、多少ノ節目将錯就錯等之注勢。以下二者、宗門中において仏向上之嗣書ある事を為学人被致指点候手段か、如此之会釈如左
○正法眼藏嗣書篇に五派之嗣書拝覽之事を説示し、次云洞山下之嗣書ハ林濟等に異なり、其故ハ青原高祖親く曹溪之机前にして手の指より淨血を出し、曹溪の指血に合せ書伝へける故ニ臨濟等に勝れりと云々。

○又は仏道篇云、五派之門風別ありとい者ば是仏道にあらず、是祖道にあらず、魔党畜生なりト云々。高祖之真語如此ニ候。依之みれば、嗣書篇に指の血をあはせて書伝へける故ニ臨濟等に勝れりと。五派の異同勝劣を品評し給ふ事、たとへ古仏之真筆ニ而も只是為人之方便、臨機の施設にして、全宗乘の実説にあらず。況昨日ハ定法、今日は不定法とハ金口の仏説、殺活時に臨むハ祖門之手段なり。桂師此本に全不肯之三字、實に古仏之言外に宗を会する底之眼睛ニ候、是等之注勢古人之書中ニモ数多有之事、不限候得共其例近ハ

開山正法眼藏云、洞山に五位等之曲説あつて人を接スといはば、仏法争か今日にいたらんやと〔五位は曹洞ノ要訣ナリ。然ニ元和尚ノ注勢如此。願人可申ハ、洞上ノ五位ヲ誹謗し、高祖洞山ノ家訓違背仕と可申出哉〕。

○又永平広録に楞嚴之二文を指して云、是仏説なりといへ

ども外道之見なりと。

○仰山云涅槃經四十八卷惣是魔説と。

○臨濟云一代藏教は不淨を拭故紙なりと「如上の説は諸經を誹謗仕邪見驕慢、惡毒ノ□と申立一々滅板可願出候哉」。

○趙州和尚柏樹子之話千古之公案なり。僧ありて其弟子覺公に問ふ、此語ありとは是なりや否と。覺云先師に此語なし。先師を誹る事なれど「是文趙州之語を誹謗仕と可申出哉」。

○又經云、八相成道を説は魔説なりと「是は諸經之諸相に違背仕邪説と可申哉」。

如上之件之彼僧「□□□□……」□是仏祖之語言三昧なり。惣而如彼平僧者、知識分上為人之体裁舌頭上之殺活〔諸書之用處〕を弁せず。但己れが宿意を遂度意恨耳ニ而候。却而古今仏祖を誹謗壓勝仕事、法外千万ニ候。

右兩條之外二書之内、嗣法面代之理論曾無之。尚又御政道に相障品毛頭無之事、二書高覽被下候得者是歷然ニ候。惣而桂師注書之被致方ハ、第一開山正法眼藏を尊信し祖述し、其外諸大乘之經論并ニ歴代諸祖之法要等証拠ニ引、被致弁釈候間、一点可指障様無之候、然に彼僧右之兩條に疑似之説を取付ケ、宗義を欺き開山を誹謗し、御條目を破り御政道に相障抔と、跡形もな

き偽事を以無失之大罪を申掛け、宗門之知識を国賊法賊等と悪口し、其上徒党を結び与力求候と清平之御代に莫大不吉之妖言を申上、官衙を疎動し、剩右之願書御聞済之上、相手無対決、絶板ニ仰付候様と奉願候由、如何之巧謀情義ニ奉存候。右御書ハ一旦蒙御官許開板仕。其後三大僧司へも、桂師より被獻本候。無一

点之疑怪書籍に御座候。

一、又、宗門之諸山ニ有之正法眼藏、桂師我侫に抜き指し致スと申事、是又傍着無人脱体之偽弁ニ候。

△其の抜指し致候書、何処にあると拝見致度候。勿論

○一派ニ而ハ常々龜鑑と可仕書籍ニ候得共、向上の深譚容易ニ難会事及有之候故、古來より人之ためニ致拳唱候方も無之義、残心ニ被思召而、致弁注置候。然共古來より写本のみに候得バ、或ハ写誤等も有之候間、古刹之諸寺院より旧本借り寄せ、致考訂候節、此字此本ニハ有之、彼本ニ者無之、又此字ハ写誤乎、衍字乎と弁註に申置候。是注者之通例ニ候。經律論之疏抄注書、六祖之評述等皆々同段ニ候。桂師為學徒提唱之節、難有し經意に於てハ不堪忍、涙事耳故、志之有之方ハ纔も經意為致合点度一片心ニ而九十歳ニ及迄、常々此書之世話致し候事、天下人之所知ニ候。然ニ彼僧一己之巧弁ニ而正法眼藏を滅却し、開山を誹謗仕と脱

一、壇經も文義を削り候と申、又是無体之虚言ニ候。一滴之内片言隻字も本文改換不致候。先疑却処ハ本伝を引、私考をく王へ候事、是又注人之常例ニ候。坦經之本と一滴之本文と読合候得ハ、彼者之偽り相知れ申事ニ候。

桂師常々被致噴惜候衣枷、閑語之内、御條目ニ違却し宗門室中の密事粉敷申堅候之私説を造り、古仏面授之深意を錯会し後学を惑ハす事如左。

一、御條目云師資面授、一師印証ハ道元禪師之家訓、自今以後何れ之寺院へ雖令移住、最初伝授之三物「嗣書、血脉、大事」一生全可帶之。師資相承之外、以他人附法停止之事。然ルニ

一、「已下漢文ニ」衣枷「自十二丁至十三丁」云、血脉、大事ハ嗣法に關るにあらず。中古之老宿「何人ゾ」此二物を以嗣書袋中に附入して仮りに喚為三物。全宗祖之本旨にあらずと「私説」。

○又「十八丁」云、中古之師家大事之図、一枚を製すと「無証拠」。

○又云、中古已上永平ニ至て其図あることなきもの貴むべし「今日有之者ハ非法乎」。

○又「十九丁」云、中古疎懶之師資是が俑を作り、彼大事

一物を以て三種之秘書「是又造説」に換却し後学を欺き、記して永平之所製とするもの亦傷しからずやと「已上」。

右之通りニ候得ば大事ハ中古懶墮之者作之、開山之所製と偽り置候。謀書謀判と相聞へ候。若し其義決定ニ候ハバ、元禄年中官衙へ訴へ、中古已下嗣法之混乱を申立、開山ノ旧家訓に復し度旨願上候節、大事も除却し開山御本旨之通ニ可被致事ニ候。無左ニ而、俄ニ此書ニ到り私説を作り、室内之密事を胡乱に指注し、宗義を誤るのみにあらず。他宗他派之見聞も氣之毒と申、桂師常々被致嚴斥候。誠ニ三物相承ハ室内之密事なりといへとも、其要は得法印証之表示也。例せば三種之神祇の如し。三物皆是一大事なり。故曹洞一宗に於て嗣法之人、此内一物も相欠事罷成不申候。仍而御條目にも最初伝授之三物、一生全可帶之と。然ニ衣枷ニハ三物とハ中古之妄称。又大事ハ中古已下之偽作等と紛却申置候者、御條目に違却し室内事を胡乱に指注仕とハ此等之事共ニ候。今日も卍山之私節を借り、御條目ニ相違し開山以来之法寶を輕蔑し、二物は無事甲裏に放在仕候者、間々有之。依之桂師為法為人嚴敷被致破斥候。

〔已下漢文ニ〕

一、衣枷「六丁」云、大凡嗣法之時節ハ悟未悟に拘らず。

但因縁現成寂然感通と。又「七丁」云、是「儀式」に依らしむべし。是を知らしむべからずと、又「二十丁」今日嗣

法大都其人にはあらず。然共面授之正規有之時者、度外に逸出せず。恰も蛇の竹筒に在て自由に曲る事あたわざるが如しと云々〔已上〕。

右之通ニ而永平印伝面授親承之大事と可申哉。大本を

誤る事如此。若曹洞宗之嗣法ハ悟未悟にかかわらず。

但因縁と申時ハ惡俗に授与する結縁血脉と同意ニ候。

其上面授之儀規ニ依る事を蛇^{セキ}を竹の筒に入置同意とハ、

余輕忍なる譬喻ニ候。上件之事共も他宗他派之嘲をも

□へ、尚又、此一件ハ学仏者之恵命ニ候間、何卒從来之人邪説に落入不申様と嚴却、致呵責候。誠ニ宗門之

嗣法ハ悟道之印可証明也。未悟之者何と而証せし哉。

例せバ於武道ハ兵術之許しのごとし、一手も覚へなき

ものへ許しを遣ス事、古今無之事ニ候。惣而衣枷、閑

悟共ニ無実之詭弁のみ。宗門之利益に相成ル事一件も

無之。却而官法祖訓ニ違却し。加之、曹洞一宗之家醜

私説を交へ尽ク書出し臭を万年に残し置手段ニ候。宗

門入室の人ハ衣枷一覽し候得ば弁を待たずして山之

私説を知るべし。

右兀山之書中に宗門堂奥之事誤り、憶断私説大略如此ニ候。此等之評に桂師常々致呵責。且書中にも大概弁斥之。右之意趣を以て彼僧桂師呵責之儀を翻案一滴、報恩之一書却而御條目違背等と広大ニ申立候得共、實に言同言別之邪斗。

只是桀犬吠堯之劣意なり。桂師ハ彼師之誤りを正し、開山之本意を明し、師資面授、一師印証之正義を扶起する已。敢て弁を好む之所為にあらず。伏乞昭亮。

此一篇者直指在府之内、寺社御奉行
牧之越中守殿より依内縁道鑑願之趣
御尋ニ付家老種村定右衛門殿迄指
出候也、是内分之沙汰也

直指記

「2 宗門一師印証大意」

【原漢文。原文に返り点及び送り仮名有り。以下、返り点及び送り仮名の記述に従い書き下す】

夫レ宗門一師印証ノ大事ハ、達磨大師正伝ノ正法、永平古仏伝來ノ家訓ナリト雖トモ、豈ニ啻ダ宗門ノ私端ナランヤ。久遠劫來、仏家ノ條令、尽未來際不改ノ憲章ナリ。吾ガ高祖正法眼藏授記、面授、嗣書ノ三篇中ニ在テ、苦々ニ提携シ玉フ。加旃ス、此ニ彼ニ、布テ此ノ書ニ在テ粲然タリ。

今、小ク要ヲ撮テ之ヲ言ン。抑世雄花ヲ靈山ニ拈シ、大龜氏破顔微笑シテヨリ、心伝、衣伝、両手ニ持シ來テ、綿綿密々今日ニ至ル。蓋シ心伝トハ、以心伝心ナリ。是レ師心ヲ以テ弟子ニ授ニ非ズ。自心ヲ以テ自心ニ伝ナリ。是ノ故

ニ迦葉、衆中ニ抜群トシテ、破顔微笑ノ心伝有リ。是レ之ヲ嗣法ノ実ト謂フ。而シテ金欄衣伝付ノ印証有テ、住持三宝ノ化門ヲ開キ、西天第一祖ノ祖位ニ任ズ。是レ之ヲ嗣法ノ權ト謂。其レヨリ以来タ、二十八伝、東土ノ六伝、続焰聯芳、今日ニ至モ亦復是ノ如シ。然モ權ハ實ニ依テ至ル。未ダ実無シテ權有ル者ヲ聞カズ。若シ迦葉ニ微笑ノ力量無キトキハ、何ゾ伝衣ノ化儀有ンヤ。然カモ權實異ナルニ似リト雖トモ、微笑ノ力量現前スルトキハ、衣モ也タ心ナリ。鉢モ也タ心ナリ。払子拄杖皆ナ是レ心伝ニシテ間ニ髮ヲ容ルベキ無シ。若シ又タ其ノ実無シテ其ノ伝ヲ得ルトキハ、只ダ是レ仮名ノ伝ノミ。未ダ真伝ノ人ト名ヅケズ。將夕什磨ヲカ印証シ、將夕什麼ヲカ証明センヤ。終身師室ニ奉侍スルモ、視聽ヲ対顔ニ孤負スルノミ。未ダ一師ニ見ヘザルト雖モ、微笑ノ力量現前スルトキハ甚大久遠ヨリ三世十方恒沙諸仏ト一時ニ面授シ来ル者ナリ。〔是レ嗣法ノ實ナリ〕〔當ニ知ルベシ、永嘉未ダ曹溪ニ見ヘザルト雖モ、久シク已ニ曹溪ノ席ニ參学シ来ルコトヲ〕□ノ時ヤ、仮令ヒ持シ来るモ著クルニ所無シト雖モ、化門伝衣ノ印証無キトキハ、誰カ其ノ可否ヲ知ラン。又タ未ダ付法藏ノ人ト名ヅケズ。故ニ開仏知見ノ後ニ於テ正師ノ印証ヲ受ケ、或ハ山間ニ住シ、或ハ人間ニ居シ、分ニ隨テ人ノ為ニス。是レ宗統ノ伝、由テ來ル所以ナリ〔是レ嗣法ノ權ナリ〕。而モ其ノ伝ヤ、心

伝ニシテ之ヲ授ケ之ヲ受ルノ物子有ルニ非ズ。只ダ是レ化門表信ノ儀規ナリト雖モ「表信ト□」、之ヲ除非スルコノ義ニハ非ズ。表ハ實ニ依テ有リ。實無ンバ什麼ヲカ表セん。

表ハ實ノ表ナルカ故ニ表外實無ク、表實全同事ニシテ、間ニ髮ヲ容ル無シ。然ルニ汝等ガ如キ無實ノ表ヲ貴フ者ハ、佛法中匹有ノ「談ナリ」一ビ其ノ師ニ見ヘ来ルトキハ、終身ニ見ヘザル。是レ其ノ人ノ操志ナリ。是レ宗統ノ正義ナリ。然カモ知識ニ從テ、一句信解ノ力量現前スルトキハ、是レ其ノ師ノ仏口所生ノ子ナリ。尽未來際不朽ノ大因縁ナリ。何ゾ再ビ別師ニ見ヘルコトヲ求ンヤ。然ルニ日本中古、不實ノ漢有テ、法本ト一法ナルコトヲ知ルトキハ、幾箇ニ嗣法シ来ルモ、唯ダ是レ一法、何ゾ株ヲ一師ニ守ンヤト謂テ、院ニ隨テ嗣ヲ易フ者有リ。是レ宗統ノ由テ乱レタル所以ナリ。法本ト二法無キガ故ニ、一師ニ見ヘルトキハ、二師ニ見ヘザル。之ヲ正儀ト為ス。蓋シ往古、或ハ知識ニ從テ開仏知見スト雖モ、某ノ師ニ因テ表信ノ化儀無ク、某ノ師ノ命ニ依テ、別師ニ嗣グ者有リ。是ノ義ハ前段ノ乱ルモ著クルニ所無シト雖モ、中古又タ法本ト斷續無キコトヲ知ルトキハ、何ゾ面稟ト代付トヲ論ゼンヤト謂テ放ニ代付ヲ事トスル者有リ。法本ト面代ノ論ズベキ無シト雖モ、面稟ニ隨テ代付ニ隨ワズザル者ハ必然ノ理ナリ〔太陽投子代付ノ一件ハ在世ニ法器ヲ得ザル故ニ已ムヲ得ザルニ在ルノミ〕。故ニ

先年両本山、三大僧録ノ願ニ依テ、大樹君閣下ヨリ亂嗣代付停止ノ釣命ヲ降シ玉フ。夫レヨリ以来夕日本一派ノ僧侶、一箇モ釣命ニ背テ乱嗣代付ノ者有ルコト無シ。全ク是レ大樹君外護ノ致ス所ナリ。然ルニ近年、或師有リ。誤テ高祖古仏面授篇ノ文意ヲ会シテ、未悟ノ人面ニ嗣法ス可キノ証ト為シ、又夕人ヲシテ面々悟リ、箇々了ゼシムルコト能ワズ。但ダ能ク一師面授ノ正規ニ由ラシメルノミ。乃至之ニ由ラシム可クシテ、之ヲ知ラシム可カラズト謂テ、叢林同機ノ盲僧ヲ引化シ、愚蒙堆中ニ陷入セシム。加旃ス、自ラ書作テ世ニ顯シ、天下人ヲ教壞シ去ル。故ニ弊師之ヲ嘆テ、八十有余ノ老齒ヲ以テ、末後病楣ノタベニ至ルマデ、苦ヲ勉メ労ヲ忘レテ之ヲ弁白シ、之ヲ破斥スル者ハ、何ゾ自ラ弁ヲ好ムノ徒ナラン。今ヤ叢林荒涼ノ時ニ当テ、恁麼ノ謬説ヲ聞クニ忍ビズ、涙ヲ揮テ手ニ書シ、醜キヲ忘レテ口ニ談スルモノハ、只ダ是レ後学ヲ憐ミ両手完全ノ面授ヲ知ラシメント欲スル悲心熱腸ノミ。又夕是レ大樹君外護ノ大恩ニ報セント欲スル者ナリ。然ルニ彼ノ師ノ徒類、誤テ弊師、無断無統ノ地ニ坐在シテ、一師面授ノ正規ヲ破斥スト謂ヘリ。吁、是レ何ノ所談ゾ。実ニ是レ鐘ヲ喚デ甕ト為シ、烏ヲ称シテ驚ト為ス者カ。又夕弊師海水一滴ノ中ニ於テ略^{ホホ}是ノ宗旨ヲ示諭スルトキハ、或師ガ徒類、或師私意ノ妄立、忽爾トシテ燼^{ヒキエン}コトヲ恐テ、情ニ党シテ、法ニ党セズ。

強テ彫偽ノ巧弁ヲ成シ、高祖ノ家訓ヲ毀破シ、公門ノ條令ニ違戾スト謂テ、今官録ニ訴ヘ、以テ之ヲ滅板セント請フ。夫レ海水一滴ハ、先年坂府ノ官衙ニ於テ恭ナク公命ノ許ヲ蒙リ、刻梓、世ニ行ルルコト既ニ久シ。曾テ弊師下闈ノ日、是ノ書ヲ以テ、三大僧録ノ各座下ニ呈シ奉ルトキハ、速ニ納受シ玉フ。若シ是レ邪法魔説ナルトキハ、何ゾ之ヲ傍観シ玉ン。速ニ之ヲ滅破シ、之ヲ燒却シ玉フ可シ。然ルニ一点モ家訓ニ背キ、公令ニ違スルノ事無キガ故ニ官録ヨリ一言モ之ヲ難ジ、之ヲ議スルノ尊命有ルコト無シ。然ルヲ汝、今上訴スルトキハ、却テ公鑑ヲ昧シ官録ヲ蔑ニスル不敬ノ甚キ、何ニ事カ之ニ如ンヤ。汝道ヘ公覽ハ其レ昭鑑無キカ。官録ハ其レ耳目無キカ。蓋シ夫レ之ニ由ラシム可クシテ、之ニ知ラシム可カラザルノ語ハ、正法破滅ノ謬説、宗統斷絶ノ張本ナリ。若シ是ノ如キ瞽説ニ隨順スルトキハ、仏修行断絶シ、胡種族滅却セン。所以ハ何トナレバ、心悟ヲ用イズシテ嗣法印証シ、三宝住持ノ祖位ヲ紹ギ、仏祖堂奥ノ人ト為スト謂フトキハ、今時懶惰疎慵ノ輩、何人力尋師訪道セン。何人力發菩提心センヤ。皆悉ク断善根ノ人ト為リ了テ、仏祖ノ道、地ヲ拵テ滅セン。実ニ是レ一言以テ国ヲ亡ス者カ。抑、三世諸仏出世ノ法輪、世尊一代所説ノ本懷ハ、只ダ是レ開仏知見ノ外、他無シ。又、八万ノ聖行、無量ノ法門、出家ト云イ、持戒ト云イ、開仏知見ヲ的拠ト為

サザルトキハ、什麼ノ用ヲ作スニカ堪エン。借問ス。仏法ハ什麼ノ為ナル者ト思ヘルヤ。仏法本ヨリ開仏知見ヲ除クトキハ、只ダ是レ不用ノ閑家具ナリ。何ゾ三界最尊ノ法ト称センヤ。况ヤ仏法中ニ最尊最勝タル仏祖屋裡ノ正伝面授ヲヤ。是レ又タ開仏知見ヲ除クトキハ、鬧市裡頭伎者ノ物似ト何ゾ異ナランヤ。弊師ガ斥意、只ダ是レ之ニ在ルノミ。

彼ノ師ノ書中、已ニ一師面授ノ真宗ト称ス。若シ開仏知見ヲ除クトキハ、何ヲカ真宗ト謂ン。已ニ又タ一師印証ト称ス。若シ開仏知見ニ非ザルトキハ、何ヲカ印証センヤ。抑、妄知貝ヲ印証スルカ。抑、愚痴眼ヲ印証スルカ。若シ開仏知見ニ非ズト雖モ、師資面対授受ノ時、仏法正伝スト謂トキハ、靈山何ゾ独り迦葉ヲ択バン。達磨何ゾ二祖ヲ九年ノ外ニ待チ玉ンヤ。其ノ外、風穴、久シク嗣無キコトヲ嘆キテ、末後ニ首山一人ヲ接シ、大陽、浮山ニ依テ法器ヲ滅後ニ択ブ。其ノ余遞代ノ仏祖、久シク仏海ニ□シテ、身ヲ金鱗ニ忘レ、入草求人、意ヲ法器ニ尽クス者ハ、是レ什麼ノ所為ゾヤ。汝、之ヲ如何トカ思ヘルヤ。今、喻ヲ仮リテ之ヲ明カサン。譬バ武門ノ兵術等ノ如シ。師、其ノ口訣ヲ伝ヘ、弟子、秘術ヲ受ト雖モ、其ノ術ノ妙處ニ至テハ、鋤ト手トヲ忘レ、超然トシテ心ヲ所作ノ外ニ得ル時、鋤ト心ト相隨ウコトヲ得ルナリ。是ノ時ニ於ヤ、師、初テ印ヲ授ケ、弟、初テ証ヲ受ク。是レ所謂ル衣伝ニ類スル者ナリ。非ズ

ヤ。師、其ノ方術ヲ授ケルト雖モ、其ノ妙處ニ至テハ、師ノ所授ニ非ズ。是レ所謂ル心伝に類スル者ナリ。非ズヤ。其ノ妙ハ師授ニ非ズト雖モ、術学本ト師ニ因ルガ故ニ、名ヅケテ師伝ト曰フ。若シ鋤術、妙ヲ得ズシテ、師ノ印可ヲ受クトキハ、唯ダ是レ仮名ノ印ノミ。其ノ身上ニ於テ何ノ益カ有ラン。其ノ兵術、未ダ伝ワラザル所ナリ。未ダ其ノ印可ヲ得ズト雖モ其ノ術、妙ヲ得ルトキハ、是レ武門ノ本懐ナリ。仏法ノ本意モ又復、之ニ類ス。

又、面稟ニ非ザレバ、宗統流伝セズ、血脉断絶スト謂フトキハ、斯ニ疑問有リ。夫レ日本二百年來、宗統已ニ乱レ、院ニ因テ嗣ヲ易フ。故ニ隠居ノ輩ハ、在世ノ中ニ後住ヲ得テ、師資面授スト雖モ、多クハ住院ノ中ニ遷化ノ輩ハ、在外ニ待チ玉ンヤ。其ノ外、風穴、久シク嗣無キコトヲ嘆キテ、末後ニ首山一人ヲ接シ、大陽、浮山ニ依テ法器ヲ滅後ニ択ブ。其ノ余遞代ノ仏祖、久シク仏海ニ□シテ、身ヲ金鱗ニ忘レ、入草求人、意ヲ法器ニ尽クス者ハ、是レ什麼ノ所為ゾヤ。汝、之ヲ如何トカ思ヘルヤ。今、喻ヲ仮リテ之ヲ明カサン。譬バ武門ノ兵術等ノ如シ。師、其ノ口訣ヲ伝ヘ、弟子、秘術ヲ受ト雖モ、其ノ術ノ妙處ニ至テハ、鋤ト手トヲ忘レ、超然トシテ心ヲ所作ノ外ニ得ル時、鋤ト心ト相隨ウコトヲ得ルナリ。是ノ時ニ於ヤ、師、初テ印ヲ授ケ、弟、初テ証ヲ受ク。是レ所謂ル衣伝ニ類スル者ナリ。非ズヤ。師令ヒ、今ヨリ相続シテ、無量劫ニ至モ、其ノ根法ゾヤ。仮令ヒ、今ヨリ相続シテ、無量劫ニ至モ、其ノ根

已ニ断ヘ了ルトキハ、復古ノ義、立ツコト能ワザルナリ。

譬ヘバ葛藟ノ其ノ根ヲ截断シテ其ノ枝蔓ヲ以テ聯綿繁茂セシメント欲スルガ如シ。其ノ根已ニ絶スルトキハ、陽氣、何ノ處ヨリカ運バンヤ。是ヲ以テ当ニ知ルベシ。一師印証ノ正義ハ、汝ガ言フ所ノ如クニ非ザルコトヲ。

〔○見ズヤ。高祖古仏正法眼藏面授篇ニ云ク、七仏正伝シテ迦葉尊者ニ至ル。迦葉尊者ヨリ二十八授シテ菩提達磨尊者ニ到ルト。是レハ此レ宗門権実両乗ノ嗣法ヲ暗示シ玉フニ非ズシテ、何ゾヤ。難者、言フ所ノ如キトキハ○〕

汝等ガ言フ所ノ如ハ、大龜氏以下ノ嗣法ナルトキハ、即チ

通ズ。過去七仏嗣法ノ如ナルトキハ、汝、如何ンガ会通セン。大龜氏以下ハ本迹不一権実完全ノ嗣法ナリ。七仏ヲ聯トキハ、本門実成ノ嗣法ヲ明ス。故ニ迹ヲ以テ言フトキハ、通ズルコト無シ。若シ爾ラザルトキハ、汝、道ヘ七仏面對ノ事、何レノ經中ニ在テ、仏、之ヲ説キ玉フヤ。汝的実ニ証拠シ来レ。若シ仏説ニ非ザルトキハ、宗門ノ私端ト成リ了ルナリ。是ヲ以テ当ニ知ルベシ、是ハ此レ高祖権実両乗ノ嗣法ヲ示シ玉フコトヲ。又嗣書篇ニ曰「衣襪ニ面授卷ニ作ル者ハ、七仏面對面授ノ証ト為サント欲スル彫偽カ。怖ル可キノミ」、先師古仏、天童堂頭大和尚示シテ曰ク、諸仏必ズ嗣法有リ。所謂ル釈迦牟尼仏ハ迦葉仏ニ嗣法シ、乃至

〔逆次ニ溯洄〕拘那含牟尼仏ハ拘留孫仏ニ嗣法ス。是ノ如ク涅槃生死、寿量ノ常無常等ノ区處、分別ノ旧窠ヲ脱落スト

仏々相嗣デ今ニ至ルト信ズベシ。時ニ道元白ス。迦葉仏、

入涅槃後、釈迦牟尼仏始テ出世成道ス。況ヤ又、賢劫ノ諸仏、如何ゾ莊嚴劫ノ諸仏ニ嗣法セん。此ノ道理如何ン。先師曰ク、汝ガ言フ所ノ者ハ聽教ノ解ナリ。十聖三賢等ノ道ナリ。仏祖嫡々ノ道ニ非ズ。我ガ仏々相伝ノ道ハ爾ラズ。

釈迦牟尼仏、正シク迦葉仏ニ嗣法シ来ルト習フナリ。釈迦牟尼仏ノ嗣法シテ後、迦葉仏入涅槃スト參学スルナリ。「者箇ノ道取、從前ノ仏祖、未開口ノ説ナリ。今、試ニ汝等ニ問フ。仏、何ノ經中ニ在テ是ノ如キ説ヲ為シ玉フヤ。美々ニ証拠シ來レ看ン。仏説ニ非ザルトキハ、淨翁ノ私論力。當ニ知ルベシ。這ハ是レ淨翁、向上宗乗ノ嗣法、深玄ノ妙旨ヲ指授シ玉フコトヲ」乃至此ノ時、道元、始メテ仏祖ノ嗣法有ルコトヲ稟受スルノミニ非ズ。從來ノ旧窠ヲ脱落スルナリ。

弊師弁注シテ云、此レハ是レ天童古仏、権実ノ両乗ヲ掀翻シテ「権ヲ謂フトキハ、権ト實ト共ニ有リ。實ヲ謂フトキハ、實ト権ト共ニ無シ」、一師印証、向上宗乗ノ嗣法、深玄ノ密旨ヲ示諭シ玉フ。故ニ此ノ如シ。是ヲ以テ阿笈摩教ノ寿量劫量ニ拘ワレザル可シトノ玉フ。乃至仏祖ニ恁麼最上ノ嗣法有ルコトヲ稟受スルノミニ非ズ。從來敎迹中ノ莊嚴劫、賢劫、星宿劫等ノ三劫、諸仏ノ出世ノ劫量、違隔ノ見、

日イ玉イ。仏知見究竟覚ノ玄旨ヲ示シ玉フ。然ルニ衣枷、

此ノ甚深ノ密旨ヲ知ラズシテ、此ノ時、古仏始メテ只ダ、

師資面対儀規ノ嗣法ヲ稟受スト云ント欲シテ、此ノ時道元

始メテ仏祖ノ嗣法有ルコトヲ稟受スルノミニ非ズ。従来ノ

旧窠ヲ脱落スト有ルナリ。文ノ中ノ有ノ字ヲ佻カニ之ヲ懷

ニシテ去ル。是ノ如ノ機変、怖ルベシ。畏ルベシ。這レ是

ノ有ノ字、實ニ古仏ノ眼目ナリ。乞フ老僧ニ還シ來レ。固

ニ之ヲ拔采スル恁麼ノ偷心、是レ之ヲ正法輪ヲ滅却スルノ

破法ノ罪人ト謂フカ。潛カニ此ノ有ノ字ヲ削リ去ル。譬ヘ

バ猿已ガ耳ヲ掩テ箏ヲ竊ミ、人ヲシテ知ラシメザラント欲

スルガ如シ。世間豈ニ但ダ耳目無キ者ノミナランヤ。此等

ノ文ニ參学シテ、応ニ須ベカラク嗣法ノ權実有リ在ルコト

ヲ知ルベシ。願訴ガ數條、後ヘニ於テ一々之ヲ説破セん。

條々ノ瞽說、毀言、噴々トシテ聽クニ勝エズ。於戲公鑑私

照無シ。何ゾ煩シク臭口ヲ鼓シテ多言スルコトヲ用ンヤ。

法運ハ冥護ニ在リ。是非ハ官衙ニ屬ス。悉ク以テ傍人有耳

ノ聞クニ任スルノミ。

〔用〕

○此ハ是レ法性ヲ法性ト認ズル無縛自縛云々

▽謂ク、你チ理會スルガ故ニ、繩ト成リ、認ズルガ故ニ縛ト成ル。縛脱ハ暫ク置ク。你チ却テ法身、法性ヲ識ルヤ、也無ヤ。見ズヤ、高祖古仏、正法眼藏法性篇ニ云ク、即今ノ這裡ハ法性ナリ。法性ハ即今ノ這裡ナリ。著衣喫飯ハ法性三昧ノ著衣喫飯ナリ。衣モ也タ法性現成ナリ。飯モ也タ法性現成ナリ。喫モ也タ法性現成ナリ。著衣喫飯セズ、言談祇対セズ、六根運用セズ、一切施為セザルトキハ、法性三昧ニ非ズ。不入法性ナリ「恁麼ナルトキハ、你チ如何ガ法性ヲ回避センヤ」。此等ノ祖文、你チ夢ニモ也タ未ダ見

「3 別訂答釈」 [原漢文。原文に返り点及び送
り仮名有り。以下その記述に従い書き下す]

〔不用〕

○抑、桂叟海水一滴ニ云ク、或ガ古仏面授篇ヲ觀云ク、阿

難尊者云々

訂ニ曰ク、此レ獨庵ニ依附シテ死病ヲ伝ヘル者ナリ。乃至嗟呼、獨庵老漢博ク文學ノ名有り、宗眼ハ未ダシ。其レ鴉鳴森羅等ヲ以テ、本師法音面目ト為ス者ハ、一辺法身ヲ理會シテ、真伝法ト為ス。

俗ニ所謂ル盲蛇ニ畏^{アシ}ズノ謂カ。

〔用〕

○達磨大師、渾身ニ無上ノ法印ヲ現成シ来モ、面授受面ハ即チ面処現成ニシテ、唯面ノ外、他無シ。然トキハ渾身現成ノ外、更ニ面授受面ノ面目有ルニ似タリ。未審シ達磨大師、幾箇ノ面目ヲ持シ來テ、渾身現成ノ外、更ニ面処ニ於テ現成セシムルヤ。阿呵々笑フニモ足ラズ。今、你ガ為ニ示喻ス。渾身現成ヲ見得シ來ル時節、之を面授受面ノ正伝ト謂フ。何ゾ更ニ両頭三面を要センヤ。

〔用〕

○他ノ教家者流、書ニ依テ宗ヲ立。乃至我ガ宗ニ取ラザル所ナリ。

▽謂ク、誰力教家者流ニ倣フト謂フヤ。未ダ聞カズ。独庵嗣承ニ由ラズト曰フコトヲ。汝チ什麼ヲカ道ヤ。次ニ嗣書篇を引テ云々ス。夫レ教家者流、一心三觀、三千ノ法門、理事四法界等ノ所立有リト雖モ、未ダ其ノ人ニ逢ワザル故ニ、未ダ教迹中ノ名相ヲ脱落セズ。獨達ノ知見現成セズ。是ヲ以テ達磨西來以後、教家ノ高徳、老学祖席ニ投スルノ日、始テ入路有ル者ハ是レ古來ノ勝躅ナリ。是レ嫡伝來底、付法藏家ノ最勝タル所以ナリ「儀規伝來ノミヲ以テ、之ヲ最勝ト謂フヤ」。未ダ祖席ニ投ゼザルト雖モ、名相ヲ脱落シ、仏知見現前スルトキハ、十方恒沙ノ諸仏ト同時ニ面授

シ來ル者ナリ。汝チ未ダ知ラザルヤ。永嘉大師未ダ曹溪ニ見ヘザル先キ、久シク曹溪ノ席ニ參學シ來ルコトヲ。未ダ聞カズ。禪家者流、沒知見ニシテ教家者流ニ超越スト謂フコトヲ。

〔不用〕

○若シ但ダ自悟ヲ以テ爾ト為ストキハ、後世自見ニ侈ル。乃至人々自ラ得タリト為シテ誰カ邪正ヲ択バン云々。

▽謂ク、若シ自悟自見有ルトキハ、自ラ侈モ且ツ可ナランカ。面授式ニ由ルト雖モ、無智ノ盲僧前ニ於ルトキハ、何ノ邪正ノ択ブ可キカ有ランヤ。豈ニ仏法相続ト曰ンヤ。

〔用〕

○桂叟奸黠、果然トシテ承襲シ來リ、大二人ヲ誣調ス。更ニ元祖所謂ル、一祖一弟子相イ面授セザレバ、仏々祖々ニ非ズノ文ヲ錯解ス。乃至面授シ來リ、嗣法シ來ルトキハ、祖宗ノ面授處、道現成ナリ云々。

▽謂ク、高祖ノ文、你チ如何トカ看ルヤ。無知見ノ盲僧ト雖モ、面授式ニ由テ來ルトキハ、面授處道現成ト謂シヤ。將夕復夕仏々祖々ト称センカ。阿呵々、什麼ヲカ謂フヤ。所謂ル一祖一師等トハ、一世モ師ヲ見ル眼目無キトキハ、弟子ニ非ズ。一世モ弟子ヲ見ル眼目無キトキハ、師ニ非ラズ。故ニ面授來、嗣法來底ノ正眼ヲ以テ、師、弟子ニ見ヘ、弟子、師ニ見ヘ來ル。是レ之ヲ両手完全ノ嗣法、面授處道

現成ト謂フ。又タ一師一弟子面授來底ノ仏々祖々ト称スルノミ。是レ即チ黃梅打臼三下、盧老默契底ノ面授處道ナリ。然ルヲ你ガ輩、錯解スルガ故ニ、弊師、如上祖文ノ正義面授ノ真宗ヲ指授スルトキハ、你ガ党、却テ相見面對ヲ臭面化儀ニ敗シ、外カ真面心伝ヲ貴ビ、如上ノ祖文ニ違スト謂フ。嗚呼、苦ナルカナ。事ヲ聴テ、真ナラザルコトナリ。

你等会セザル辺ニ約シテ、之ヲ臭面ト謂フ。若シ實ニ面授眼ヲ具ストキハ、真面スラ尚無シ。何ニ況ンヤ臭面ヲヤ。

是ニ於テ真面ヲ論ズルトキハ臭面ノ外、他無シ。故ニ化儀表信ト謂テ之ヲ除非スルノ義ニハ非ズ。表ハ實ニ依テ有リ。実無キトキハ什麼ヲカ表トセン。表ハ實ノ表ナルガ故ニ、表ノ外ニ實無シ。表實全ク同事ニシテ間ニ髪ヲ容レル可キ無シ。然ルニ你等ガ如ク無實ノ表ヲ貴ブ者ハ、仏法中匹有ノ怪談ナリ。而モ又タ、你チ動モスレバ心伝ノ語を忌ム。未審シ汝等所伝底ハ心外ノ法ニシテ心伝ノ語ヲ嫌フヤ。你ガ党、未ダ心ヲ知ラズ、故ニ心ト説キ性ト説クヲ聞クトキハ、瞬眩シテ断空偏真ノ思ヲ作シ、動モスレバ生滅ニ即シテ不生滅ヲ円転セザレバ、則チ仏法ノ妙、前ニ現ゼズト謂フ。是レ你チ未ダ仏法ノ生滅ヲ知ラズザル故ナリ。汝等ガ言フ所ノ円転ハ、二物ヲ持シ來テ之ヲ上ニシ、之ヲ下ニシ、之ヲ左ニシ、之ヲ右ニシテ円転無碍ナルガ如ク思ヘリ。宗門正偏兼帶等ノ義モ、亦復、是ノ如ク邪解ス。夫レ円転兼

帶トハ、不動ノ義ナリ。又是レ無一物ノ義ナリ。你チ作麼生カ会ス。悶絶躰地スルコト莫レ。兼到位ト云イ、拆合シテ炭裡ニ坂スト云イ、無一物等ト云フトキハ、錯テ偏真斷空ノ思ヲ作ス。是レ汝ガ日用茶裡飯裡受用底ナリ。眼ヲ開テ寐語スルコト莫レ。

〔用〕

○上古、心伝ト称スルハ、你ガ情識ノ測ル所ニ同ジカラズト。

▽你チ却テ上古ノ心伝ヲ知ルヤ。覲面ニ汝ニ請益セン。今你チ上古ノ心伝ヲ明ラメ、破微塵出大經卷等ノ文ヲ引キ(是レ森羅万象本師法音面目ノ語ト)、相去ルコト多少ゾ。此ノ語モ又タ你チ錯会セリ)、若シ汝等ガ言フ所ノ如ク、臭面相見ニシテ實ニ是ナルトキハ、何ゾ破ト説キ、出ト説カンヤ。這箇ノ闕捩子、是レ仏法ノ緊要、參學ノ骨髓ナリ。是レ之ヲ心伝ノ玄旨ト謂フ。笑フ可シ。你チ當面差過スルコトヲ。以下ノ引文亦復、深意アリ。你チ文ヲ引テ意ヲ会セズ。恰モ猫兒ノ錢ヲ得テ、什麼ノ用ト為スコトヲ知ラザルニ相似タリ。

○心妙ナレバ仏モ尔リ云々

▽謂ク、心妙ナルトキハ、衣伝モ也タ妙ナリ。心伝モ也タ妙ナリ。紙伝拵伝總テ妙ナリ。頑空無智ノ盲僧、面授式ニ由ル時、妙处、甚麼ノ處ニ在ルヤ。只是レ當面ニ差過スル

ノミ。

〔用〕

○海水一滴ニ云ク、嗣書篇云々

訂ニ云ク、桂叟、文ヲ引テ其ノ義ヲ得ズ。強テ他家ニ倣テ本迹二門ヲ立ツ。

▽謂ク、你チ見ズヤ。高祖古仏、正法眼藏面授篇ニ云、七仏正伝シテ迦葉尊者ニ到ル。迦葉尊者ヨリ二十八授シテ、菩提達磨尊者ニ到ルト。此レハ是レ權実両乗ノ嗣法ノ玄旨ヲ示喻シ玉フニ非ズシテ何ゾ。汝チ夢ニモ也タ未ダ見ザル有ラン。今你ニ問フ、七仏面對授受底ノ事、何ノ經論中ニ在ツテ。仏之ヲ説クヤ。你チ的實ニ証拠シ来レ。若シ仏説ニ非ザルトキハ、当ニ知ルベシ、七仏ヲ聯ネル者ハ本門実乗「一師印証」ノ嗣法ヲ示喻シ玉フコトヲ。大龜氏以下ハ同ク者箇ヲ伝テ、兼ネテ迹門權乗「一師印証ノ表信」ノ儀規ニ依ル者ナリ。故ニ弊師是ノ如キ深玄ノ妙旨ヲ探索出シテ、你ガ為ニ曉喻スルトキハ、你チ暗曉得ニシテ、却テ他家ニ倣テ本迹二門ヲ立ツト謂フ者ハ、高祖ノ正法輪ヲ誹謗スル魔党畜生力。□悲シイカナ。

〔用〕

○但ダ久成ヲ明ラメ今日ノ師弟ヲ撥フト云フニ非ズ。今、文意ヲ詳ラカニシテ成道、嗣法ノ二義門ヲ分ケ、二義ヲシテ融同セシメテ更ニ情執ヲ蕩ワソ云々

▽謂ク、夫レ今日ヲ論ズルトキハ、久成、久成、今日共ニ有リ。

久成ヲ論ズルトキハ久成、今日共ニ無シ。汝ガ輩久成ノ眼目未ダ開ケザル故ニ今日ニ在テ、久今ノ二義ヲ言フ。仏法本ヨリ一仏乘ナリ。何ゾ若ニ、若三ノ法有テ、之ヲ融同シ、之ヲ蕩尽スルコトヲ用ンヤ。釈迦仏、七仏以前成道ト雖モ、久シク迦葉仏ニ嗣法スルノ文、汝果然トシテ教迹中ノ判ヲ成シ来テ、未ダ名相ヲ脱落セズ。今ト久ト瓦合シ来テ、洒落不得ナルコト、恰モ猫兒ノ牡丹餅ボタモチヲ弄シテ取捨不得ナルニ似テ相似タリ。此レ箇ノ久ノ字、句中ノ眼目、妄リニ久遠ニ推シ今時ニ覓メルコト莫レ。

〔不用〕

○桂叟ノ如キ、都慮、弁了無シ。只久遠ヲ空寂ニ尋ヌ▽謂ク、未審シ久遠ハ空寂ニ求メテ得可キ者カ。今時ニ求メテ得可キ者カ。何ノ處ヲ空寂ト為シ、何ノ處ヲ今時ト為ス。汝チ的實ニ道取シ来レ。

〔用〕

○又次ニ云ク、又面授篇ニ跋シ、乃至審之

訂ニ曰ク、於乎、老螺蛤、怪謠自ラヲ害シ人ニ残ス毒邪ノ最ナリ。蓋シ此ノ篇ノ跋ニ非面授而ノ四字ヲ加フ。尤モ好ク、仮令ヒ嗣法ス可ベキノ文勢ヲ会シ、直ニ能破ノ意ヲ彰ワス。乃至此ノ破意炳然トシテ、千年後非面授ニシテ嗣法スベキノ道理有リト許スニ非ズ。你、祖意ニ戾リ為ニ千年

後、非面授ノ嗣法ノ義有リト立ツ云々。

▽謂ク、於戯、汝情ニ党シテ、法ニ党セズ、強テ非ヲ文ルノ巧弁ヲ作スト雖モ、浮世ノ十目ヲ奈何セン「目有ル者ノ

誰カ見ザラン」。然モ却テ種々ノ悪言ヲ以テ、他ヲ罵辱シ去

ル。実ニ是レ桀犬、堯ヲ吠エル者ナリ。今、少ク文意ヲ釈

センカ。你千謹デ諦聴セヨ。馬大師遷化未得五年ナルニ、

馬大師ニ嗣法セズト謂フ。實ニ笑フニモ足ラズ。其ノ故ハ

豈ニ啻ダ未得五年ノミナランヤ。仮令ヒ嗣法スベキ者ハ、

無量劫ノ後ト雖モ嗣法シベシ云々。是ノ如ク祖文連続シテ、

非面授而ノ四字、容レント欲スルニ空穴無シ。仮令ノ二字

ハ是レ上ノ未得五年ノ文ヲ承ケ来ル者ナリ。這裡ニ到テ、

你チ如何ガ一画ヲ添ヘ得ンヤ。又、嗣法スベキ者、嗣法ス

ベカラザル者ハト云フ時ハ、必ズ人ニ系ル詞ナリ。嗣法ス

ベキトキハト云イ、嗣法スベカラザルトキハト云フ時ハ、

是レ法ニ系ルノ詞ナリ。此ノ輩、分明ニ「者字ノ助字ニシ

テ」人ニ系ルノ詞ニシテ、斷然トシテ「則字ノ助字ニシテ」

法ニ系ルノ詞ニ非ズ。是ハ此レ「嗣法眼有テ」嗣法スベ

人ハ無量劫後ト雖モ嗣法スベシ、「嗣法眼無シテ」嗣法スベ

カラザル人ハ須臾ト雖モ「対面スト雖モ」嗣法スベカラザル「黃梅七百ノ僧、衣鉢ヲ得ズ」道理ヲ示シ玉フ者ナリ。

然ルニ你ガ党、法ニ系テ之ヲ見テ、嗣法スベキ時ハ、嗣法

スベカラザル時ハノ義ニ邪解シテ、縱破奪破ノ弁ヲ作テ、

以テ私意ノ彫偽ヲ資ル者ハ、未審シ何等ノ心行トカ言ンヤ。你等ガ彫偽ノ張本、是ノ章ニ於テ炳然トシテ瓦解シ了レリ。敗也。敗也。是ノ章ヲ読ム者ハ、弁ヲ待タズシテ暁ン。

〔用〕

○本文ヲ通却セン為、跋語ノ文ニ於テ、意ノ如ク文ヲ引ク。其ノ例古今多シ。

▽謂ク、阿呵々。這裡ニ到テ、覚エズ絶倒ス。你、什麼ノ面皮有テ、這般ノ語話ヲ為シ来ルヤ。一文不通ノ頑夫、痴人ハ之ヲ信ゼンカ。一編ノ書ヲ讀ミ来ル者ノ何レノ愚人力、汝ガ瞽說ヲ信ゼンヤ。古來作文ノ人、古書ヲ取テ省略取意シテ、之ヲ引ク者有リト雖モ、然トモ未ダ一点ノ私意ヲ以テ其ノ間ニ乱入スルコトヲ見ズ。又夕本文ヲ通却センカ為ニ、細注ヲ加テ文ヲ引ク者有リ。是ハ加注ノ故ニ、取ト捨てト看經ノ辺ニ在リ。仮令ヒ本意ヲ誤ルモ、罪其レ輕シ。若シ本文ニ加作シテ本意ヲ誤ルトキハ、先聖ヲ誣ヒ後学ヲ誤ル法中ノ大罪。何事カ之ニ若カン。今或師、所謂ルト曰フトキハ、決シテ是レ古語ヲ□ノ辞ナリ。或師已ガ私意ノ彫偽ヲ妄立センガ為ニ、本文ニ非面授而ノ四字ヲ盲添シテ「正法眼藏中、疑フベキノ文有ルハ、你等ガ如キ冥罰ヲ恐レザル者ノ妄加ナランカ」高祖ノ本意ヲ埋却シ、永ク後学ヲ錯り去ル。吁、何ゾ名ノ為ニ法ヲ忘ルルコト是ノ如クナルヤ。憐ムベキノミ。

〔用〕

○承古云ク、馬大師乃至無時
訂ニ云ク、呆痴漢乃至、然ニ桂叟邪解シテ云、承古五年百年ヲ云イ、滅度久近ヲ言フ。是レ凡情、識見、古仏ノ呵シ玉フ所云云。

▽謂ク、高祖ノ文意明白ニシテ十日ノ如シ。斷然トシテ是レ滅後ノ嗣ヲ呵シ玉フニ非ズ。明ニ是レ承古、五年百年ノ久近ヲ論ジテ、嗣法ノ眼無キコトヲ呵スルナリ。若シ汝ガ言フ所ノ如キトキハ、山僧ハ即チ然ラズ。雲門大師ヲ識得シ、亦雲門大師ヲ見得ス。方ニ雲門大師ニ承嗣スベシト曰フ文ノ下ニ於テ、実ニ笑フニモ足ラズト曰玉フベシ。爾ニ非ズ。馬大師遷化未得五年ナルニ、馬大師ニ嗣ガズト曰フ文ノ下ニ於テ、実ニ笑フニモ足ラズト曰玉フ。是レ久近ニ非ズシテ何ゾヤ。是ヲ以テ下ノ文、高祖曰玉ク、雲門大師入滅已後一百余年ナレドモ雲門ニ承嗣スト謂フ、乃至三歳ノ孩兒ヨリモ無墓ハカナシ〔若シ承古ガ如ク、五年百年ヲ以テ隻眼双眼ヲ「トキハ」一千年后、雲門ニ嗣法スル者ハ、汝二十倍スルノ力有ント。汝ガ言フ所ノ如キトキハ、一千年后乃至汝二十倍スルノ力ノ文、附合シ難シ。祖文是ノ如シ。時候久近ヲ論ジテ嗣法眼無キコトヲ呵スルコト顯赫分明ナリ。你、之ヲ如何トカ看ル。是ノ故ニ仮令嗣法スベキ者ハ無量劫後ナリトモ嗣法スベシ、嗣法スベカラザラン者ハ、

〔用〕

○承古猥リニ以為ク、馬祖遷化未得五年ナルニ、其ノ間幾許時ナラズ。黃檗、縱ヒ其ノ人ヲ見ザルトモ、須ク親シク其ノ真ヲ見ルベシ。而ルニ之ヲ見ズ。故ニ嗣ガズ。惜シイカナ。一隻眼ヲ具云々。

▽你チ強テ私意ノ巧弁ヲ作シテ、祖文ヲ模糊シ了ル。浮世其レ耳目無ケンヤ。夫レ黃檗、馬祖ニ嗣ガザル者ハ、黃檗ノ機縁、全ク百丈ニ在テ、馬祖ニ在ラズ。黃檗、馬祖ノ大機大用ヲ問フト雖モ、百丈豈ニ他ノ鼻孔ヲ仮リテ氣ヲ出サンヤ。直ニ自家ノ宝藏ヲ運出シテ、伊ガ為ニスル者ナリ。

上ノ未得五年、馬大師ニ嗣法セズト曰フ、實ニ笑フニモ足ラザルノ文ヲ承ケ来テ、承古、眼有ルトキハ、無量劫ノ後ト雖モ嗣法スベシ。眼無キトキハ、須臾ト雖モ嗣法スベカラズコトヲ示ス。是ノ故ニ、次ノ章ニ、又云ク雲門ノ語錄ヲ見ル輩ノミ、雲門ニハ嗣法スト。是ノ如ク祖文空穴ノ処□、連環相続シテ、其ノ間ニ一点ノ彫偽ヲ入レルベキ無シ。然ルニ却テ、你チ前段ニ若シ你ガ意ニ依ラバ、有嗣法眼則、或悟仏知見參開等ノ数字ヲ加ヘザルトキハ、義ヲ成ゼズト謂イ、又妄意ニ相見セズシテ嗣法スベカラズノ道理ニ道イ成ス者ハ、驚ヲ称シテ烏ヲ成ス者カ。實ニ是レ桀犬堯ヲ吠エル者ナリ。

故二百丈ノ仏口所生ノ子ナリ。是ヲ以テ馬祖ニ嗣ガザル者ハ理ノ必然ナリ。百丈ノ云ク、你チ大師ニ承嗣スルコト無キヤ否ヤ。此ハ是レ探竿影像、伊ガ獅子返睨ノ機ヲ試ミル者ナリ。意全ク嗣不嗣ニ在ラザルナリ。然ルニ承古猥リニ以為ク黄檗、吐舌ノ処ニ於テ馬大師ヲ識得スルニ似ルト雖モ、遷化未得五年ナルニ、大師ニ嗣グハ、恐ラクハ我ガ兒孫ヲ喪セント云テ、嗣ガザル者ハ、未ダ馬大師ヲ見得セズ。是レ只ダ一隻眼ヲ具ス。我レ一百年後ト雖モ、雲門ニ嗣グ者ハ、隻眼円明ニ非ズヤト。是レ承古、黄檗ニ嗣不嗣時候延速ノ閑思想無キコトヲ知ラザルナリ。故ニ高祖古仏呵シテ云ク、黄檗道フ、恐ラクハ我ガ兒孫ヲ喪センノ言バ、總テ汝チ測ルベカラズ。我ガ道取及ビ兒孫ノ人、是レ誰ナリトカ知レル。審細ニ參学スベシト。之ヲ以テ之ヲ見ヨ。你チガ見ザルニ嗣法スベカラザルノ道理ハ、黄檗ノ道取分明ナリト謂フ者ハ、太ダ瞞肝ナリ。

〔用〕

○不生不滅常住ノ理ヲ推度シテ、以テ真見ト為シ、嗣法眼ト為ス。斯レ太ダ暗推ナリ。

▽謂ク、夫レ不生不滅常住ノ理ハ、大師釈尊出世ノ本懷。嵩山高祖西來ノ大本ナリ。若シ之ニ背テ仏法ヲ學ブ者ハ、首ヲ截テ活ヲ求メンガ如ク、之ヲ非トシテ仏法ヲ談ズル者ハ、如來正法輪ヲ破り、三宝ヲ誹謗スルノ大罪人ナリ。汝

見ズヤ、法華安樂行品ニ云ク、不生不出、不動不退、一常住一相ト。又寿量品ニ云ク、如來、實ノ如ク三界ノ相ヲ知見シ玉フニ、生死ノ若ハ退、若ハ出有ルコト無シ。又云ク、衆生ヲ度ス為ノ故ニ、方便シテ涅槃ヲ現ジテ、而モ実ハ滅度セズ。常ニ此ニ住シテ說法スト。又云ク、凡夫顛倒ノ為ニ、實ニ在テ、常ニ靈鷲山ニ在リ。又云ク、阿僧祇劫ニ於スヲ而モ滅ト言フ。又涅槃經ニ云ク、一切衆生悉有仏性、如來常住無有變易ト。此レハ是レ三世ノ如來出世ノ本懷、直指見性ノ直路ナリ。故ニ法花涅槃同一醍醐味（圓理）ニシテ、仏說ノ中、是ノ左ニ出ル者有ルコト無シ。然ルニ汝チ今暗推ト言フトキハ、世雄出世ノ本懷、開顯顯実ノ金言モ、又是レ暗推力。無間ノ業ヲ招カザラント欲セバ、如來ノ正法輪ヲ誹謗ズルコト莫レ。

〔コノ二段不要〕

○次ニ縱破奪破ノ妄解有リト雖モ、未ダ論ズルニ足ラザルナリ。

縱破ノ中ニ云ク、若シ爾ラザルトキハ、汝二十倍スルノ文勢、虛設ト為スノミト。

▽謂ク、是レ什麼ノ語話ゾ。你、好々ニ祖文ヲ熟覽セヨ。承古意ニ曰ク、馬大師遷化、漸ク未ダ五年ヲ得ザルヲ以テ、黃檗、馬祖ニ嗣ガズ。只ダ是レ一隻眼ヲ具ス。吾レ雲門入滅已後一百年ナリト雖モ、方ニ雲門大師ニ承嗣ス。之ヲ以

テ双眼円明ト思ヘリ。故ニ高祖呵シテ云ク、一千年後雲門ニ嗣法スル者ハ、應ニ汝二十倍スルノ力有ルベシ。是ノ如キ祖文、十日ノ如シ。汝、瞎睡スルコト莫レ。

○又、奪破ノ中ニ云ク、仮令半日須臾ト雖モ、或ハ同牀同座ニ来ルモ、若シ面、現成セズ、受、現成セザレバ、師資ノ道〔面對ヲシモ云ンヤ〕、未ダ現成セザルトキハ、真相見ニ非ズ〔面對ヲ以テ真相見ヲ言フベカラザルナリ〕。何ヲ以テカ嗣法ト称センヤ。

▽謂ク、恁麼道フトキハ、臭面相見ノ義ノミニ非ズ。汝等所立ノ之ニ由ラシムベクシテ、之ニ知ラシムベカラズノ語ハ總ニ破敗シ了レリ。汝知ラズ。言過ギテ、師翁ノ所立ヲ破ルコトヲ。是レ之ヲ倭俗ニ破家ト曰フ者カ。

〔用〕

○未ダ經書ニ依テ發明スル者ハ、皆釈迦仏ニ嗣法スルカノ指斥ヲ免レズ。

▽謂ク、此ノ文、汝チ亦タ、錯会スルナラン。夫レ經書ニ依テ發明スル時、面見釈迦仏ノミニ非ズ。十方恒沙ノ仏、狸奴白牯ト同時ニ面授嗣法シ了レリ〔是レ實ノ嗣法〕。是ノ嗣無キニ非ズト雖モ、其ノ上更ニ正師ノ印可ヲ求ムル者ハ、是レ古來ノ榜様ナリ〔是レ權ノ嗣法ナリ〕。單ニ釈迦仏ニ嗣法スル道理無シト曰フノミニ非ズ。是ヲ以テ下ニ云ク、雲門ノ語錄ヲ見ル輩ノミ雲門ニハ嗣法ストナリ。是ノ如ク

実ニ未ダ雲門ノ語錄ヲ見ズ、嗣法眼無クシテ、却テ自ラ雲門ニ嗣法スト言フノ類ヲ呵シ玉フ者ナリ。故ニ次ニ云ク、雲門ノ語錄ヲ見ル輩ノミ雲門ニハ嗣法ストナリ。是ノ如ク見ザルトキハ、雲門ニ嗣法スノ語、汝チ如何ガ附合セン。〔此ノ次答釈不足アリ〕

〔用〕

次ニ云ク、嗣書篇ニ合血ノ事有リ。決シテ後人ノ妄添云々訂ニ云ク、云々

▽謂ク、此ノ文決シテ是レ後人ノ妄加ニシテ、古仏ノ真語ニ非ザルナリ。你チ膜ヲ刮テ好看セヨ。私意ノ彫偽ヲ以テ高祖ヲ辱メルコト莫レ。此ノ文意ハ洞山下ノ嗣書ハ臨濟等ノ書ケルニ異ナル。其ノ故ハ青原高祖、親シク曹溪ノ机前ニシテ、手指ヨリ淨血ヲ出シ、曹溪ノ指血ニ合シテ相伝シ來ル。故ニ臨濟等ニ勝レリトナリ。阿呵々淺薄ナルカナ。

ルトキハ、文中ノ更字、理義下ラズ。

〔用〕

○又ノ解ニ云ク、此ノ文、你、又錯解スルナラン。此ノ文意ハ、你等ガ如キ、面授ノ正眼ヲ具セザル輩、漫ニ經書ヲ邪解シテ自ラ發明スト思イ〔承古雲門錄ヲ邪解シテ、自ラ發明ト言フノ類〕、自ラ釈迦牟尼仏ニ嗣法スト謂ン〔承古猥リニ雲門ニ嗣グト言フノ類〕。此レ等ノ輩、更ニ正師ニ見ヘテ、正眼目ヲ得、正證明ヲ得ベシ。是レハ此レ承古ガ如ク、

決シテ是レ高祖ノ語話ニ非ズ。何トナレバ高祖ノ云ク、若シ五派門風ノ別ヲ言フ者ハ、是レ仏道ニアラズ。是レ祖師道ニアラズ。魔党畜生ナリト。已ニ是ノ如ク痛ク呵責シ玉フ。爾ルニ何ゾ今、又、手指ヨリ淨血ヲ出シ、曹溪ノ指血ヲ合シテ書キ伝ヘケル故ニ臨濟等ニハ勝レリト曰玉ンヤ。汝ガ党、高祖ヲ辱ムルコト莫レ。汝又、竜樹身現相ノ文ヲ引テ、膿血咳唾モ取捨スベキ無シト謂フ。若シ然ルトキハ、何ニシテ血ヲ合シ、書キ伝ヘケル故ニ勝ルト謂フ可キヤ。其ノ理ヤ天地懸隔、汝ガ彫偽巧弁ヲ以テ瓦合スレドモ成ゼズ。

「4 卓恐陳狀」

一、弊師撰述仕候、海水一滴、報恩編之二書、減板を願出候もの、其意趣を承候ニ、弊師儀、一師印証の御條目ニ背、高祖面授ノ家法を破り、邪書邪説奇怪之義を申立、大勢之徒党を結び、与力を求候事、數年之巧謀ニ而、自己乱嗣之非を飾り、自を害し、人を傷る毒邪之最なり。其儘被指置候はゞ、御世道之御障りニ罷成候半、某護法之深志、骨髓ニ徹し、歎ケ敷、一宗ノ衰乱、感涙難留。か乃罪惡を糾、諸人をして正道ニ帰せしめん。仰冀ハ官府之御威勢、三僧錄之御法權、彼邪書を滅板被仰付、彼紛乱之萌、火急ニ御防奉願候と、願書四冊、惡語妄言重複混雜仕候得共、大意

如此ニ相聞江申候。右彼もの、一宗之弊衰、國家之障礙を相歎キ感涙ニ及候段、楞嚴ニ所謂、悲愁弊魔之變現ニ而御座候。実萬一左様之儘ニ御座候はゞ、官家僧統何とて御宥免被遊候半。分際を不揆^{ハカラ}、微財を不レ顧、欺^ニ守職之聰明、蔑^{ニメ}法務之照鑑^ニ、廠上之讒辭、害人之輩傑ニ而御座候。

一、弊師儀、延宝六年駿州静居寺へ入院仕り、三物相続仕候後、從何方相招候而も、移転之志、決而無御座候。其後、大雲、丈六之誘引有之候時、段々辞退、何レ茂再三ニ及候故、辭退之存念「一師印証」を以申切候所、万外、石峰何れも、任其意ニ、被讓席「御條目以前」候。丈六ニ罷在候内、宗統開明之御條目ニ罷成退院之後、静居寺檀末、連判を以、本寺林叟院、並ニ可睡齋、相願候所。両寺共ニ御聞届之上、静居寺世牌之御書附御座候。減板を願候もの、御條目ニ背、嗣続を乱り候ては、かれを減して後朝食せんの「出于左伝」奸謀ニ而、白昼殺^ス人^ヲハ此儀ニ奉存候

一、海水一滴、報恩編、御政道ニ背、宗義ニ違ひ候得共、一宗之僧統、無智龐行を好ミ、彼邪説を信向仕候と申出候。弊師義九十年來、國家之恩澤を蒙り候者、何ニテ御政道ニ背候半。且注釈之法ハ、前人稽考之未詳、評斷之未定も乃ハ、撰者の意を以、衡斷仕候事、古今撰述之通儀に而御座候。經律論宗、數百家之群書、六經之註疏、歴史之評述、何連茂同断ニ而、其中之是非曲直ハ披兔之、月下ニ瞭然た

る御儀。自レ古護法清辨を初、天台嘉祥之偏圓、四明雪川之妙宗、儒家ニハ朱陸大極之抗辨、本朝ニハ応和元亨之角論ニ至迄、各家の書籍、流布仕候得共、一己之忌嫉を以、滅板を願候もの、季斯が儒士を活埋し、六經を毀焚仕候後、此度初而承候。

一、正法眼藏、平日拝覽仕候ニ付、上方ハ勿論、中國西國古跡大地之秘函迄、恩借仕リ。其内文字の有無、三豕之差誤、書法之倫次、是ハ如此、彼ハ如是と点校仕リ。度当り候御儀ハ書記仕置候。高祖之本文を添たり、削たり、皆々筆を入れ候とハ、無謂之謗語ニ而御座候。抑古今儒釈之經書、我ニ暗き所、人ニは明かに、人ニ暗き所、我ニ明なる事。学者読書之常ニ而、得失ハ互ニ御座候もの。此学識之論重を以、官家僧司へ訴出候事、希代の所為と奉存候。

一、宗門室中之嗣書、血脉等、たとひ開山之真筆ニ而も、

全不肯とハ、高祖之家訓ニ相違仕候と申出候。夫禅家之拮

弄、抑揚、褒貶ハ臨時之施設。真乘化儀ハ説法之常規。申

懸り候方ヘ、其言葉重ク成候事ハ、幾多之禪書、御昭覽之

通ニ而御座候。不以レ辞害セ意とハ孟子之庭訓。全不肯と

ハ、東西密相付スル之文を向上ニ商量仕来候。仰山曰、涅槃經四十卷惣ニ是魔説と。全不肯と可申候哉。況此三字結

文ニあらす。前段後段詳ニ申述候。謹按するに永平廣錄ニ

拳シ楞嚴ニ文ヲ了テ曰、雖ニ是レ仏説ナリト、我大色小〔外道〕

之見也。若シ恁麼ニ見得セハ、非ニ仏弟子、非ニ祖師ノ児孫ニ。又曰、汝諸人勿レ見ル「楞嚴、円覚」。四七、一二三、青原、南岳等、何レノ祖師力用ニ「楞嚴、円覚」、為ニ涅槃妙心ト。曹溪未セ拳之経、用不何為ト被仰候。夫勿とハ禁止之辭、勿レ見ル、勿レ聞ク、勿レ行ク、是等之儀影略被遊候。

謹嚴之家訓と可申候。妄解を以難破仕候ワゞ、楞嚴円覚魔外之邪説ニ而御座候所。清淨本然の垂誠、發心帰源の提綱、示現安居の引証、自語相違不被遊候哉。猶又勃陀の円印、楞嚴の勝会、是皆魔外之邪説ニ而、洞宗ハ勿論、五岳十刹、天下之禪宗、一等ニ魔業を相勤候得ハ、彼もの不堪悲涙、滅板を願出候半歟。抑不知ニ古人舌頭落処、不レ諳セ前後文義ノ飯宿として、種々之浮説を申出候。

一、大陽投子ノ事跡、古人亂道す。独庵愚陋。桂叟呑レ滓て、又発ニ其端モトヅヒ。会元之説ニ根基て、天童淨和尚之呵を蒙ると申出候。彼もの古人と指候ハ

一、洪覺範 禪林僧宝伝并ニ林間錄

一、天童宏智禪師廣錄

一、感山曉瑩禪師紀談

一、雷庵受禪師普灯錄

一、大川禪師五灯会元

一、雪竇曇禪師正宗贊

一、梅屋禪師仏祖通載

右七員之上祖を乱道と申出候へハ、件之ものニ挨拶可仕様無御座候。併

大陽八十五ノ示ニ寂于宋ノ仁宗天聖五年ニ〔僧宝伝等〕
投子五十二ノ入ニ滅于宋ノ神宗元豐六年ニ〔僧宝伝、普灯錄〕
以ニ元豐六年一、上溯ニカミサカノホルニ 天聖五年一、相去ル五十七年〔宋鑑
綱覽〕

然るに宝慶記、天童告ルノ高祖一節、広録ニ投子看話之一
則、天童父子ノ説話如是ニ而、僧宝伝、大陽贊ニ序ニ譜系ヲ
了テ曰、余觀ルニ大陽盛ナルヲ時ニ、有ニ承部ノ両衲子ニ、号メ称ニ
奇傑ト。卒ニ至ル於不ルニ振。惜哉。微ニ遠録公ニ則、洞上正
脈、幾ニ於不ルニ続。嗚呼延之知ルニ人ヲ可ニ以無レ愧也。又宏
智古仏札ニ明安ノ塔曰、老阿師卒ノ無レ嗣。石浮屠立有ト
年。四句偈二首。又札ニ投子青禪師塔ノ偈曰、度タシ金針之
玉線ヲ、繞ニ鳳弦之鸞膠ヲ。右僧宝伝ハ近時之親聞。宏智古仏
ハ礼塔之梵唄、覺範、宏智、若欺レ人ノ則欺レ心ヲ。伝灯之
祖師と不可ニ敬仰ス焉。滅板を願候もの、写ニ紀年録曰、
淨翁曰、世ニ言、大陽絶ストハ嗣ヲ、太々惑ヘリ矣。五灯浮山
章、作者ノ謬妄也。乃至撰ニ伝灯ヲ者、剽掠ノ典故ヲ、誣
說ス先徳ヲ。可ナリト悲也。宏智之望ニ投子ヲ、曾大父四世ノ嫡
孫なり。淨翁ハ七世ノ曾孫。淨翁今宏智を以、世の惑者也。
誣ニ謾ス先徳也と被仰候半哉。決而御座有間敷御儀。猶更
宏智錄、御拝覽不被遊御儀も無覺束奉存候。且林間錄ハ後

世明道之師也と高祖も証明被遊候ニ一言之徵語も無御座候。

五燈之禪策ハ五派之耳目ニ從來慣習仕候得ハ、宝慶記、紀
年録千古之發明と可申候ニ、片言隻字、確実之典拠無御座
候。歴世之久習を一人之口論ニ而相改申事、先ハ難成御儀。
蘓氏カ老子論ニ曰、与人言フ者ノ言ニ吾カ父以テ為ト不レ然、
則誰カ肯テ信シテ、為ニント汝カ父ノ之是ト矣。況高祖上ニ謁天

童ニ被遊候ハ宝慶元年ニ而、天聖五年と相隔リ候事、二百年
ニ而御座候。二百年の下ニ在而、二百年之上を改候事、明
證的驗無御座候而者、鑿テ空ヲ造レ端ヲ潤論ニ罷成候。会元ハ
五燈之会粹。是を作者謬妄伝と御座候而ハ、大陽投子ハ勿
論、五派之之列祖、皆々妄伝ニ而禪宗滅亡ト可申候。

謂ハ、非ニ大陽実跡ニ作者ノ謬妄ナリト、則必當ニ有ニ所拠。有レ
拠而言フナリ、則奚不ルニ明ニ書シ、特ニ書ク、以藻ニ雪セ学者之
疑ヲ。不レハ爾則ニ己ノ私説ナリ。肆ニシ私説ヲ而欲ニシハ以
掩ハント五派旧慣之耳目ヲ、則非ニ天下叢林之公論ニ也。是豈ニ
天童永平廓大高明之心哉ナランヤ。然ラハ則チ宝慶記、紀年録
ハ尊名之重きをかり、取繕候もの御座候半歟。議論ニ不及御
儀ニ奉存候。此儀若洞家之光華ニ、不罷成御事ニ候ハバ、宏
智古仏何とて礼拝挙揚之讚章、御座候半。且又

広録ニ曰、投子青和尚執ニ侍スル「大陽」三年、是ハ伝写之誤
リ、略録、正法眼藏、何連茂少々之写誤ハ相ミヘ申候。頌
古八十八則、皆々五燈之公案ニ而、投子ノ話頭一則、何と

て相違仕候半。不然ハ筆頭之十一字、五燈之禪冊ハ勿論、支那四百州之叢林ニハ、無之文字ニ而御座候。

独庵ノ愚陋、桂叟啜_テ津_ヲ而蒙_{ルト}天童之彈呵_ヲ矣と申出候。独

庵弊師毛頭計も家訓ニ相背儀ハ無御座候。五燈之群書、記歲之宋鑑、皆々減板を願出候半歟。不通之論と奉存候。

一、大庾嶺頭、道明禪師發悟之下ニ、有時之眼目と着語仕リ。面授卷、嗣書卷並拳候所、彼もの種々駁雜之名句を取まじへ、不見不面にして決而不_レ可_レ嗣、桂叟不学文盲、面授之嗣法を滅亡仕候と申出候。抑直面直授、唯面与面ハ千仏万祖、脱体之鍊案。因_レ茲_{コレニ}高祖痛_ク呵_ニ責承古禪師_ヲ被遊候。謹按スルニ

高祖創業ノ太祖垂_ル統_ヲ万世_一。是以不_レ得_三嚴_{カニ}不_二「_ヲ正_レシ統_ヲ明_{ニセ}宗_ヲ。所_ニ以明_{ニスル}宗_ヲ、則所_ニ以防_レ濫_ヲ也。堤防不_ル寸_ハ稠密_{ナラ}、則濫流横派、百出千穴_ス矣。是_レ高祖之、所_ニ以_レ深_ク譏_ニ呵_{スル}承古_ヲ者也歟。併事跡確実之場ニ当り、我ト与_ト汝同師_トセン_ハ黃梅_ヲと、道明此印記を受ケ、黃梅_ハ不_レ帰。直ニ袁蒙之居住と相ミヘ申候。六祖不_ハ印_セ証道明_ヲ、則黃梅為_レ不知_人_ヲ、道明不_ハ正_ニ伝_セ黃梅_ヲ、則六祖為_レ不知_人_ヲ也。浮山投子も亦將如_{ナランカ}此也歟。

若又不見不面、決而不_レ可_レ嗣と、排擯仕候而憚多候得共、六祖道明は亂嗣之首惡、破法之狡猾と可申候。猶又青原下ハ漸源嗣_ニ道吾_ニ、疎山嗣_ニ洞山_ニ、南岳下ニハ、興化嗣_ニ臨

濟_一、是等之上祖、面処現成之正伝、後世脱出之者、其跡を師とすべき歟。是等 三僧綱御熟_ニ之御儀ニ御座候得共、減板を願候もの損害之奸詐を申企候故、如是陳状仕候。

一、減板之願書四冊、誹謗惡語ハ分際之常、其内國賊、法賊、叛賊、逆賊と申出候、是ハ単簡の鎧耶、必誅の流血。

国朝不_レ可_レ許之律令、春秋の無將、澤法の不道。其所同断ニ而御座候。件之妄言、我々当身ニ引受、仰所ハ明鏡之御裁断のみと奉存候。特更国家安堵之清世ニ罷在、徒党を結ひ、与力を求候事、多年之巧謀、御政道之御障リと、莫太不吉之妖言を以、 僧司 官府を竦動仕候。為國為法、虚実曲直、御吟味被仰付、賊名の実証御座候ハバ、如何様之罪科とも可被仰付候。若分雪之訣、御聞届被遊願下候ハバ、誣_{レルノ}人_ヲ之罪ハ加_{レニ}之_ニ以_レ罪_ヲ。又漢ノ約_ニ曰、殺_レ人_ヲ者死ヌと。倭漢の法律ニ而御座候得ハ、僧司の明鑑、

朝廷の憲章、南山之高判、画石之嚴令、千々万々奉_レ希候

陳状如件

「5 陳状之内申残候事」

ハ法賊國賊との申分ニ相聞ヘ候。

去冬之書付届候所へ御出し被成候哉。いまだニ而、届候ハ

バ、此度進上仕候通を得と御合点被遊前後取繕、御出し被成候処ニ可被仰越候。言葉づかい大事ニ而、御届候見職が満しき言葉の出不申様ニ可被仰越候。

一、有時眼目之下、承古禪師之儀届書之卷之見様、敵者相とがめ申候。併其意趣、仏祖正伝之法不見不面決而不可嗣と高祖之言葉をとりこニ致申ばかり候。海水ノ御意ロハ代付之言葉を諱、有時眼目と被仰候。微ニ言ヲ而見ハス意ヲ。其状之筆法となり候。是等之所ニ而惠明嗣五祖、是時也。黃檗嗣百丈、是時也。是謂之有時眼目□御座候へば、敵者之意ニハ古時も時也。今時も時也。有時眼目之語ハ代付不苦と申立候。御條目を破り候との気味ニ相聞ヘ候。可申様も無之邪推ニ而御座候。壇經、惠明發悟之下、我与汝同師黃梅との文を注釈被成候而、今日御條目之取沙汰ニ而ハ無御座候。六祖、惠明千年先キ之壇經之文、代付之とりこニハ不申候へ共、此壇經之文をも御條目ニ背候と可申哉。言葉之事と八百年先キ之事何とて御條目ニ障り候半。大陽、投子之事六百八十五年已前承候上祖之履歴。此儀を商量仕候ことの御條目ニ障り候ハバ、七員上祖之伝述、皆々御條目ニ障り申候哉。不通之論と存候。近來之書ニ投子錄開堂之法頌を出候よし、此度之引証ニハ遠慮致候而引不申候。

南禪寺義堂和尚ノ偈ニ遠公不レ負ニ大陽ノ囑ニ、放ニ出メ蒼鷹ニ、擊タシム九秋ニ。

是偈御條目ニ障リ、南禪天竜へ被仰付滅板を奉願候と申半歟。何者か棚さがしを仕候而、祇陀大智偈ニ、昔時父子不^二バ相見^一。血脉何ニ従得ニ貫通スル「ヲ。不^二バ相見^一と点を付候事參大様ニ而御座候。決定相見ハ無之候ゆへ、字之通ニ而相濟申候。例セバ靈源示寂曰、六祖不^レ識^ヲ字。因什麼、道^二ウ竜朔元年盧老誌^一と御座候を句に作り候ハバ、盧能元ト不^レ識^二文字^ヲ、竜朔因^レテカ何ニ得タル紀年^ヲと可申候。從来不^レ識字の六祖故、字之通ニ無理ハ難申候。

海水一滴、報恩編何連之所ニ代付不苦、語ニ紛レ聞ヘ候事御座候哉。難破してミや。

仏祖面授と申事心得損し候もの有之と申。此訣を何分世話ニ申述置候。此趣不合点之もの種々之邪推を申まわし候。

御條目之後ハ代付之取沙汰ふツゝ不被成事、胸を定御挨拶御尤ニ存候。其内

紀年錄全体偽書と存候へ共、偽書ぞとかたから申候得ハ敵者耳ニ掛、やか満し具御座候故、隨分何となき言葉ニ而引証仕候。

五燈浮山章と申五字、扱々笑止千万成言葉ニ而御座候。五灯ニ而候ハバ、どの錄と指定候半ニ、只五灯と申候而ハ浪語ニ而御座候。敵者之申候ニ、会元ニ本付天童之何を蒙る

と申し候へバ、会元と相心得候得共、会元ハ高祖帰朝之跡ニ出来致し、其引証ハ

続略会元淨柱〔曹洞派〕禪師之序ニ御座候。紹定之間大川済公編〔次会元〕すト申候へハ、宝慶ハ三年、其次ニ紹定ハ六年つづき申候。然ハ宝慶年中ニハ五灯会元之取沙汰ハ無御座候。且会元浮山ノ章ニ大陽、投子ノ事ハ載リ不申候。

弥浪語ニ而御座候。江戸ニ御座候方へ是等之趣能々御合点候様ニ可被仰越候。通載ノ下ニ続藏目録ニ載之とハ子供らしき事ニ而御座候へ共、敵者之申候ニ六祖壇経ハ大藏ニ在之候。大藏之書ハ天子之官人ニ而モ改削仕候事ハ不罷成よしと申出し候故、然ラハ通載ニ載リ申所之大陽、投子之伝ハ、如何被致候半と、此儀ニ心をよせ申候。

室中届書之事、長松□御心を被付候ゆヘ報恩編相考書置申候。

一、天桂以授記為化門表儀。或ハ貶ノ為戲論と申候。授記戲

論之語ハ荆溪ノ語と存候。御考置可被成候。

一、正法眼藏講談ハ勿論、文字を書込申事、先年御僧錄司ヨリ御停止之御廻状ありしかと覺候と申候。安居卷面授卷ハ不上眼か。

一、老漢從静居、彦根ヘ御出之時、其頃借住と申事世間ニ御座候。老漢之履歴慥ニ不承候。併静居之届書其儘ニ而大雲、丈六、御出被遊候。静居之後住ハ独峰とて初詣參之首

座、此移リ替り様子不存候。敵者申候半ハ、丈六と静居之届書を帶候ハバ御條目ニ成候時、早速其訛を相立クテ不申退院之後、静居之願迄延引致し候ハバいかゞ、存入候哉と申候半か。此所御了簡被遊候而、御挨拶御尤ニ存候。

此度之儀、敵者も願掛り候故願之通りニ被成候歟。又ハ願調不申首をくくり候歟。兎角ニやめハ不致候故、万事御心を被付御尤ニ奉存候。愚老も懸御目、心事申上度。此節ハ是非共ニと存候所、病所ニ付此頃薬をたべ候へバ、一同も快ク覚候所、不任其意殘念ニ奉存候。兎角、此書付はやく懸御目度、

長松和尚迄御願申上候。殊之案事申候。扱々て心情ハ如可之。筆紙は限有。御叱亮四部御座候
正月二十五日

「6 タイトル不明」

【原漢文。返り点・送り仮名に従い、書き下す】

○一、願書カ瞎訂ニ云、抑、面授親承異途ナキ処ニ、浮山代付ノ言一タヒ出テ、其ノ響ヲ接クモノ曾テ多。乃至広録、宝慶記、紀年録、載之云々〔代付ニ非ザルノ証ヲ出ス〕。謂〔答釈ナリ〕、浮山、投子ニ代付ノ事、洞済、未ダ曾テ怪マズ。惟ダ汝等、近代刊行之書ヲ以テ、付代ニ非ザルノ証ト

為ス。然ラハ、今ニ借問ス。法華五百弟子品ニ迦葉尊者、

不在会七百声聞ノ為ニ、如來ノ授記ヲ代付ス。又曹溪大師、黃梅ノ法ヲ道明ニ代付ス。是亦夕浮言カ。汝何レノ書ヲ以テ、非代付ノ証ト為ルヤ。速ニ道ヘ、速ニ道ヘ。凡ソ權実兩乘ノ嗣法、崑崙ニ^{ナツメ}呑ムコト勿レ。且ラク宥ス。汝ハ是レ門外ノ遊人、争カ入室ノ深旨ヲ知ラン。

○一、瞎訂曰、汝等ノ如キ、相見面對臭面化儀ヲ貶シ。外ト真面心伝ヲ貴ビ祖文ニ違フ。乃至肉團ト真面ヲ分ケルノ非ヲ知レト云々。

謂ク、吁事ヲ聴クコト真ナラザル故ニ、你、臭・真二面ヲ分ケ、^{ヤヤ}動モスレバ、生滅ニ即シテ、不生滅ヲ円転スト誇言ス。愚ナルカナ。即離ニ見ハ教奴ノ獸見、即スルコト有レバ、必ズ離スルコト有リ。

豈ニ円転ト曰ンヤ。仏ノ言ク、一切諸法ハ無性ヲ以テ性ト為スト。是ヲ円転ト曰フナリ。若シ即スル者、離スル者ノ有ラバ、何ゾ無碍円転ト曰ンヤ。皆、有所得ノ妄想ナリ。是ノ故ニ如來、昔、諸仏ヲ供養シテ、有所得ヲ以テノ故ニ授記ヲ得ズ。最後、然燈仏ノ所ニ於テ、無所得ヲ以テノ故ニ授記ヲ得。是ヲ以テ當ニ知ルベシ。吾ガ門師資面授ノ正當、臭面、臭面ニ對スルニ非ズ。真面、真面ニ對スル無シ。四句ヲ離レ百非ヲ絶スル故ニ古仏曰ク、大圓鑑ノ大圓鑑ニ面授スルナリト。内外暇翳ナキナリ。這裡何ゾ生不生、即不即ノ有所得ノ妄見ヲ說ンヤ。

○一、吾ガ先師、非面授而ノ四字ヲ點檢ス。瞎訂、暗解ヲ以テ瓦合會通ス。之ヲ弁ズルニ足ラズ。永平古仏云ク、仮令、嗣法スベキトキハ無量劫後ト雖モ、嗣法スベシ。嗣法スベカラザレバ、半日須臾ト雖モ嗣法スベカズト。此ノ文太ダ解シ易シ。非面授而ノ四字ヲ加エルトキハ、文、渋テ解シ難シ。^{イカシ}何トナレバ、嗣法スベキトキハ、年月ノ久近ヲ云ニ在ラズ。無量劫來、一師印証、唯面与面、面授ノ宗乘。故ニ黃梅滅後、道明之ニ嗣グ。何ゾ面代ノ可不可ヲ論ゼンヤ。夫レ嗣法スベカラザルトキハ、半日須臾及ビ対面ト雖モ、嗣法スベカラズ。故ニ古塔司、雲門ニ嗣グコトヲ許サズ。今、公判ノ如ク、師資面授ノ外、代付ヲ禁ズル者ハ、權門嗣法ノ嚴令、一師印証ノ表信ナリ。你等權實ヲ崑崙シテ、表信ニ偏佑スル者ハ、井蛙ノ大海ヲ知ラザルガ如シ。要ヲ以テ之ヲ言ワバ、權實、理事ニツ俱ニ名字、權實不二、即セズ、離セズ、名字モ亦無シ。故ニ永平古仏曰ク、仏々箇ノ什麼ヲ授手ス。祖々箇ノ什麼ヲカ相伝ス。斯ノ時權門ヲ捨テズ、實門ヲ取ラズ。一師面授、間、髮ヲ容レズ。汝ガ面前、馬耳辺ノ東風ナラン。

○一、瞎訂、人事陀羅尼門ノ語ヲ引キ、動モスレバ、^ヤ証ト為ス。然ルニ又、曰ク、廁屎送尿ノミ之ヲ本得ト曰ンヤト。▽謂ク、你、語簡ナルヲ以テ、本得ニ非ト言カ。笑フベシ。一多、大小ノ見、未ダ止マズ。何為吾門ノ面授ヲ議スル

ヤ。知ラザルヲ知ラズトセヨ。

一、合血ノ事、吾先師、之ヲ弁ズ。瞎訂云ク、指血、舌血、

華嚴ノ一塵一毛ニ異ナリト思フヤ。華嚴縁起、夢ニモ窺ワ

ズ。法華実相、毫モ会セズト云。

▽謂ク、芥、須弥ヲ入レ、毛、巨海ヲ呑ム。你、以為、此
ヲ取テ彼ニ入レ、彼ヲ取テ此レニ入レ、相即相入スルモノ
ト思フ。何者、指血ヲ出シ、舌血ヲ出スノ証文トスルカ故
ヘニ、你ガ愚見、炳然タリ。華嚴ノ法界、法花ノ実相、若
シ出入、離即ノ妄見ヲ以テ、之ヲ判ゼハ、万里ニ郷閨ヲ望
ムガ如シ。吾先師、弁ズル所ノ者ハ、室中面授ノ表信。何
ゾコトサラニ艶書ノ如ク不淨ヲ合血シテ、援筆スルコトア
ランヤ。理トシテ信ジ難キコト。勿論經卷ヲ血書スルハ身
命ヲ惜シマズ、但ダ、無上道ノ誓願ヲ惜シムノ因行ノミ。
今、曹溪、青原ノ合血ニ瓦合スルモノハ、太ダ不可ナリ。

親密面授ノ正規、汝知ル能ワザル所ナリ。

一、吾先師曰ク、縱ヒ真筆ナルモ、老師全ク肯ワズ云々。
瞎訂云ク、元高祖嗣書乃至現在永平室中、後五百歳、筆墨
ノ真跡ニ拵ラスシテ、何以、証トナサント云々
▽謂ク、古德云ク、蒲団禪板、正ニ好シ焼却スルニト。又

云ク、一代藏經、糞ヲ拭クノ故紙ト。若シ此等ノ語ヲ聞ク
トキハ則チ定テ狂乱銷魂シ去ラン。未ダ祖語ノ抑揚各々其

用處有ルコトヲ知ラズ。汝ガ分上宜ナルカナ。且ク去テ帖
擲シ来レ。

一、正法眼藏、吾先師、校訂シテ五百年後、学人ノ為ニ天
下ニ流通ス。汝、何ノ怨家ゾ。之ヲ誹謗スルヤ。元高祖若
シ汝ガ怨家ナラバ、汝ハ是レ何レノ派下ノ粥飯ヲ喫スルヤ。
仏經、皆流通分ノ仏勅有リ。借問ス、正法眼藏ハ仏經ニ異
ナリト思フヤ。又校訂不是ナラバ、汝力師、校訂シテ扶宗
ノ功ト云ハズヤ。旁訓、書キ入ハ其ノ義ヲ解シ易カラシメ
ン為ノミ。是モ亦夕非法ナラハ、經論說聽ノ人師、古來旁
訓、書キ込ミスルハ皆ナ非法ヲ行スルカ。

一、吾先師、義雲錄ニ因テ六十篇ト為ス。六十篇ハ専ラ學
人ノ為、要道ニ足レリ。然ルニ你、八十篇ノ写本ヲ用イザ
ルヲ以テ之ヲ怪ム者ハ何ゾヤ。永平広錄、義雲和尚、略錄
一卷ト為シテ序ヲ作り、懷讓【辨】和尚ニ寄ス。之ヲ不可
ト曰ンヤ。且ツ眼藏ハ或ハ八十篇、或ハ九十篇、其ノ篇數
定マラズ。故ニ義雲ニ因テ六十篇ヲ写シテ、人ノ為ニ提唱
ス。又、汝等提唱スルコトモ不是ト云フ。然ラバ、仏法商
量、經錄講示スベテ提唱スルコトモ禁スヘキカ。弁道、面
授、安居三篇叢林ノ法益モアルヘカラサルカ〔正師、三篇
開板アリ〕

一、六祖壇經ハ六祖真説。故ニ先師注弁シテ海水一滴ト云。
然レドモ、凡真説ト云ヘハ、一字一画モ錯リナシト胡椒丸

呑スルモノハ、無目人ノコト。忠國師云ク、他ノ壇経ヲ取り、鄙談ヲ雜糅ス。苦ナルカナ、吾宗、喪スト。然レバ則チ真説トイヘドモ、誤錯アルコト、国師之ヲ証ト為ス。你ガ云フ正本トハ国師、取説ノ本ニ別本アリヤ。且ツ拝法眼ヲ以テ、邪正ヲ注弁スルハ、之ヲ不是ト曰ハバ、古今ノ人師、藏中經論ニ於テ多ク注疏ヲ着ク、皆邪法ナルカ。瞎訂須ク你ガ分際ヲ知ルベシ。仏言ニモ不生滅ノ正法ヲ信スルモノ少シ。驚疑スルモノ多シ。若シ驚疑セザル者ハ希有ト為スト悲嘆シ玉フモノハ、汝ガ如キ愚凡、驚疑モノアルガ故ナリ。瞎訂ガ戯論、乱タル麻ノ如シ。検束シテ責ムルニ暇ナシ。

一、嗣書篇中、合血ノコト妄添ト先師申候義ハ乍憚是先師力眼目ニ而申し被仕候。仏祖從來室中ノ事ニおいて争而可在之事ト云。青原ノミニ限ルヘカラサルコト、石頭、南岳ニも可在之候事。然共無之。剩ヘ青原ノ石頭ニ授記セシ同參ハ釈迦牟尼仏ナリ。釈迦牟尼仏モ青原ノ授記ヲ受クルナリト、永平ノ仰セラレシ處ト併考ヨ。仏經ニモ（菩薩戒經嗣書・弁註ニ引之）二指智和合ノ身ハ菩提不成就ト仏言ニモ在之事。然ルニ青原ノミニ合血和合シテ艷書ガ誓紙ノ如クアルコトニアラス。此般ノ事ハ一見ニ覗破シツヘキコトニ候。尤仏經ヲ血書スル等ノ事ハ、我力願心誓言ヲアラハス為メ、室中ノ一大事。只嗣書アツテ表信スルニ、何ソ不淨

ノ血ヲ淨血トシテ艷書ノ如クアルヘキコトニアラス。然共古來只真説トノミスルハ、拝法眼ナキユヘノコト。依之決而妄添ト申立ノコト。

一、正法眼藏永平高祖ノ真説と候處、三写鳥焉、字ノ錯ノミナラス、点削増入古来ヨリ弁白ナキハ其人モ無之故ト相見ヘ候。然ル故先師是ヲ見分ケ、学人ノ津ニ迷フモノヲ明ラカナラシメ申事。其義ヲ不届キト申事ニ候ヘバ、自今仏法正法眼目ヲ以テ為人、商量申事急度 御法度ニも願候處、相聞ヘ候。然ル時ハ宗門を滅却仕、大外道ニ而御座候。諸方禪師智劍ヲ以嚴布降伏不被仰付候而ハ、永平派下ノ宗風蟻垤ヨリ崩レ可申候。先頃正法眼藏ヲ所授ト被致候。面授宗乘等を唱へ出し候ニ付、学人モ分際相應ニ利益を得、一師面授ノ道理、御條目ノ旨難在道理、ヲサなりとも耳ニ挾ミ「—————（行判読不可）—————」コトニ御座候、彼惡等申ハ天桂叟面授ヲマツリ教ヘ候故、御條目破候ト申上候事、不審千万ニ奉存候。先師教訓ニ而御條目違背申もの在之候時ハ、其者御吟味在之、急度可仰付候ヘど、今日違背仕者ノ一人も不承候。尤仏世ニ而、仏ノ說法ヲ承リ候而も將非魔作仏ノ思ヲナシ、水潦鶴如キモノモ在之候。多怨難信候而、五千退席も在之候ヘとも如來ハ制止シタマワス。退亦佳矣ト仰セラレ、今日先師ニ限ラス諸知識ノ説法垂示を承り、損益在之候事例如此ニ御座候。然

ル処天桂説法ニ而、條目ニモ違背仕候と申義、天下洞宗ノ學人掌ニ入候處ニ申分推參千万ニ存、未出を未熟ノ境界ニ而、知識ノ評拝物ニ出□取入置申ノ事、論証申義ハ盜法ノ大罪人ニ御座候。

一、六祖壇經ハ六祖之真説と申事、不及申事。然レドモ真説ノ中、種々妄加在之候事、釈法眼ナク、皆真説ト申コトハ座當ノ茱萸ヲノム如クニ候。彼レカ如ク古來ヨリ六祖トアレハ、皆六祖ノ真説ト存知、祖道ヲ錯ルユヘ、先師是をも為人致苦勞、海水一滴を開板仕候。然ルヲ恣ニ改メ削候様ニ申上候へとも、今般被遊候通、祖道ニ叶ハサル處無利益處ハ点ヲ加ヘズ、注ニ弁置候。元來注弁ハ邪正ヲ分弁致為メノ注ニ候。其レヲモ不届ト申は扱々盲昧ノ至ニ御座候。且又壇經ノ正本ヲ知ラス。海水ノ本ヲノミ校考仕と申ソシリ候。其ノ正本ハ蔵本と申由。蔵本とても正本真説中ニ而無之。邪正相混候事、座上ヨリモ申事迄、忠國師曰、把他壇經、改換添糅鄙談惑亂後徒。豈成言教。苦哉。吾宗喪矣

「滴ニモ書、即心是仏并註ニモ引之」。彼レカ正本ト申「――――――（一行判讀不可）――――――」人ニハ目モナキモノ、如ニ申出、分才を知ラサル悪口モノニ候。

一、正法眼藏垂示仕事、先師末後ノ大願故、遷化致迄、示化仕候。依之只今迄正法眼藏有ルモ無キモ知ラサル底ノ人モ難有如候而、皆々拝写拝讀仕事ハ乍憚先師永平古仏ヘ之

報恩ニ御座候。垂示仕カラハ異本を集メ致校考、邪正ヲ分チ為学人示化申候。此義モ講談を停止之御触在候様ニ申上候。我等も先師生涯今日迄承り不申分。停止之分配ハ無之筈候コトト奉存候。其わけハ永平古仏、為学人、為倍弟子等、説法示化被出候正法眼藏故、一卷一卷ニ或ハ倍弟子楊光秀ニ示ス、或ハ觀音導利院ニ在て示衆、在大仏寺示衆ト仰セ被置候。皆々示衆説法ノ義ニ候へ者、今日先師カ人之衆前ニ説示仕事、御法度無之段、御尤至極ニ奉存候。正法眼藏講談不仕筈ニ而、安居巻、弁道巻、面授巻開板迄致流布仕義者、如何相心得候ヤ。右三篇等板行ニ而、結制等主人ノ心ニ任せ法是と申講談仕候。若又正法眼藏示化講示致サル筈ニ候て仏經祖錄ハ何とて法会下結制等ニ商量申事ヤ。彼等カ申上候様ニ而ハ、自今已後仏經祖錄眼藏等迄も、垂示商量御法度タルヘク尚、兎角彼カ如キハ宗門法中ノ罪人ニ御座候。

一、先師不学ニ而和学等ハ尤暗ト惡口申候。彼等仏弟子ニ候ハバ、安樂行品ノ仏勅をも見可申候。文筆等ハ強而不用筈御座候。六祖壇經ハ真説と申候。文筆を真説ト申とや。

六祖元來不知字コト、天下人ノ知ル処ニ候。然ルヲ何ゾ□テ乃祖師仰セ候本迄も不存候ヤ。〔先師□□為□□文字ヲ〕仮テ示化アルノミ。元ヨリ不学不文字ノコトハ垂示ノタヒニ断リ、只宗義ノミ深譚申候。彼等ハ文字詩偈タニ達者

ナレハ知識ト覺へし事ハ扱々生盲ニ而御座候。知識ノ象ヲ摸ルコトハ不入コトニ奉存候。

儀ノミ之様ニ申立候ハ学人ノ迷ニなり候故。并仏經祖錄ヲ証拠とし海水一滴、報恩編之二書をも開板仕、為法不容人情、破邪顯正致故、彼カ教ハ人情我道ヲ以て面授を打破し、ソシリ教ユト申事ハ正法ニ於て馬耳辺ノ東風と可申ヤ。却テ仏法ヲ破滅セントスル大罪人ニ御座候、先師宗義ヲ以、面授正法ヲ唱ヘ出スコト邪法ト申上候。仏經モ邪説ニテアルヘキヤ。仏言若以色見我、以音聲聞我、是人行邪道、不能見如來ト。又蓮華色比丘尼ヲ呵責ナサレタルモ邪法タルヘキヤ。又永平古仏言、親曾見仏といふハ此見仏なり。見三十二相ニアラス。見三十二相ハ誰カ境界を隔ン。此ノ見仏ノ道理を知ラサル人天声【聞】ノ類多カルヘシト。又云見仏もし衆生ノ見仏にひとしきハ見仏にアラス。見仏もし衆生ノ見仏ノ如くなるハ、見仏アヤマリナリト。以之見ヨ。面授ハ只面對ノ形儀ノミをいふか。宗義ハ如是。大凡嗣法ニ權乘、實乘アルコト權門化義ノ嗣法ハ釈迦佛より今日至テ嫡々相承、師資面授、弁ヲ加ルニ及ハサルコトにて、實乘ノ嗣法ハ無前無後、無左右、非聯非並。甚大久遠ヨリ尽未來際、一師印証、全無他人。唯仏与仏、唯面与面、間ニ不容髮ノ嗣法ナリ。面授篇云、仏祖親ク自己ヲ面授スルナリ。正当恁麼ノ時ヨリ面授仏ノ面授仏ニ面授スルナリ。又

大論、諸仏皆以實相為師。又經ニ以般若波羅密相應一句、教菩薩摩訶薩二間、為吾弟子事ト。此外正法眼藏〔□□□□〕ノ正法ヲ説キ玉フ。一々不レ違枚挙一。

諸禪師方御拝覽候事故、不及書出候。永平古仏只面授ハ形儀ノミト仰セラレシコトハ、終ニ見出シ不申候。先師専ラ此宗旨を唱へしを面授を破スルト申ハ、永平古仏ヲ怨敵ニ致スト申もの。宗門ノ大罪人ニ御座候。永平古仏上堂云、仏々授手、祖々相伝。相傳箇ノ什麼一ヲカ、授手箇什麼一ヲカ。要レ知落處一ヲカ。三世諸仏歷代祖師当什麼破草鞋破木杓一。若又擬議、永平在「你脚底」。汝等是ヲモ面授ニ違背し面授ヲヤフルソシルト云フ乎。以是今先師面授ヲ唱ルヲ邪法ト云ハバ、永平在「你脚底」、非「永平下ノ人」。不畏之甚キモノナリ。

右大略彼者ケ申上候處、取色致申上候。一々答斥仕候義ハ前ニ呈上可仕候。彼等か申上候義ハ皆々我道人情ニ而申上面授ハ只面對ノ形儀ノミをいふか。宗義ハ如是。大凡嗣法三僧錄次第明鑑如日月。一見ニ令照彼被遊候事、逐一不及申上候故、大意ノミを言上仕候。伏願為大法、照亮々々、誠恐々々

一、此度、道鑄願状之趣ハ、右ノ書籍共、御公儀之御條目
并宗祖道元禪師之家訓ニ違背候邪法故、為ニ大法ノ、滅板奉レ
願ト書キ上ヶ候得共、全ノ不レ依レ法。唯タ代ニ^テ卍山ニ為レ報ンカ意
恨ニ之害心ニ而御座候。其故ハ、卍山自作之対客閑話、洞門
衣枷集等ニ、一師印証面授等之事、大ニ致錯解置候ヲ天桂注
解之内ニ破斥仕候故、其冤讐ニ而御座候。右キ為ニ揀別ノ
彼此之要文ヲ揚ケ対弁仕事如左。

一、卍山、衣枷集〔六丁〕曰、天童淨老所付嗣書、及明全
和尚所伝血脉、現今鎮永平室内、為從來法寶云々。

▽天桂報恩編〔十一丁〕曰、或ガ言、天童淨老所付ノ嗣書
及明全和尚所伝ノ血脉、現今鎮^ノ永平ノ室内ニ、為^ト從來ノ法
寶ト。固ヨリ夫永平古仏、入^テ淨翁ノ室ニ、有^ニ授受底標式^一、
皆是表信ノ化儀ニシテ乃至江湖ノ宗風、囁累伝付、皆拈^ニ本
來無物^ヲ、各自ニ闡揚ス。更ニ無下拈^ニ出^シ于禪板、机案、蒲
団、杖払ノ破什器^ヲ、將^チ來^テ累^ス中兒孫^ヲ。問、又之レ有ルモ、
將^ニ燒却^シ去^シト、不^{ノミ}曾受用セ耳。吾ガ上祖永平古仏之於^モ
天童淨老^ニ、猶如^ニ達磨大師付^{スルカ}衣法^ヲ于可大師^ニ。唯是彼
此、易^テ地^ヲ而然^{ルノミ}而已。如今言下鎮^ノ永平ノ室内ニ為^ト從來
ノ法寶^ト者ノハ、何^{ソヤ}耶。莫^レ使^{ムル}「吾^カ曩祖^ヲノ言^ハ不^レ能^レ流^ニ
芳^ヲ百世^ニ、反^テ又遺^ト臭^ヲ万年^上」。粵^ニ有^ニ仏祖的々相承三世不
改一枚嗣書^一、老僧為^{メニ}汝試開顕^{スル}。看^ヨ。触目現前、脫
体無礙、青山不^レ老、白雲無^レ根、江南地暖ニ、塞北天寒

シ。誰争ニ正傍^ヲ、焉^ソ論^ニ断続^ヲ。乞勿ニ差過^一。然モ亦正法眼
藏^ノ中、有^ル或^ハ嗣書、或^ハ伝衣、尊ニ重シ之^ヲ、珍ニスル敬之^ヲ、苦
口丁寧ノ慈誨^上者^ハ、是^レ為^{メニ}不信根^ノ人^ハ、且^ク止^レ啼^之黃葉^ニ
而^レ令^レ知^レ有^ル「^ヲ仏法正伝之所^ニ由^テ來^一耳。其^ノ中、句句
言言有^ニ祖師^ノ活眼睛^一。宜^ク招^テ遊魂^ヲ、其^レ照^上鑑^ス之^ヲ。
右、天桂非^ニ敢^テ好^ニ弁^ヲ。只是欲^レ使^ト學人^ヲ本^ニ正理^ニ一片
赤心耳。加之抑揚謗褒貶者、知識為人ノ用處。故^ニ古人云、
一代時教總魔說。或云、拭不淨故紙也云々。

一、衣枷集〔七丁〕嗣法未^タ必^{シモ}拘^ニ悟未悟^ニ也。可^レ知^シ。
今時以^テ些^々ノ知見^ヲ、漫^ニ自称^レ悟^ト從^ニ心^ノ所^ニ發^{スル}、毀^ニ破^シ
仏祖^ノ正規^ヲ、甘^テ成^ル下凡^ノ慢人^ト者^ハ何^ソ不^レ思^レ之耶。孔聖
有^レ言^ル「云^ク民^ヲハ可^レ使^レ由^レ之、不^ト可^レ使^レ知^レ之^ヲ。説^ク者^ノ
云^ク、聖人設^レ教^ヲ非^レ不^レ欲^セ人^ノ家^くニ喻^シ戸^ニ曉^ン「^ヲ也。
然^モ不^レ能^レ使^ル「之^ヲ知^一。但^タ能^ク使^ル「之^ヲ由^レ之^ニ爾[。]嗣
法^モ亦^タ如^シ是^ノ。不^レ能^ハ爾[。]使^ル「人^ヲ面面悟^リ、箇箇了^セ但能^ク
使^ル由^ラ一師面授之正規^ニ爾[。]

右一段、天桂所見^ハ、大ニ使^ニ學人^ヲ生^セ怠慢^ヲ害言^{ナリ}。面授
嗣法ハ開仏知見ノ印証ナリ。然ルニ未^レ拘^ニ悟未悟^一、使^レ由^ニ
面授儀規^ニ爾ト云則、印証ノ道理、不^レ相^一聞也。此ノ故ニ
滴卷一〔四十二丁〕或人觀^テ古仏面授ノ篇^ニ云^ヲ釈^迦仏正^ク見^ニ
迦葉尊者^ヲ、迦葉尊者親見^ニ阿難尊者^ヲ。阿難尊者面礼^ニ迦
葉尊者^ノ仏面^ヲ。如^レ是唯面与面、面授面受、一祖一師一弟

子トノ不_二相_一面授_一、非_上ト_二仏々祖々_一。將ニ謂ヘリ。臭面築_二著_{スル}云、釈迦仏雖レ成_二道_{スル}于七仏已前_一、久嗣_二法_ス于迦葉仏_一。乃至迦葉仏嗣_二法_ス于釈迦仏_一。不レハ知_ニ此ノ道理_ヲ、不レ明_ニ仏道_ヲ。不レハ明_ニ仏道_ヲ、非_ニ仏嗣_ニ。乃至仏ノ言、過去ノ諸仏ハ是我カ弟子ナリト也。諸仏ノ仏議如レ是。看ニ之ヲ何ントカ。

一、衣襖集_{八丁}曰、投子、月泉、師資面授、一師印証明拵的証、如_ニ青天白日_ノ而議者、合_ニ眼_ヲ於盛昱_ニ、以_ニ自己_ノ暗昧_ヲ怪ム佗_ノ有_ル眼者_{ノヲ}。不_ニ亦_タ愚_{ナラ}乎。按_{スルニ}五燈會元、大陽ノ章云ク、師年八十、嘆_レ無_キ可_ニ以_テ繼_ク者_ノ、遂_ニ作_レ偈、并_ニ皮履布直裰、寄_ニ浮山_ノ遠禪師_ニ、使_ニ為_メ求_ニ法器_ヲ。偈_ニ曰、楊廣山前艸、□_レ君待_ニ備_ニ。異苗繁茂_ノ處、深蜜_ニ固_ニ靈根_ヲ。偈_ノ尾_ニ云、得法_ノ者、潛_ル衆十年_ニ方_ニ可_ニシ_ト闡揚_ス。遠拝_ノ而受_{レクト}之_ヲ。永平紀年錄_ニ云ク、師_ニ服_ニ侍_ノ太白_ニ前後四載。淨公一日、語_レ師_ニ云ク、世_ニ言_フ大陽絕_レ嗣_ヲ、太_タ惑_{ヘリ}矣。五灯、浮山ノ章_ニ、言_フ大陽ノ明安無_シ嗣_者、所以付_中直裰皮履_上者_ハ、作者謬妄_{ナリ}也。大陽之嗣法七人、興陽ノ剖、羅浮ノ如、雲頂ノ鵬、乾明ノ聰、白馬ノ喜、福嚴ノ承、投子ノ青也。而_ヲ猶_ヲ言_下由_レ無_キ嗣_者、託_ニ法遠_ニ以_テ待_ニ來者_ヲ。可_シ哂矣。義青最少_シ、速_{カニ}嗣_ハ恐_ク有_レ難。是以預付_ニ法遠_ニ、以_テ記_ニ義青_一、取_ニ証_ヲ於他家_ニ、其_ノ旨深_シ矣。大陽ノ智通明白之所_{ナリ}致。後之撰_{スル}

伝燈_ヲ者剽_ニ掠_シ典故_ヲ、誣_ニ謾_{スル}先德_ニ。云_レ爾。永平錄中、有_ニ大陽投子問答_ニ、其_ノ証_シ也。永平廣錄第九卷、頌古ノ部_ニ云_ク、投子_ノ青禪師、執_ニ侍_{スル}大陽_ニ三年。大陽一日問_フ師_ニ外道問_フ仏_ニ、不_レ問_ニ有言_ヲ不_レ問_ハ無言_ヲ。世尊良久_ス。如何。青擬_レ對_{ント}。陽掩_ニ青_ノ口_ヲ。青了然_ト開悟。便乃礼拜。陽曰_ク、汝妙_ニ悟_ニ玄機_ヲ耶。青云_ク、設_ヒ有_ルモ也須_ニ吐却_ス。時資侍者、旁_ニ立_ク、青華嚴、今日如_ニ病_ニ得_レ汗_ヲ。青回顧_ノ云_ク、合_ニ取_{セヨ}狗口_ヲ。頌_ニ云_ク、縱_ヒ雖_レ掩_レ口_ヲ、何_ソ如_レ鼻_ニ。設_ヒ有_ルモ未_レ呑_ハ、吐_フ豈_ニ勞_{セヤ}。為_レ子_ト代_レ師_ニ宗派遠_シ。青天使_ニ電_ヲ激_セ星旄_ヲ。右考_{寸ハ}三書_ヲ則、投子年少_シ、早_ク受_ニ大陽_ノ密付_ヲ而大陽屬_{スル}潛_レ衆_ニ十年之証_ヲ於浮山_ニ耳。全_ク非_ニ代付_ニ也。此段、一線於_ニ証道歌直截_ニ、而破下以_ニ此偽撰_ニ汚_レ中辱_ニ開祖道元禪師_上。

一、衣襖_二十_丁有面授ノ權乘爾_ヲ云_テ、面授ノ實乘_ヲ不知此ノ段、天桂常ニ面授ノ權乘爾_ヲ云_テ、面授ノ實乘_ヲ不知於度外_ニ。恰如蛇在竹筒不得縱曲。

一、道鏞此度、嗣書合血之事、開山真筆ニテモ天桂不全肯ト言_テ、開山ノ家訓ヲ違犯ト第一ノ過罪ニ申シ立_□由此ハ天桂報恩編_{十一丁}曰、正法眼藏嗣書ノ篇_ニ、有_ニ合血之事_ニ。決_ノ後人ノ妄添_{ナル}。古仏豈_ニ有_{シヤ}恁麼_ノ怪說_哉。縱_ヒ古仏ノ真筆_{ナル}モ、老僧全_ク不_レ肯_ワ、況_{シヤ}乎転写_シ來_ル者耶_ヲ。

云々。此「正法眼藏嗣書」篇曰、洞山下ノ嗣書者異「臨濟等」

書ケルニ。其故ハ青原高祖親ク曹溪ノ机前ニメ而自「手指」出「淨

血」、「合」曹溪之指血「相伝來」。故「勝レリト」臨濟等ニ也。故ニ言

不^レ肯。何則、正法眼藏仏道篇ニ云、若言「五派門風別ナリト」

者、不^ニ是レ仏道^ニ、不^ニ是レ祖道^ニ。魔党畜生也ト。已ニ如レ是

痛呵責^{玉フ}。尔ルニ何今日又曰ト自「手指」出「淨血」合「曹溪之

指血」書伝^{ケル}故「勝ト于臨濟等上哉」。縱ヒ雖「元古仏之真筆」、

如レ此説者、為人有時仮説ニメ而非「全ク実説」。又、菩薩善戒

曰、二指智和合不成菩提云々。依之云、全不肯也。如レ是見

破、是天桂自知見ニ御座候。

一、衣襪集〔二十丁〕曰、其ノ所謂、非「面授」而、仮令可^ニ

嗣法^ス則、雖「無量劫之後」、可^ニ嗣法^ス焉。不^レ可^ニ嗣法^ス

則、雖「半日ト」、雖^モ須臾^ト不^レ可^ニ嗣法^ス者^ノ不^ニ亦^タ明^{ナラ}乎。

右^ハ正法眼藏面授篇ニ承古禪師上堂云、雲門乃至當時馬大

師未得五年、黃檗自言不^レ見。當知。黃檗見處不^レ円。山僧

即不然。方可^レ承^ニ嗣雲門大師^ニ。祇如^ニ雲門入滅已得^ニ百余

年^ニ云々。

元禪師弁曰、馬大師未得五年ナルニ、馬大師ニ嗣法セズト

云フ。實不足哂。縱嗣法スヘクハ無量劫後トイヘトモ嗣法

スベシ。嗣法スヘカラサランハ、半日ナリトモ須臾ナリト

モ嗣法スヘカラス。承古、仏道ノ日面月面ヲ不知也。元禪
師之語、如此ナルニ、兀山錯解ノ面授ニ瓦合センタメニ非

面授而ノ四字ヲ添入ス。故ニ

天桂一滴卷一〔四十三丁〕曰、跋ノ面授ノ篇ニ云、其ノ所レ謂非^ニ
面授^ニ而、仮令可^ニ嗣法^ス則、雖^ニ無量劫ノ後ト可^ニ嗣法^スト
云々。此^ハ是レ古仏点^ニ檢^{スル}承古ニ無^ニ嗣法之眼^ニ之文也。而

今併^ニ見^{スハ}于本書^ニ則、贅^{スル}乎非面授而ノ四字^ヲ者ノハ、何^{ソヤ}

歟。僅^ニ雖^ニ四字^ト是謗^ニ正法輪^ヲ。其ノ人或時云、雖^ニ一字^ニ加^ハ

私言^ヲ欺^{スハ}仏祖^ノ元意^ニ則、諸仏列祖天神地祇冥罰不^レ可^レ

免^ル焉。然^ハ則、筆人^ノ錯^テ闇入^{スルナランカ}乎。不^レ若審^{ツレセンニハ}

之^ヲ。

右之外、一滴、報恩編之内、面授嗣法穿鑿無之候。然ルニ

依開山之家訓違背絶板と有之ハ、無体千万ニ奉存候。兀山

一生権門化義之事耳。開山之本意之様ニ被申置候故、天桂

不得止、実乗者、仏法根元面授之本旨ト、仏經祖錄ヲ以テ

証拠トシ顯申候。権法ハ実法ニ依ル故ニ、権実円具之法門

ヲ明ス外、他無ク候。

一、御條目之写定

一、嗣法了畢之僧徒、經二十五年之臘而可有伝衣事。

一、師資面授、一師印証者為道元禪師之家訓、自今以後
何之寺院江雖令移住、最初之三物一生全可帶之、師資
相承之外、以他人附法停止之事。

一、伝法之僧入院節者、嗣書除之血脉大事可重授事。右者永平、總持寺就願被仰出之。向後一宗之僧侶堅可相守。此旨若違犯之輩於有之者、可為曲事者也。

元禄十六年八月

本彈正印
阿飛驛印
永伊賀印
丹後 印
但馬 印
佐渡 印
相模 印
豊後 印

迦仏、西天四七、東土二三、至今日嫡々相承、師資面授、一師印証、不及弁之。道實乘則、有情非情同時成道、一切衆生悉有仞性、如來常住無有變易、無前無後、非聯非並、自甚大久遠至未來際、無始無終、一師印証、全無第二人。唯仏與仏、唯面與面、間不容間、師資面授也。畢竟所謂權實雖異不思議一而權實無別。雖然無實見則、不知無別故、元古仏示開仏知見之實乘。故而不說「面授之形儀」。此故老人亦舉唱元古仏之本旨也。其本旨者元古仏言、親會見といふハ此見仏なり。見三十二相にあらず。見三十二相は、誰が境界を隔てん。此見仏の道理をしらざる人天声聞のたぐい多かるべし。又云見仏もし衆生の見仏にひとしきハ見仏にあらず。見仏もし衆生の見仏の如なるハ見仏錯なりと。仏曰、若以色見我、以音聲求我、是人行邪行、不能見如來也。以是見則、面授ハ非面對之行儀也。又面授篇仏祖親自己を面授するなり。正当恁麼の時より面授仏の面授仏に面授するなりと。又大論、仏皆以実相為師。又經以般若波羅蜜相應一句、教菩薩摩訶則、為吾弟子事。如此說示「シエラ」權實一門正法也。不

永平寺
總持寺

右ノ御條目ニ違背と申者、代付之証拠ヲ引故ニ而、可然御座候得共、天桂本意者対不対共ニ師資心ニ道通事ヲ示サン為ニテ代付面對之穿鑿ニテハ無御座候。

一、吾宗、師資面授一師印証者、諸仏之本源、諸祖命脈、人々骨髓也。三世諸仏之転法輪モ不出此中。雖當世之御條目、為護之法則ナリ也。然則開祖之家訓、官家之御條目、無二無別而人々無レ處回避之大法也。誰背之。誰破

遑枚挙。

○大凡、開示悟入者仏祖出世之本懷、一師印証標拠也。然ニ云下、授記嗣法、未必拘「悟未悟」。但能使レ由ニ一師面授之正規、爾上則、仏祖惠命依ニ什麼ニ相続、以ニ什麼ニ印証。是云一言亡レ國歟。大ニ使ニ學人梁跟過言也。老人依之不得レ止沙ニ汰之。

【以上】

尚今回、陽松庵所蔵資料の読解に際し、足利市在住の郷土史家菊地卓先生（足利市文化財委員・足利南高等学校教諭）と斎藤徳雄氏の助言とご協力を頂いた。記して感謝申し上げます。

平成十三年七月五日